

分署巡查派駐所又ハ駐在巡查巡行巡查ノ中ニ届出且市役所局長役場町村役場ニモ届出ヘン
 前項ノ場合ニ於テハ仍左ノ諸項ヲ遵守スヘシ
 一 患者ニ直接シタルト否トヲ問ハス出張吏員又ハ醫師ノ許可ヲ得ルマテハ宿泊人ノ外出ヲ停メ及茶宿人
 ヲ謝絶スルコト
 二 患者室内ノ衣類物品器具等ハ出張吏員又ハ醫師ノ許可ヲ得ルマテハ他ニ移スヘカラスルコト
 三 患者ノ上リクニ厠ニハ出張吏員又ハ醫師ノ許可ヲ得ルマテハ他人ヲ上ラシメサルコト
 四 右ノ外出出張吏員又ハ醫師ノ指示ニ從ヒ豫防消毒法ヲ行フコト
 第二十二條 便所ハ毎日清潔ニ掃除シ尿尿管及其周圍ニハ石灰酸又ハ石灰十分ニ撒布スヘシ
 家庭内及家屋ニ沿ヒタル下水溝渠等ハ毎日通ク掃除シ惡水汚物ヲ停滯セシムヘカラス
 第二十三條 客室定員ノ割合ハ宿泊人一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス但同行者ハ此限ニアラス
 客室ノ番號並定員ハ其出入口ニ揭示スヘシ
 第二十六條 中第二十一條ノ下ニ第二十二條ノ五字ヲ加フ
 第三十條 第二十二條第二十四條ハ木賃宿ニモ之ヲ適用ス
 第三十一條 中第三十條ヲ犯シタル者ノ下ニ及第二十二條ヲ犯シ官ノ督促ニ應セサル者ノ十九字ヲ加フ
 ●縣令第十三號 明治二十一年一月十八日
 宿屋取締規則施行ニ付従前ノ營業者ニシテ引續キ營業スルモノハ明治二十一年三月申更ニ免許鑑札ヲ受クヘ
 前項ノ營業者ニ於テ本則第十七條第十九條第二十條第二十一條ノ制限ニ適セサルモノアルトキハ明治二十二
 年中改造修理スヘシ但改造スルトキハ本則第二條ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 木賃宿營業ハ松江ニ於テ左ノ箇所ニ限リ免許ス但在來ノ營業者ハ此限ニアラス
 中原町ノ中字土字及字百姓町

廿二年縣令
第百四十一
號

石橋町
新町

●縣令第四百一十一號 明治二十二年十二月二十八日
 明治二十一年一月縣令第十三號松江市内木賃宿營業免許地中新町ノ下「及大字松江分字元山大字乃木字元山並
 字北ノ原」ノ二十一字ヲ加フ

●縣令第十一號 明治二十一年一月十八日
 營業人力車取締規則
 (別紙)

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲ抱ヘ車ヲ輓カシメ又ハ自己ノ所有車若クハ借車ヲ輓キ營業スルモノヲ云フ
 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受ク
 ヘシ但自己ノ所有車若クハ借車ヲ輓キ營業セントスル願書ニハ第十八條ニ觸レサル旨ノ書面ヲ添フヘシ
 輓子ヲ抱ヘ營業スル者ハ輓子ノ族籍住所氏名年齢ヲ記シ第十七條第十八條ニ觸レサル旨ノ書面ヲ添ヘ一人
 毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ
 第三條 營業者ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ要ス
 第四條 鑑札ハ毎年一回三所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ其檢印ヲ受ケサルモノハ無効ナルヘシ但本
 條及第五條ニ關スル檢査期日並場所ハ所轄警察署又ハ分署ノ定ムル所ニ從フヘシ
 第五條 車体ハ毎年二回三所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ經其証ヲ受クヘシ
 新造改造又ハ買受讓受ヲ爲シタルトキハ定期ニ拘ハラズ速ニ届出檢査ヲ受クヘシ
 第六條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

●第九類 ○警察 ○營業

廿三年縣令
第百四十一
號
廿五年縣令
第百四十一
號
廿六年縣令
第百四十一
號

一 轉居改氏名等ニヨリ車体検査証並鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
 二 車体検査証又ハ鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ其文字不分明ニ至リタル時
 第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出車体検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
 一 廢業又ハ廢車シタル時
 二 車ヲ賣渡シ又ハ譲リ渡シタル時
 三 輓子ヲ解備シ又ハ輓子ノ失踪死去若クハ第十八條ニ觸レタル時
 第八條 車体検査証並鑑札ハ貸與スヘカラス
 第九條 車体検査証ハ車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ
 第十條 検査証アル車ト雖モ第十六條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ
 第十一條 營業者ハ出願ノ際身元保証金トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ但輓子ヲ抱ヘ營業スル者ハ輓子一人毎ニ金壹圓ヲ納ムヘシ
 身元保証金ハ適宜公債証舊國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得
 第十二條 身元保証金ハ廢業又ハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ
 第十三條 身元保証金ハ營業者若クハ其輓子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ
 第十四條 身元保証金ニ欠額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ其欠額ヲ納メサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
 第十五條 營業者ハ検査証及鑑札各一個ニ付手数料金二錢ヲ所轄警察署又ハ分署ニ納ム可シ其書換及再渡ノトキ亦全シ
 第二章 車体ノ構造

第十六條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 一 一人乗ハ横幅内法一尺六寸以上二尺未満二人乗ハ二尺以上ニシテ母衣ノ高サハ腰掛ヨリ三尺以上トシ其深サハ三尺五寸以上トス
 二 車体ハ黒漆塗地中張ハ革天鵝絨羅紗等ヲ用ウル事
 三 車体ニ同キ塗色ノ泥除ヲ備フル事
 四 車体ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組名及番號ヲ判明ニ記スル事
 五 黒色ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フル事
 六 不潔ナラサル滯留及膝掛ヲ備フル事
 七 組名及車体ノ番號ヲ記シタル細長提灯又ハ硝子灯ヲ備フル事
 第三章 營業者並輓子ノ資格及服裝
 第十七條 營業者輓子ヲ抱ヘ營業スル者ヲ除ク並輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ
 一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者
 二 其土地ノ路程ヲ熟知スル者
 第十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強盜強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニテラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ營業者輓子ヲ抱ヘ營業スル者ヲ除ク又ハ輓子トシテ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦全シ
 第十九條 就業中ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 一 着服ハ紺色ノ法被股引又ハ筒袖股引但暑中及ヒ雨雪泥濘ノ時ハ半股引ヲ用ウルモ妨ケナシ
 二 冠リ物ハ帽子又ハ笠笠頭形トス
 三 雨具ハゴム引又ハ桐油製其他羅紗類
 第四章 就業制限
 第二十條 就業中ハ鑑札ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見シコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ
 ●第九類 ○警察 ○營業

第二十一條 類冠リ鉢巻其他不体裁ノ形装ヲ爲スヘカラス

第二十二條 桐油又ハ布片ノ類ヲ車体ニ纏フヘカラス

第二十三條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十四條 乗客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ職セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス且單ニ町村名等ヲ指定シテ乗車セシメタル時ハ其町村ニ於テ乗客ノ到ルヘキ所ニ着スヘシ

第二十五條 駐車場ノ外ニ人力車ヲ置クヘカラス但乗客用掛ノ爲メ一時路傍ニ駐車スルハ此限ニアラス

第二十六條 乗客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ輓入ルヘカラス

第二十七條 制止ヲ肯シセスシテ人ノ群集セタル場所ニ輓入ルヘカラス

第二十八條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十九條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 人力車ハ道路ノ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並他車輛重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三 貨車ニ對シテハ空車ニ行逢ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ且街角ヲ過シルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲナスヘシ

第三十二條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十三條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十四條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十五條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ還附シ其主分明ナラサルモノハ現品ヲ添ヘ速ニ最寄警察署分署巡査派出所又ハ駐在所ノ中ニ届出ヘシ

第五章 車賃

第三十六條 車賃ハ組合ニ於テ之ヲ定メ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ但分署ノ所轄内ニアル者ハ該署ヲ經由スヘシ

第三十七條 車賃及里程表ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第三十八條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ車賃定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第三十九條 車賃ハ到着ノ上請求スヘキモノトス但乗客ノ便宜ニ依ルハ妨ケナシ

第四十條 乗客ニ於テ單ニ行先キヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ車賃ヲ計算スヘシ

第六章 駐車場

第四十一條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場 一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノト云フ

二 私設駐車場 一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ

第四十二條 公設駐車場ハ警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定メ標示スルモノトス

第四十三條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取リ出車ニ妨ケナキヲ要ス

第四十四條 駐車場ヲ私設セントスル者ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十五條 私設駐車場ニハ組合取締人ノ捺印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第四十六條 駐車場ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥ヲ存スヘカラス

第七章 乘載制限

第四十七條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ五

年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十八條 左ニ記載シタル者ハ乗載スヘカラス但相當官吏ノ指命ヲ受ケタルトキハ此限ニアラズ

一 六種傳染病、疥癬、癩病患者及乞食体ノ者

二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品

三 車体外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第八章 營業組合

第四十九條 營業者ハ警察署又ハ分署ノ管轄區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ但土地ノ狀況ニ依リ其組合ヲ併セ又

ハ分離セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第五十一條 營業者ハ組合ニ入ラサルヲ得ス又組合ニ於テハ其加入ヲ拒ムヲ得ス

第五十二條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十三條 組合ニハ正副取締人各一人ヲ置クヘシ

取締人ハ組合營業者中ヨリ公選シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルヲ得ス

一 年齢二十五年以上ニシテ相當ノ資力アル者

二 組合營業者ニシテ所有ノ人力車アル者

三 營業上ニ關スル規則類ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第五十五條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強窃盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルヲ得ス其他ノ犯罪

ト雖モ監視中ノ者亦全ク

第五十六條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 營業ニ關スル規則命令書ヲ營業者ニ通知スル事

二 營業ニ關スル事項ニ付キ組合會議ヲ開ク事

三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ副申スル事

四 營業者及輓子ノ名簿ヲ製シ増減異動アル毎ニ之ヲ加除整理スル事

五 組合ニ關スル費用ヲ取立テ及之ヲ仕拂フ事

六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ組合ニ報告スル事

七 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十七條 取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ改撰セシムルコトアルヘシ

第九章 罰例

第五十八條 第二條第五條第六條第七條第八條第四十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料

第二十一條第三十二條ヲ犯シ制止ヲ肯ンセサル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料第九條第二十條第二十四條第

二十六條第三十七條第三十八條第四十七條第四十八條ヲ犯シタル者及第十九條ヲ犯シ官署ノ督促ニ應セサ

ル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

前項ノ外刑法ニ正條アル者ハ各其本條ニ依リ處分セラルヘシ

車賃及里程表雕形

何地組合
取締ノ印

何郡何町何番地族籍

人力車營業人(又ハ何郡何町何某輓子)

何 某

何地組合車賃里程表

里	程	晝		夜	
		晴	雨	晴	雨
何郡何町ヨリ	何里何丁	何	全	全	全
何郡何町マテ	何里何丁	何	全	全	全
何郡何村ヨリ	何十何丁	何	全	全	全
何郡何村マテ	何十何丁	何	全	全	全
何郡何宿ヨリ	何里何十丁	何	全	全	全
何郡何宿マテ	何里何十丁	何	全	全	全
何ノ外一里ニ付		何	全	全	全

●縣令第五十一號 明治二十三年四月二十二日

●島根縣令第三號 明治二十四年一月十日

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第十一條第十二條第十三條第十四條ヲ削除ス

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則左ノ通改正削除ス

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

第三十六條 車賃ハ警察署又ハ分署ノ所轄内ニ於テ最寄同業者協議ノ上之ヲ定メ該署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 第十六條七項「組合名及」ノ四字第十七條一項「年齡滿十八年以上」ノ十一字第十八條第十九條

一「項」暑中及雨雪泥濘ノ時ハノ十一字第四十五條第四十八條一項「及乞食體ノ者」ノ六字第四十九條乃至第

五十七條第五十八條中「第七條」ノ三字車賃及里程表離形組合取締ノ押印式ヲ除ク

●島根縣令第三十六號 明治廿五年三月廿一日

●島根縣令第二號 明治廿六年一月九日

●島根縣令第二號 明治廿一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●島根縣令第二號 明治二十一年縣令第十一號營業人力車取締規則第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

●第九類 ○警察 ○營業

廿一年
廿二年
廿三年
廿四年
廿五年
廿六年
廿七年
廿八年
廿九年
三十年
三十一年
三十二年
三十三年
三十四年
三十五年
三十六年
三十七年
三十八年
三十九年
四十年

ノ者乙署所轄地ニ轉住シタル時ハ兩署ニ届出ヘシ
第四條 遊妓ハ貸席ニ住居シ及其居室ニ於テ營業スルコトヲ得ス但娼妓ヨリ兼業スル者ハ此限ニアラス
第五條 甲署所轄地ノ者ニ泊以上乙署所轄地ニ赴クトキハ其行先地及往復日數ヲ甲署ニ届出ヘシ
第六條 警察官吏ニ於テ營業承認ノ証ヲ検査スルコトアルトキハ何時モ之ヲ示スヘシ
第七條 第二條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
附則

從來ノ營業者ハ本則第二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス但所持ノ鑑札ハ速ニ所轄警察署ニ返納スヘシ
●縣令第四十四號 明治二十一年四月十八日
貸席及娼妓營業取締規則別紙ノ通相定ム

但明治十六年甲第百六號布達娼妓及貸席渡世取締規則ハ廢止ス
(別紙)

貸席及娼妓營業取締規則
第一章 總則

第一條 貸席營業ハ左ノ免許地内娼妓營業ハ其貸席内ニ於テス可シ但娼妓ハ免許地ニ接スル港河ノ船舶ニ赴キ營業スルハ此限ニアラス
免許地

- 出雲國 松江分字伊勢宮
- 全國 安來町
- 全國 三保關
- 全國 杵築舊越前市場ノ内
從前豫來ノ地
- 石見國 温泉津

全國 濱田片原町ノ内宇野子町
原井村ノ内宇原井田
隱岐國 西郷市街

第二條 貸席又ハ娼妓營業ヲ爲シントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第三條 貸席願書書式第一號ニハ客席圖面及保證人二名以上ノ保證書書式第二號ヲ添フヘシ
娼妓願書書式第三號ニハ事情ヲ詳記シ親戚親戚ナキハ故舊連署本籍官署ノ副書及保證人二名以上ノ保證書書式第四號ヲ添フヘシ

第四條 廢業死亡逃走シタルトキハ直ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ但死亡逃走ノトキハ相續人又ハ親戚又ハ貸席主ヨリ届出ヘシ

第五條 鑑札ヲ亡失毀損シ其他鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第六條 甲警察署所轄内ヨリ乙警察署所轄内ノ免許地ニ轉居スルトキハ甲署ノ添書ヲ受ケ乙署ニ届出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第七條 本則ニ關スル願書及取締人連署ニ且娼妓營業ニ關シテハ貸席主連署スヘシ

第二章 貸席
第八條 貸席營業者ニ於テ娼妓ヲ寄寓セシムルトキハ親戚(親戚ナキ時ハ故舊)連署ノ契約書ニ取締人ノ奥印ヲ受ケ置クヘシ

第九條 揚代金其他飲食料等ノ抵償トシテ私擅ニ客ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス

第十條 故ナシ娼妓ヲ免許地外ニ出スヘカラス止ムヲ得ス一泊以上他行スルトキハ取締人ノ承認書ヲ得之ヲ携帶セシムヘシ但此場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出シムヘシ

第十一條 營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ夜間ハ標燈ヲ以テ之レニ代フヘシ

第十二條 客ノ需メニアラサル酒饌ヲ出シ又ハ之ヲ強ユヘカラス

●罰則 ●警察 ●營業

- 第十三條 浴室便所及臥具等ハ常に清潔ニスヘシ
 - 第十四條 娼妓揚代金ハ同業者協議ノ上之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 - 第十五條 婦女ヲ僱使スルトキハ其族籍氏名年齢ヲ記シ備入レノ日（通動又ハ日傭ニ係ルモノハ其約東ノ日）ヨリ三日以内所轄警察署又ハ分署ニ届出解備シタル時ハ其旨全署ニ届出ヘシ
 - 第十六條 遊客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ拒絕スヘカラス
 - 第十七條 癩毒感染中ノ娼妓ヲシテ客ニ接セシムヘカラス
 - 第十八條 遊興ヲ勸ムル目的ヲ以テ廣告等ヲ爲スヘカラス
- 第三章 娼妓
- 第十九條 娼妓ハ貸席ニ寄寓スヘシ
 - 第二十條 娼妓ハ年滿十五年以上ノモノニ限ルヘシ二十年未滿ノ者ハ營業期限ヲ滿三年以下トス其期限ノ滿ナタルモノハ貸席主トノ契約如何ニ拘ハラズ鑑札返納スヘシ
 - 但寓所ヲ轉換スルモ前後通算シテ本條ノ期限ヲ超フルコトヲ得ス
 - 第二十一條 故ナク免許地外ニ出ヘカラス止ムヲ得ス一泊以上他行スルトキハ取締人ノ承認書ヲ携帯スヘシ但此場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 - 第二十二條 甲地ヨリ一時乙地ニ出稼セントスルトキハ甲地取締人ノ承認書ヲ得甲乙所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 - 第二十三條 別ニ定ムル規則ニ從ヒ癩毒有無ノ検査ヲ受リヘシ
 - 第二十四條 病ニ罹リ貸席内ニ於テ治療シ難キモノハ其事由並ニ行先地ヲ記シ醫師ノ診察書ヲ添ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出歸席シタルトキハ其旨届出ヘシ
 - 第二十五條 疾病其他ノ事故ニ依リ定期ノ癩毒検査ヲ受ケサル者ハ更ニ検査ヲ經カレハ就業スルヲ得ス
 - 第二十六條 廢業スルトキハ癩毒有無ノ検査ヲ受ケ廢業證書ニ無毒ノ證書ヲ添フヘシ

- 第二十七條 貸席主ニ於テ正常ノ理由ナクシテ轉寓廢業ヲ拒ミ其他非理ノ取扱ヲナストキハ警察官吏ニ訴出ルヲ得
 - 第二十八條 娼妓ニシテ癩妓ヲ兼ムル者ハ其營業ハ貸席内ニ限ルヘシ
- 第四章 取締人
- 第二十九條 貸席及娼妓營業者ハ免許地毎ニ取締人一名若クハ二名ヲ撰定シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケシメ但警察署又ハ分署ニ於テ不適當ト認ムルトキハ改撰セシムルコトアルヘシ
 - 第二十條 取締人ハ貸席營業者ニシテ丁年以上ノ男戶主ニ限ルヘシ
 - 第二十一條 取締人ハ貸席及娼妓ノ名簿ヲ製シ族籍寄留地氏名年齢起業ノ年月日等ヲ詳記シ異動アルトキハ訂正スヘシ
 - 第二十二條 營業上ニ關スル諸達ハ貸席及娼妓ニ廻付シ心得違ナキ様注意スヘシ
 - 第二十三條 本則ニ關スル願届書ニハ取締人連署スヘシ其連署ヲナス場合ニ於テハ事實ヲ取調ヘ不都合ト認ムルコトアルトキハ其旨ヲ副申スヘシ
 - 第二十四條 取締人ノ給料諸費及年期ハ貸席及娼妓營業者ニ於テ取極メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ケシメ
 - 第二十五條 娼妓出稼ヲナシ又ハ止ムヲ得タル事故アリテ免許地外ニ宿泊ヲ要スル者アルトキハ承認書ヲ附與スヘシ
 - 第二十六條 給料諸費ハ毎月貸席及娼妓人員ニ割賦徵集シ其計算ヲ報告スヘシ
- 第五章 賦金
- 第二十七條 貸席及娼妓營業者ハ左ノ等級ニ從ヒ毎月賦金ヲ納ムヘシ
- 松江分免許地
貸席

- 一等 客室八間以上 賦金參圓
- 二等 全 五間以上全 貳圓五拾錢
- 三等 全 四間以下全 貳圓

- 娼妓
- 一等 揚代金八拾錢以上 賦金貳圓
 - 二等 全 七拾錢以下全 壹圓五拾錢
 - 三等 全 五拾錢以下全 壹圓
 - 四等 全 參拾五錢以下全 七拾五錢

前項外ノ免許地

- 貸席
- 一等 客室八間以上 賦金貳圓五拾錢
 - 二等 全 五間以上 全貳圓
 - 三等 全 四間 全壹圓五拾錢
 - 四等 全 三間以下 全壹圓

- 娼妓
- 一等 揚代金八拾錢以上 賦金貳圓
 - 二等 全 七拾錢以下 全壹圓五拾錢
 - 三等 全 五拾錢以下 全壹圓
 - 四等 全 參拾五錢以下全 七拾五錢
 - 五等 全 貳拾五錢以下全 五拾錢
- 第三十八條 營業ノ等級ヲ改メタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三十九條 賦金ハ毎月二十五日限リ取締人ニ於テ取纏ノ仕譯書ヲ添ヘ所轄警察署ニ上納スヘシ但本文期限前廢業又ハ期限後開業スルモノハ其時々上納スヘシ

第四十條 等級ヲ改メタルトキ十五日前ハ改等十六日後ハ舊等ノ賦金ヲ納ムヘシ

第四十一條 甲地娼妓乙地へ出稼中ノ賦金ハ仍ホ甲地取締人ニ差出スヘシ

第四十二條 十五日前廢業又ハ十六日後開業ノ者ハ賦金ノ半額ヲ納ムヘシ

第四十三條 娼妓病ニ罹リ休業シタルトキハ十五日前後ノ區分ニ依リ賦金ノ半額又ハ全額ヲ免除スヘシ

第六章 罰則

第四十四條 本則第一條第二條第四條第五條第六條第九條第十條第十五條第十六條第十七條第二十一條第二十二條第二十四條第二十五條第二十八條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條ノ懲戒ニ處シ仍ホ情狀ニ依リ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

第四十五條 過料金ハ言渡ノ日ヨリ三十日以内ニ納完スヘシ若シ限内納完セサルモノハ五拾錢ヲ一日ニ折算シ懲戒ニ換フ若シ其限内納ムルトキハ其經過シタル日數ヲ扣除シ懲戒ヲ免ス親屬其他ノ者代テ納ムル時亦全シ

第四十六條 懲戒ニ處シタル者ハ官ニ拘置シ相當ノ使役ニ服セシム

第四十七條 賦金ヲ怠納シタル者ハ營業ヲ停止ス但其金額ヲ納完スルトキハ解停ス

附則

松江和田見町ニ於テ目下貸席娼妓營業中ノ者ハ來ル明治二十三年中全地ニ於テ營業スルコトヲ許ス但今後家宅ヲ改造シ及一旦廢業ノ上更ニ起業スルモノハ此限ニアラス

(書式第一號)

貸席營業願

私義

貸席及娼妓營業取締規則ヲ遵守シ何種何町何番地ニ於テ何等貸席營業仕度候間御許可被成下度依テ客室圖面及保證人保證書相添此段奉願候也

年 月 日

原籍(寄留地)身分

何 誰印

年 齡

何地貸席取締人

何 誰印

何警察署長官氏名殿

又ハ

何警察署何分署長官氏名殿

(書式第二號)

保證書

右之者何町ニ於テ娼妓營業出願致候ニ付御許可ノ上本人ニ於テ若シ賦金並ニ(貸席ハ檢査所費用等トシ娼妓ハ檢査所療養費等トス)怠納スル時ハ私共ヨリ上納可仕此段保證仕候也

何 誰

年 月 日

原籍身分

何 誰印

全

何 誰印

何警察署長官氏名殿

又ハ

何警察署何分署長官氏名殿

(書式第二號)

娼妓營業願

私 儀

何々ノ事情ニ依リ何郡何町何番地居住貸席營業何某方ニ全居又ハ寄留シ貸席及娼妓營業規則ヲ遵守シ何年何月ヨリ何年何月マテ何年間何等娼妓營業仕度候間御許可被成下度依テ本籍官署ノ副署及保證人保證書相添此段奉願候也

原籍(寄留地)身分

何 誰印

年 齡

原籍身分

右何誰父母叔父叔母伯父伯母

兄弟又ハ故舊 何 誰印

右寄留貸席主 何 誰印

何地貸席取締人 何 誰印

何 誰印

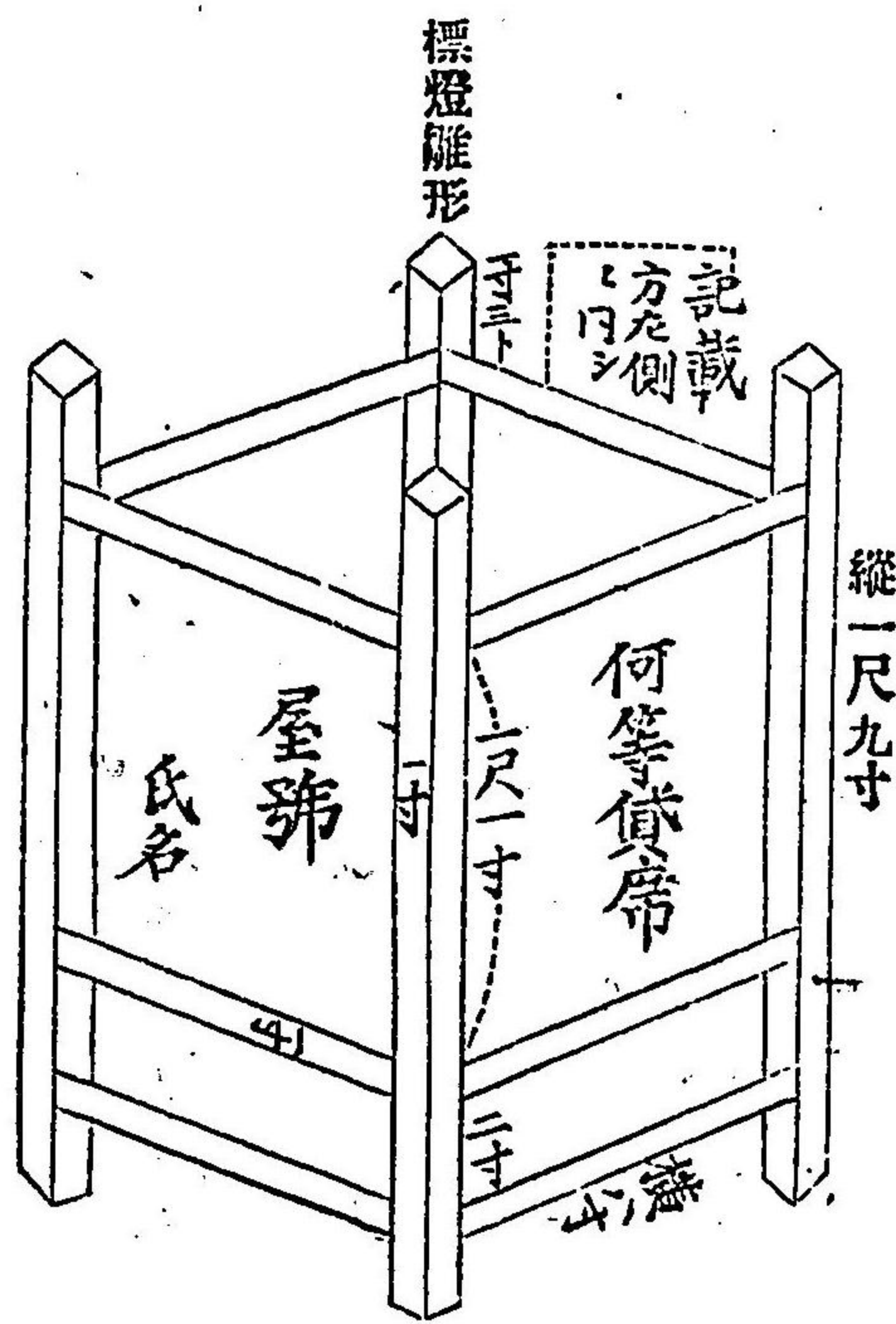
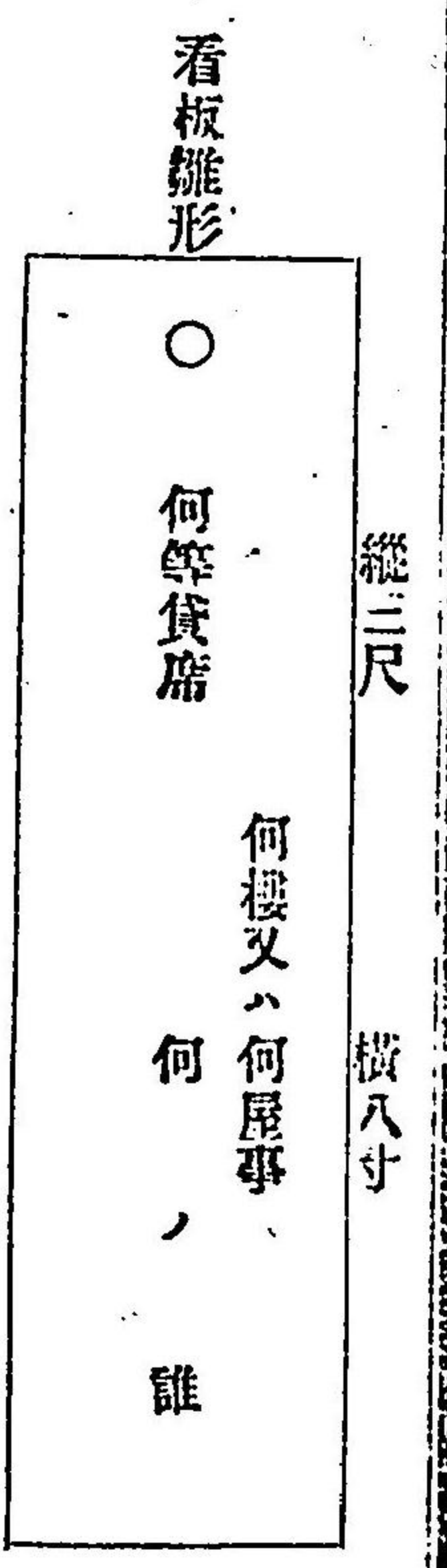
何 誰印

何警察署長官氏名殿

又ハ

何警察署何分署長官氏名殿

第九類 ○警察 C營業



●縣令第五十四號 明治二十一年五月十五日
 明治二十一年四月縣令第四十四號貸席及娼妓營業取締規則第四條但書左之通改正ス
 但娼妓死 逃走ノトキ 貸席主トシテ 届出ス

●縣令第九十九號 明治二十一年十二月十日

明治二十一年四月縣令第四十四號貸席及娼妓營業取締規則第四十四條ヲ改メ第四十五條第四十六條ヲ廢シ第四十七條ヲ第四十五條トス

●縣令第五十五號 明治二十二年六月七日
 明治二十一年四月縣令第四十四號貸席及娼妓營業取締規則第二十條中滿十五年以上トアルヲ滿十六年以上ト改メ

●縣令第六十六號 明治二十二年七月三十日
 明治二十一年四月縣令第四十四號貸席及娼妓營業取締規則中左之通改正追加ス

一 第五條第二項 營業ノ等級ヲ改メタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

一 第六章ノ第五章ニ第四十四條ヲ第三十七條ニ改メ第五章及第四十五條並改正第三十七條中第三十八條ノ五字ヲ削除ス

●島根縣令第三十九號 明治二十八年五月十七日
 明治二十一年四月縣令第四十四號貸席及娼妓營業取締規則中左ノ通改正追加ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十三條 客用ニ供スル便所ハ毎時清潔ニ掃除シ尿尿瀝及共周圍ニハ石灰酸又ハ石灰ノ十分ニ撒布スヘシ
 家屋内及家屋ニ沿ヒタル下水溝渠等ハ毎日過ク掃除シ惡水汚物ヲ停滯セシムヘカラス

第三十七條中第二十八條ヲ犯シタル者ノ下ニ第十三條ヲ犯シ官ノ督促ニ應セザル者ノ十七字ヲ加フ

●縣令第七十九號 明治二十二年六月十日

●第九類 ○警察 ○營業

彫刻師取締規則別紙ノ如ク相定ム
(別紙)

彫刻師取締規則

- 第一條 彫刻師トハ印章又ハ証券切手其他各種ノ印版ヲ彫刻又ハ鑄造シテ營業トスル者ヲ云フ
- 第二條 第一條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及營業種類ヲ詳記シ開業前所轄警察署又ハ分署ニ届出可シ
- 轉住改氏名其他身分上異動アル時又ハ廢業スル時ハ速ニ全署ニ届出可シ
- 第三條 營業者ハ注文明細帳及版下綴込帳ヲ備ヘ注文明細帳ニハ所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受クヘシ其紙數ヲ増減シタルトキ亦全シ
- 前項ノ帳簿ハ十年間之ヲ保存シ若限内亡失シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第四條 注文明細帳ニハ注文スル者ノ住所氏名年齢及注文ノ年月日並種類等ヲ詳記シ彫刻又ハ鑄造シタル印章ヲ氏名ノ上ニ押寫シ證券切手其他各種ノ印版ハ別ニ押寫シテ版下綴込帳ニ綴置キ後証ニ供スヘシ但版下綴込帳ニ編入スルモノハ注文明細帳ニ照合スヘキ符號ヲ付スヘシ
- 第五條 官署學校病院銀行會社等ノ注文ニ係ル者ハ確實ナル注文書ヲ取置キ第三條ノ帳簿ト共ニ保存スヘシ
- 第六條 印章印影等ヲ以テ字畫寸法全一ノ印章ヲ注文スル者アルトキハ字体若クハ寸法ノ幾分ヲ變更シテ彫刻又ハ鑄造シ注文明細帳ニ其由ヲ付記スヘシ
- 第七條 注文ヲ受ケル際不審ト認ムル者アルトキハ速ニ警察官吏ニ告知スヘシ
- 第八條 第二條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料第三條第四條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

從前ノ營業者ハ本則第二條第一項ノ届出ヲ要セス但所持ノ鑑札ハ速ニ所轄警察署ニ返納スヘシ

島根縣令第四號

明治二十六年一月九日

明治二十二年六月縣令第七十九號彫刻師取締規則中左ノ通改正ス

第二條

二項中同署ノ下ニ「又ハ駐在巡查ノ中」ノ八字ヲ加フ

第六條 印章印影等ヲ以テ字畫寸法同一ノ印章ヲ注文スルモノアルトキハ字体若クハ寸法ノ幾分ヲ變更スルコトアラサレハ彫刻又ハ鑄造スルヲ得ス其變更シタルモノハ注文明細帳ニ付記ス可シ

第七條 削除

第八條中第三條ノ下ニ「第一項」ノ三字ヲ加フ

島根縣令第五十五號 明治二十八年八月二十八日

古物商取締法及同法細則施行規則左ノ通定ム

本令ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

古物商取締法及同法細則施行規則

- 第一條 古物商取締法以下取締法ト稱ス第二條及第四條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ
 - 一 營業物品ノ種類及族籍住所從前ノ職業氏名年齢及營業所又ハ店舗ノ所在地並其住所ヲ移轉シ又ハ族籍氏名ヲ變更セシコトアル者ハ前住所移轉年月日舊族籍氏名
- 第二條 取締法第三條第十二條及古物商取締細則以下細則ト稱ス第三條第四條第七條第八條第九條第十條ノ願書ニハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ
- 第三條 取締法第四條第二項ノ願書ニハ賣主讓主ノ住所氏名年月日ヲ記載スヘシ
- 第四條 管理人ヲ附ク者ハ其願書ニ管理人ノ族籍住所氏名年齢從前ノ職業及其管理スヘキ營業所又ハ店舗並取締法第十五條ニ抵觸セリルコトヲ明記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

第九類 ○警察 ○營業

其族籍住所、氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 營業者行商又ハ露店鑑札ヲ受ケントスルトキハ頭書ニ自己又ハ家屬、雇人ノ別ヲ詳記シ家屬雇人ニ係ルトキハ氏名、年齢ヲ記載シ且鑑札ニ用ユヘキ別紙雛形ノ木札ヲ添付スヘシ

第六條 營業物品ノ種類ヲ變更セントスルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ノ免許ヲ受クヘシ但種類ヲ減セントスルトキハ其旨届出ヘシ

第七條 行商又ハ露店ノ鑑札ヲ亡失毀損若クハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其書換又ハ再渡ヲ受ケ廢止ノトキハ鑑札ノ消印ヲ受クヘシ

第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナルコトヲ發見セシ之ヲ買受ケヌ又ハ讓受ケサルトキハ直ニ最寄リ警察官吏ニ申告スヘシ

第九條 取締法第十條ノ品觸寫書ハ便宜編綴シテ簿冊ト爲スヘシ

第十條 品觸到達以後六ヶ月内ニ其寫書ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ就キ之ヲ寫取ルヘシ

第十一條 取締法第十一條ニ依リ物品ノ買賣交換ニ關スル事項ヲ記載スヘキ帳簿ハ別紙様式ニ倣ヒ調製シ紙數ヲ記載シテ檢印ヲ受クヘシ但檢印ヲ受ケタル帳簿ハ擅ニ其紙數ヲ増減スルコトヲ得ス

第十二條 前條ノ外物品貸與及ヒ預リ帳ヲ設ケ警察官吏ニ於テ物品及借主、預ケ主ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ

第十三條 行商、露店、市場ニ於テ買賣、交換ヲ爲シ其都度明細書ニ記載シ得タル場合ハ別ニ當座帳ヲ設ケ便宜之ニ記載シ更ニ古物明細帳ニ轉載スヘシ

第十四條 自用品ヲ賣リ拂ヒ又ハ讓渡サントスルトキ及賣品ヲ自用ニ供シタルトキハ第十一條ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十五條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ其規約書寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

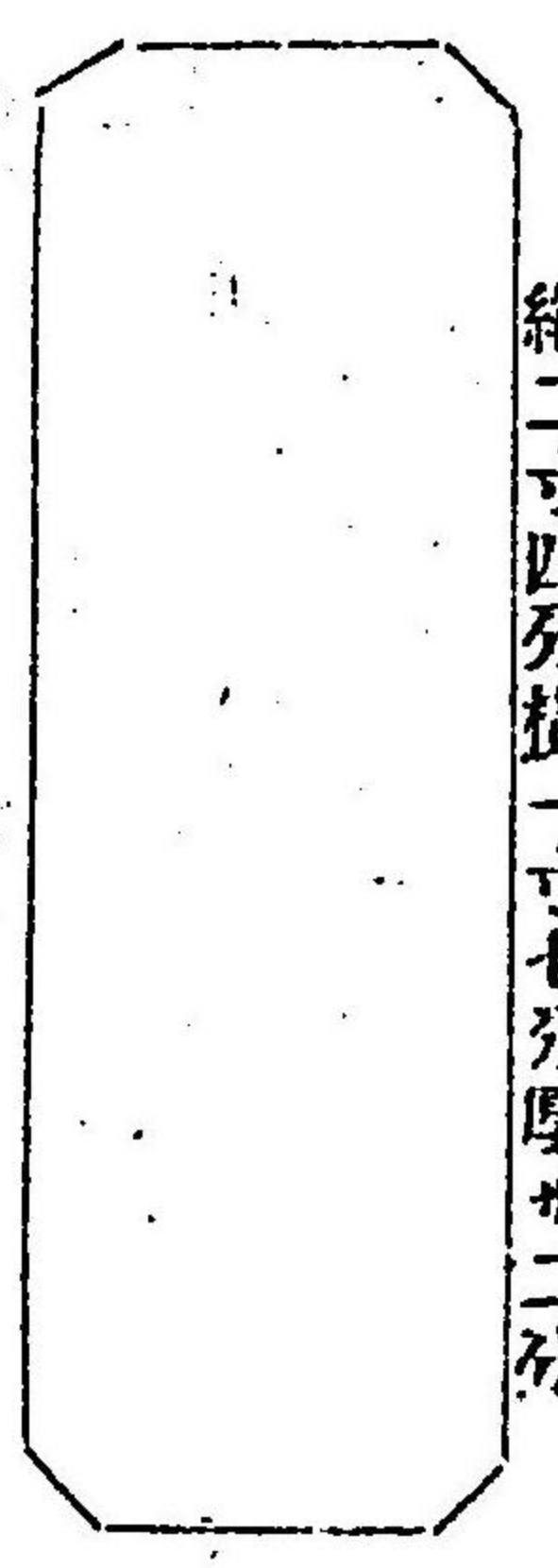
第十六條 第四條第二項第六條第十條第十二條第十三條第十四條ヲ犯シタル者及第十一條ノ帳簿ニ檢印ヲ受ケヌ又ハ擅ニ其紙數ヲ増減シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ處分セラルヘシ

附則

第十七條 従前ノ營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄在來ノ帳簿ヲ使用スルコトヲ得

第十八條 従前ノ行商者ハ更ニ鑑札ヲ受クルヲ要セス在來ノ鑑札ヲ以テ行商ヲ爲スコトヲ得但同居ノ雇人ニテラサル者ノ鑑札ハ明治二十八年九月三十日迄ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ返納スヘシ

(別紙)



鑑札雛形(用材適宜)
縦二寸四分横一寸七分厚サ二分

入	之	部	出	之	部
第何號(物品ニ付スル番號) 明治何年何月何日買受(讓受)	第何號(物品ニ符合セシム)	第何號(物品ニ付スル番號) 明治何年何月何日買受(讓受)	第何號(市)何町(村)何某(賣渡)	第何號(市)何町(村)何某(賣渡)	第何號(市)何町(村)何某(賣渡)
一(物品一點ナレハ此號ヲ要セス)	一(物品一點ナレハ此號ヲ要セス)	一(物品一點ナレハ此號ヲ要セス)	代價	代價	代價
一何々(物品ノ形質模様等) 一個	一何々(物品ノ形質模様等) 一個	一何々(物品ノ形質模様等) 一個	何程	何程	何程
第何號(物品ニ付スル番號) 明治何年何月何日買受(讓受)	第何號(物品ニ符合セシム)	第何號(物品ニ付スル番號) 明治何年何月何日買受(讓受)	第何號(市)何町(村)何某(賣渡)	第何號(市)何町(村)何某(賣渡)	第何號(市)何町(村)何某(賣渡)
一(物品一點ナレハ此號ヲ要セス)	一(物品一點ナレハ此號ヲ要セス)	一(物品一點ナレハ此號ヲ要セス)	代價	代價	代價
一何々(物品ノ形質模様等) 一個	一何々(物品ノ形質模様等) 一個	一何々(物品ノ形質模様等) 一個	何程	何程	何程

第九類 ○警察 ○營業

代價	何程	
二		
一何々(同上)	一本	
代價	何程	
右何國何郡(市)何町(村)何某ヨリ買受	同月同日	
		(讓受)
第一何號	同月同日	
一何々(前同)	一個	
代價	何程	
右何國何郡(市)何町(村)何某ヨリ買受		
証人 何國何郡(市)何町(村)某		
警部(巡查)何某ノ認リヲ受ク		
第一何號		
一何々(前同)	何個(何枚)	
右自用品		
		第一何號(上欄番號) 明治何年何月何日
		何國何郡(市)何町(村)何某ノ買渡(讓渡)
		代價 何程

●島根縣令第六十三號 明治二十八年十月五日
 明治二十八年八月本縣令第五十五號古物商取締法及同法細則施行規則中左ノ通改正ス
 第六條 營業物品ノ種類ヲ減少シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
 第六條中「第六條」ヲ削除ス
 ●島根縣令第五十六號 明治二十八年八月二十八日

質屋取締法及同法細則施行規則左ノ通定ム
 本令ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

質屋取締法及同法細則施行規則

第一條 質屋取締法以下取締法 第一條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ但支店開設ノ願書ニハ住所氏名及支店所在地ノ外記載スルヲ要セス
 一族籍、住所、從前ノ職業、氏名、年齢及ヒ店舗ノ所在地並其住所ヲ移轉シ又ハ族籍氏名ヲ變更セシコトアル者ハ前住所移轉年月日、舊族籍氏名
 第二條 質屋取締法細則以下細則 第二條第三條第六條取締法第十七條ノ願書ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ
 第三條 管理人ヲ置ク者ハ其願書ニ管理人ノ族籍、住所、氏名、年齢、從前ノ職業及管理スヘキ支店並取締法第十九條ニ抵觸セサルコトヲ明記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ
 其族籍、住所、氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
 第四條 取締法第五條ノ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ記載スヘキ帳簿ハ左ノ二種ヲ設ケ別紙様式ニ倣ヒ調製スヘシ
 一 質物臺帳
 一 流質物賣拂帳
 同條ノ質札及通帳ハ細則第七條ニ依ルノ外利子割合、流質期限、質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處分方、質物出入時間等ヲ記載スヘシ
 第五條 質物臺帳ハ紙數ヲ記載シテ所轄警察署又ハ警察分署ノ捺印ヲ受クヘシ其紙數ハ損ニ増減スルコトヲ得ム
 第六條 流質物ヲ讓渡又ハ自用ニ供シタルトキハ第四條ノ流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

●第九類 ○警察 ○營業

第七條 取締法第六條ノ事項ハ開業前所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ其事項ニ變更アリタルトキ亦速ニ届出ヘシ

第八條 傳染病ニ汚染シタル物品ナルコトヲ發見シ取質セザルトキハ直ニ最寄警察官吏ニ申告スヘシ

第九條 取締法第十四條ノ品觸寫書ハ便宜編綴シテ簿冊ト爲スヘシ

第十條 品觸到達以後六ヶ月内ニ其寫書ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ就キ之ヲ寫取ルヘシ

第十一條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ其規約書寫ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十二條 第三條第二項第五條第六條第十條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ處分セラルヘシ

第十三條 從前ノ營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄在來ノ帳簿ヲ使用スルコトヲ得

(別紙) 質物臺帳(簿冊ノ編綴方及用紙ハ適宜又綴綴)

第何號(質物ニ付スル番號ニ符合セシム) 明治何年何月何日質入
一(品物一點ナレハ此號ヲ要セス)
一何々(物品ノ形質模樣) 一枚
二(全上)
一何々(全上) 一本
計何點 貸金何程
一利子割合
一流質期限

一質物異雜ニ罹リタルトキノ處分方

一質物出入時間

(前各項ノ外質契約及質物處分ニ關スル事項アルトキハ其要領ヲ記載スヘシ)
(第二號以下質契約及質物處分ニ關スル事項ニ於テ異動ナキ場合ハ質契約及ヒ質物處分ハ前號ノ通ト記載スヘシ)

何國何郡(市)何町(村) 何
質置主 何 某
代人(使人) 何 某
何國何郡(市)何町(村) 何
證人 何 某

警部(巡查)何某ノ認可ヲ受ク
右明治何年何月何日(第何號) 受戻(入換)(流質)

流質物賣拂帳様式(簿冊ノ編綴方及用紙ハ適宜又便宜綴)

第何號(質物臺帳ノ番號ト符合セシム)
第何號ノ一

一何々(質物臺帳ト全様ニ記載スヘシ) 一枚

第何號ノ二 一本

一何々(全上) 一本
代金 何程
右明治何年何月何日賣却(讓渡)(自用ニ供ス)

何國何郡(市)何町(村)

買主

何

讓受主

何

某

●甲第百七號 明治十六年十月二十二日

本縣ノ布達ニ依リ犯則者ノ營業ヲ停止シタルトキハ仮リニ營業鑑札ヲ引上ケ一ヶ月ヨリ少ナカラス三ヶ月ヨリ多カラサル期限内ニ之ヲ下戻シ禁止シタルトキハ營業鑑札ヲ引上ケ滿一ケ年ヲ經サレハ再ヒ營業スルコトヲ許サス

但別段ノ規則アルモノハ非此限

右布達候事

●訓令警第五號

明治二十年一月三十一日

警察署 分 署

取締ニ關スル諸營業取扱手續別紙之通相定ム

(別紙)

取締ニ關スル諸營業取扱手續

第一條 營業願ハ署長先ツ之ヲ査閲シ許可スルモノハ其旨ヲ願書ノ餘白ニ朱記決印シテ科員ニ交付シ科員ハ式ノ如ク指令又ハ鑑札下附ノ手續ヲナスヘシ

但シ鑑札ヲ下付スルモノハ別ニ指令ヲ與ヘサルモノトス尤營業ヲ許可セサルトキハ願書ニ指令シ其事由ヲ具シタル決議書ト割印スヘシ

第二條 左ノ各項ハ其事由ヲ詳記シ第一第二ハ警察本部長第三ハ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

一 營業ヲ停止ハ期限ノ見込ヲ付スルヲ要ス

一 營業ヲ許可セス又ハ許可ノ後之ヲ取消ス事

二 營業上ニ關シ認可ヲ與フヘキモノニシテ之ヲ認可セス又ハ認可ノ後之ヲ取消ス事

三 營業ヲ禁止若クハ停止スル事

第三條 營業ヲ禁止シタルトキハ直チニ其鑑札ヲ引上ケ停止シタルトキハ其期限間之ヲ引上ケ滿期ニ至レハ速ニ下戻スヘシ

第四條 規則ニ違フ遊藝見セ物及人寄等ノ興行ヲ停止シタルトキハ其事由ヲ警察本部長ニ報告スヘシ

第五條 一時ノ興行見セ物等ハ鑑札ヲ下付セサルモノトス

第六條 他府縣ノ者本縣内ニ於テ一時興行願出タルトキハ税金ノ不納ナカラシムル爲メ本縣ノ者ヲ保証ニ立テシムヘシ

第七條 免許鑑札ヲ遺失又ハ紛失シタルモノアルトキハ其番號下付月日及業名本籍姓名遺失紛失ノ事由等速ニ警察本部ニ報告スヘシ

第八條 地方税ニ關スル營業ノ起廢異動ハ其時々所轄郡役所ニ通知スヘシ

諸營業臺帳及鑑札取扱凡例

一 諸營業臺帳ハ營業種目毎ニ之ヲ設クヘシト雖營業人寡少ノ署ニ於テハ台綴シテ見出ヲ付スル等成ルヘク簡易ノ取扱ヲ要ス但シ臺帳番號トモ追年繼續スルモノトス

二 鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ爲ストキハ前ノ臺帳消印ノ上更ニ臺帳ニ登錄シノ年月初前後臺帳ノ記事欄内ニ其由ヲ記入スヘシ

三 營業禁停鑑札書換再渡又ハ犯則處分等ノ事項ハ臺帳記事欄内ニ其要旨ヲ記入スヘシ

四 人力車挽又ハ諸行商等ニハ木製ノ鑑札ヲ渡スヘシ但木札ハ押切印ヲ爲サス其裏面ニハ焼印ヲ用フルモノトス

五 規則ニ於テ特ニ鑑札ノ様式ヲ定メタルモノハ之ニ依ルヘシ

六 遊藝人及遊藝校ノ類ハ其藝名等ヲ鑑札及臺帳ニ記入スヘシ

七 鑑札ハ須要ニ隨ヒ警察本部所屬警察署ニ請求スヘシ但木札ハ警察署ニテ調製スヘシ

●第九類 ●警察 ●營業

鑑札様式

許 可 業	明 治 年 月 日	許 可 業	明 治 年 月 日	記 事																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">許 之 證</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">島 根 縣</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">警 察 署</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">又ハ 何々 分署</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">警 察 署</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">印</td> </tr> </table>						許 之 證	島 根 縣	警 察 署	又ハ 何々 分署	警 察 署	印																								
許 之 證	島 根 縣	警 察 署	又ハ 何々 分署	警 察 署	印																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">目</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">種</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">業</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">營</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">業</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">業</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">何々</td> <td style="text-align: center;">又ハ</td> <td style="text-align: center;">何</td> <td style="text-align: center;">何</td> <td style="text-align: center;">何</td> <td style="text-align: center;">何</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">商</td> <td style="text-align: center;">業</td> <td style="text-align: center;">業</td> <td style="text-align: center;">業</td> <td style="text-align: center;">業</td> <td style="text-align: center;">業</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年 齡</td> <td style="text-align: center;">姓 名</td> <td style="text-align: center;">住 所</td> <td style="text-align: center;">本 籍</td> <td style="text-align: center;">番 號</td> <td style="text-align: center;">年 齡</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">當何十何年何月</td> <td style="text-align: center;">(姓名何々)</td> <td style="text-align: center;">本縣何郡何村何番地又ハ(全上)</td> <td style="text-align: center;">何府何國郡何番地族</td> <td style="text-align: center;">第何百何十號</td> <td style="text-align: center;">何條何某</td> </tr> </table>						目	種	業	營	業	業	何々	又ハ	何	何	何	何	商	業	業	業	業	業	年 齡	姓 名	住 所	本 籍	番 號	年 齡	當何十何年何月	(姓名何々)	本縣何郡何村何番地又ハ(全上)	何府何國郡何番地族	第何百何十號	何條何某
目	種	業	營	業	業																														
何々	又ハ	何	何	何	何																														
商	業	業	業	業	業																														
年 齡	姓 名	住 所	本 籍	番 號	年 齡																														
當何十何年何月	(姓名何々)	本縣何郡何村何番地又ハ(全上)	何府何國郡何番地族	第何百何十號	何條何某																														

切押印署

種 目	番 號	許 可 業	明 治 年 月 日	許 可 業	明 治 年 月 日	記 事	年 齡	姓 名	住 本 所 籍
第 號	第 號	明 治 何 年 何 月 何 日	明 治 何 年 何 月 何 日	明 治 何 年 何 月 何 日	明 治 何 年 何 月 何 日	何 條 何 某	當 何 十 何 年 何 月	(姓名)	何 府 何 國 郡 何 番 地 族

諸營業證様式

(△ハ朱書)

八 豪帳ヲ消却スルニハ様式ノ消印ヲ以テスヘシ
九 廢業其他ノ事故ニヨリ返納ノ鑑札ハ直ニ斷裁棄却スヘシ

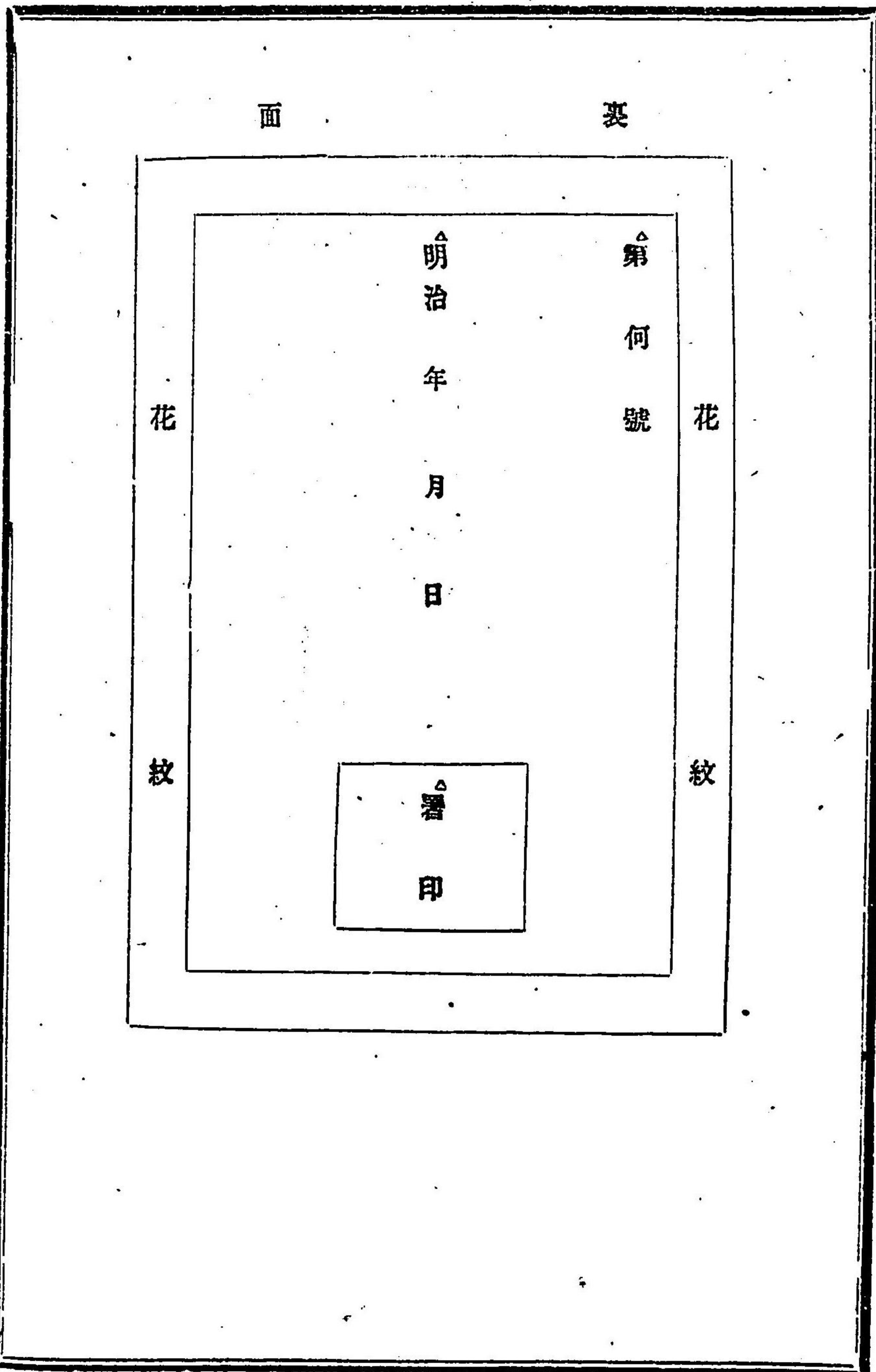
表 面

切 押 印 署	
札 鑑 許 免 縣 根 島	
花	紋
△何府何國郡町何番地誰何女姉妹 △當時何郡何番地誰方寄留族 △籍姓何々 △何 誰 △當何年何ヶ月 △(姓名等) ヲ記ス	
花	紋

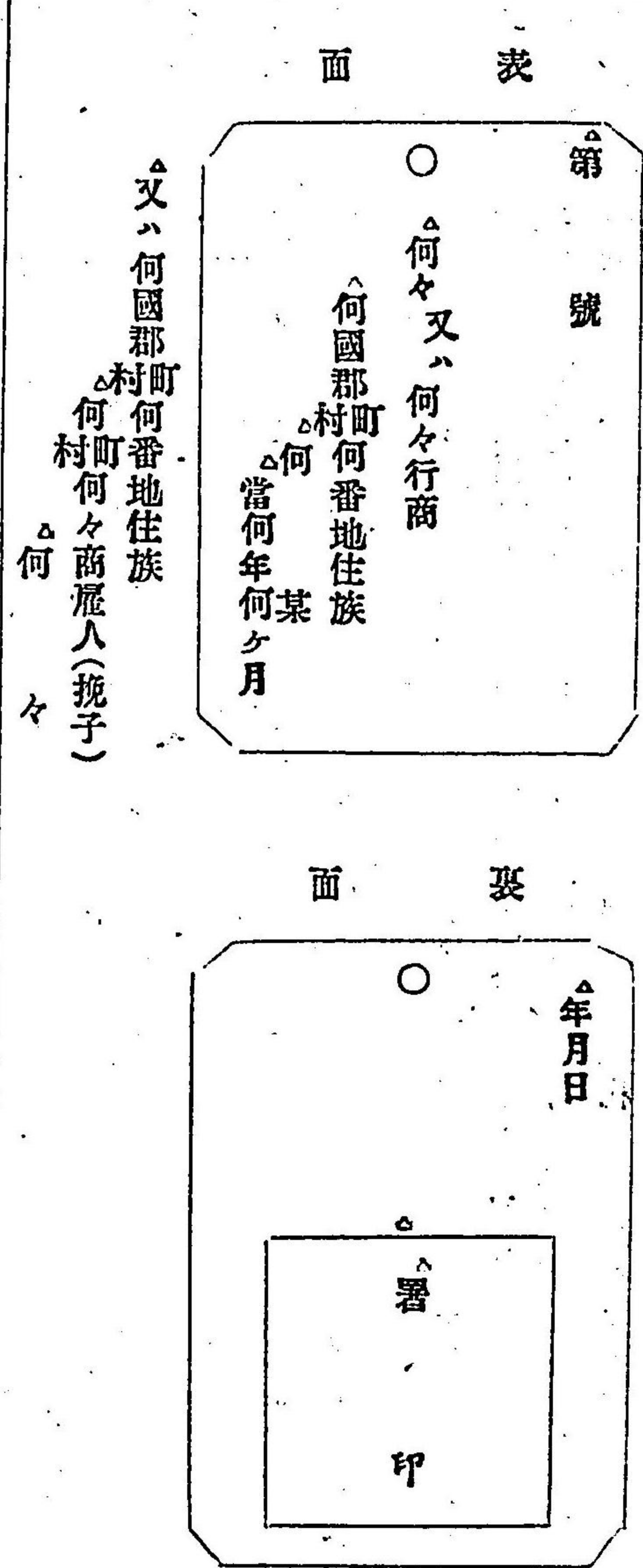
藝妓鑑札様式

裏 面

得 心 者 業 營	
花	紋
一 營業者ハ其營業ニ關スル規則ヲ遵守スヘシ 一 鑑札ハ他人ニ貸與ス可カラス 一 鑑札ヲ遺失紛失又ハ毀損シタルトキハ其旨速ニ届出再渡ヲ請フヘシ 一 轉住改姓名其他身分ニ異動アルトキハ其旨速ニ届出鑑札書替ヲ請フ可シ 一 取締規則ニ定メタルモノハ營業ノトキ必ス鑑札ヲ携帶ス可シ 一 營業上ニ付相當官吏検査スルトキハ速ニ鑑札ヲ開示スヘシ 一 廢業スルトキハ速ニ届出鑑札ヲ返納ス可シ	
花	紋



木製鑑札様式 縦二寸四分横一寸七分



●訓令警第九號 明治二十一年三月三十一日 警察署 分 署

取締ニ關スル諸營業取扱手續並諸營業臺帳及鑑札取扱凡例中左之通改正加除ス

諸營業取扱手續

第六條 諸興行並遊覽所開設願等日税ニ關スルモノハ戶長ヨリ交付シタル税金領收證書ヲ認メタル上許可ス

第八條 (本文如故)但日税ニ關スルモノハ此限ニ非ス

臺帳及鑑札取扱凡例

第四項中「人力車輓又ハ」ノ六字ヲ削除ス

●第九類 ○警察 ○營業

訓令第三十號

明治二十二年七月三十日

警察署 分署

明治二十年一月訓令第五號取銷ニ關スル諸營業取扱手續第八條左ノ通改正ス

第八條 地方税ニ關スル營業及ヒ貸席娼妓營業ノ起廢異動並等級ヲ改メタルトキハ其時々所轄島廳郡役所又ハ市役所ニ通知スヘシ但日税ニ關スルモノハ此限ニ非ス

島根縣訓令保第九號 明治二十七年二月十日 警察署 分署

明治二十年一月訓令第五號取銷ニ關スル諸營業取扱手續第七條及諸營業取扱及鑑札取扱凡例第六項中「遊藝人及」ノ四字第七項中「須要」以下「木札」ニ至ル二十九字ヲ削除ス

島根縣訓令保第九號 明治二十七年三月二十七日 警察署 分署

明治二十年一月訓令第五號取銷ニ關スル諸營業取扱手續第八條但書ヲ削除ス

訓令警第二號 明治二十一年一月三十一日 警察署 分署

街路並營業人力車宿屋取締規則施行ニ付取扱心得別紙之通相定ム

(別紙) 街路並營業人力車宿屋取締規則取扱心得

第一條 街路取締規則第二條自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ之ヲ爲ササルモノハ懲篤ニ説諭ヲ加ヘ之ヲ行ハシムルハ勿論ナリト雖トモ仍ホ其命ニ從ハサレハ之ヲ罰スルノ外官ニ於テ直ニ執行シ其費用ヲ本人ヨリ追徴スルモノトス

第二條 全第三條第三項ノ日除ハ可成布若クハ紙類ニ限ラシメ且ニ不体裁ノ設ケナカラシムヘシ

第三條 全第五條第一項街路ニ井戸ヲ設ケルコトハ將來可成許可セサルヲ可トス

第三項工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スルトキハ實地ノ都合ニ依リ可成全路ヲ閉塞セサルヲ要ス

第八項街路ノ使用ヲ許可シタルトキハ其尺度及ヒ日限等適宜標札ニ記シ揭示セシムヘシ

第四條 全第八條街路ニ沿フ空地ニ墻塼ヲ設ケシムルハ邸宅ノ門前若クハ商家ノ店頭等ニ特ニ設ケタル空地ニシテ別ニ市街ノ体裁ヲ損スルニ至ラサルモノ、外相當建築ノ存スヘキ場所ニシテ奥行九尺以上ナル空地ハ街路ノ境界ニ之ヲ設ケ軒並ニ体裁ヲ整ヘシムルヲ要ス

第五條 全第二十三條第二十四條積雪ノ掃除及炎天風日ニ淨水ヲ洒クカ如キハ可成急速ニ之ヲ執行セサレハ其効少キモノニ付斯ル場合ハ官ニ於テ直ニ之ヲ執行シ而シテ其費用ヲ徵スルコトニ豫メ定メ置クモ可ナリトス

第六條 人力車及宿屋營業ヲ許可スルトキハ營業者ノ身元其他必要ノ事項ハ其初ニ於テ嚴密ニ調査シ一旦許可ノ後ハ容易ニ之ヲ取消ス等ノコトナキヲ要ス

第七條 車体ノ検査ハ專ラ安全ヲ保ツノ認メナカレハカラサルモノニ付其検査ハ最モ鄭重ヲ旨トス且營業鑑札並車体検査等ニ付テハ營業者ヲシテ煩勞ヲ厭ハシメサル様注意スヘシ

第八條 全第二條營業者ニ於テ執子鑑札ヲ出願シタルトキハ其執子ヲ呼出シ資格ニ適合スルヤ否取調ヘノ上免許鑑札ヲ下付スヘシ

第九條 全第十條ニ依リ車ノ使用ヲ差止メタル場合ハ直ニ該検査証ヲ引揚ケ其制限ニ適スルニ至ルヲ待テ検査ノ上之ヲ返付スヘシ

第十條 全第十一條ノ身元保証金及第十五條ノ手数料等ハ何等ノ事情アルモ許可ノ際即納セシムヘシ

第十一條 全第四十一條道路ニ設ケタル駐車場一時休息ヲナシ又客ヲ昇降セシムルノ用ニ供スルマテニ過キサレハ道路ノ体裁ヲ損シ清潔ヲ害スヘキ所業ヲ爲サシムヘカラス而シテ公設駐車所ハ往來ノ繁閑等ニ應ジ通行ノ妨害トナラサル場所ニ適宜ニ之ヲ設ケヘシト雖トモ多少道路ノ妨害タルヲ免レサレハ可成私設駐車場ヲ設ケシメ公設駐車場ノ數ヲ減スルヲ要ス

第十二條 前條公設駐車場標木ハ左ノ如ク調製シ左右境界ニ建設スヘシ

一四寸角高サ地四尺
一正面左右ノ三方ハ長ヨリ(東西又ハ南北場内ノ距離)公設駐車場トシ裏面ハ(年月日何警察署)ト大書

第九類 ○警察 ○營業

廿一年訓令
廿三年全第
廿四年訓令
廿五年全第
廿六年全第
廿七年全第
廿八年全第
廿九年全第
三十年全第
三十一年全第
三十二年全第
三十三年全第
三十四年全第
三十五年全第
三十六年全第
三十七年全第
三十八年全第
三十九年全第
四十年全第

ス

第十三條 全第四十九條及第五十條ニ依リ組合ヲ設クル主旨ハ營業上種々ノ弊害ヲ防止シ取締ノ便ヲ計ラントスルニ於テ組合法ヲ設ケ連帶ノ責任ヲ負ハシムルコトアリ故ニ其組合ニ關スル規約ニハ權利義務ノ關係ヨリ營業上諸般ノ事ヲ規定セシムルヲ要ス依テ左ノ組合同規約ノ事項ヲ掲ク

- 一 事務取扱所位置
 - 一 乘客取扱ニ關スルコト
 - 一 營業者ト輓子ノ關係
 - 一 車賃額
 - 一 組合會議ニ關スル手續
 - 一 組合公共ノ利益ニ關スルコト
 - 一 組合ニ關スル費用收支ノ方法並正副取締人等手當ノ額
 - 一 公私駐車場掃除負擔ノ方法
- 右ノ外組合ニ必要ノ事項

第十四條 宿屋取締規則中組合ヲ設クヘキ條項ナシト雖モ土地ノ便宜ニ依リ成ルヘシ組合ヲ設ケ相當規約ヲ定メシムルヲ要ス其事項ハ前條ニ準シ宿屋營業組合ニ必要ナル條件ヲ掲ケシムヘシ

第十五條 組合同規約ハ警察本部長ヘ稟請ノ上認可スヘシ

第十六條 人力車營業鑑札車体検査証ハ別紙第一號第二號並ニ人力車營業人臺帳ハ第三號第四號宿屋營業人臺帳ハ第五號様式ニ依リ調製スヘシ

但人力車營業鑑札車体検査証ハ通シテ三年間用ユヘキモノトス

第一號様式 (△印ハ朱印)

木製縦三寸横二寸二分

第何號 島根縣

△明治何年 △何警察署 烙印
△何月何日 △又ハ警察署何分署

○人力車營業鑑札

△何々組 △氏名
(記載例車体検査証ニ全シ) △年齢 △輓子ナレハ △肩書(全上) △何某輓子

面	裏
檢	明 治 二 十 一 年 何 月 何 日 △ 檢
○	全 二 十 二 年 何 月 何 日
查	全 二 十 三 年 何 月 何 日

△徑三分五厘 烙印

第二號様式 木製縦四寸五分横三寸五分

第何號

島根縣 △何警察署 烙印
△又ハ警察署何分署

車	島根縣
体	△何警察署 烙印
檢	全 二 十 二 年 何 月 何 日
	明 治 二 十 一 年 何 月 何 日 △ 檢
	全 二 十 三 年 何 月 何 日

△徑鑑札檢印ニ全シ

第九類 ○警察 ○營業

客室	間	何疊敷	幾間	坪	何十何坪	定員	何十何人
	取	△△△△△	△△△△△	△△△△△			
後見人	營業人トノ間柄	原籍	住	所	身分年齢	氏名	
記事	○一年月日何々ニヨリ鑑札替替或ハ再渡○年月日規則何條ヲ犯シ何々ニ處セラル○年月日何々ノ爲メ本業ヲ取消ス等						

●訓令警第四號 明治二十一年二月十七日 警察署 分署

明治二十一年一月訓令警第二號街路並營業人力車宿屋取締規則取扱心得中左ノ條項ヲ追加ス

一 第十條ノ次ヘ左ノ三條ヲ加ヘ元第十一條ヲ第十四條ニ第十二條ヲ第十五條トス

第十一條 前條身元保証金ヲ以テ賠償金ニ充用スル場合左ノ如シ

一 原被熱談ノ上保証金ノ全部又ハ幾分ヲ以テ賠償セシムトシテ雙方ヨリ警察署又ハ分署へ出願シタルトキ

一 人力車營業人其營業上ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメ民事裁判上賠償ノ言渡ヲ受クルモ其金額ヲ辨セサルトキ

一 全營業ニ關シ犯罪ニ因リ罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受クルモ其金額上納セサルトキ

第十二條 保証金ニ欠額ヲ生シ其期限内完納セサルトキハ料促ヲ爲シ事實不得止モノハ十日以内ノ猶豫ヲ

與ヘ尙緩漫ニ付スルキハ直ニ營業鑑札及車体檢査証ヲ取上クヘシ

第十三條 全則第十九條第二項冠リ物ハ可成一月ヨリ五月十月ヨリ十二月マテハ大黒帽子黒紺色ヲ要ス六月ヨリ九月マテハ饅頭笠白ヲ用ヒシムヘシ但雨天ノキハ此限ニアラス

一 第十二條ノ次ヘ左ノ二條ヲ加ヘ元第十三條ヲ第十九條ニ第十四條ヲ第二十條トス

第十六條 全第四十四條ニ規定スル私設駐車場ハ官有地及街路ノ部分ニ設クルヲ許サス

第十七條 私設駐車場ノ設置ヲ届出ツルキハ實地ヲ檢査シ他ニ妨害又ハ不依裁ナキトキハ認可ヲ與フヘシ

第十八條 私設駐車場ノ標識ハ左ノ離形ニ準シ標札ヲ掲ケ夜間ハ適宜懸燈ヲ以テ之レニ代用セシムヘシ

縱二尺五寸横七寸

○私設人力車駐車場

取	縮
所	印

一 第十四條ノ次ヘ左ノ四條ヲ加ヘ元第十五條ヲ第二十五條ニ第十六條ヲ第二十六條トス

第二十一條 全則旅人宿及木賃宿ノ看板ハ左ノ離形ニ依リ調製セシムヘシ

縱三尺横八寸

(旅人宿)營業	郡町	號	何	誰
木賃宿	何	誰		

第二十二條 全後見人ノ資格ハ營業者ノ例ニ依ル

●第九類 ○警察 ○營業

第二十三條 全第四條第四項ニ抵觸シ營業ヲ許可スヘカラスト思惟スルモノハ其事情ヲ具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テ許可ヲ與ヘス若シハ其許可ヲ取消シタル后十滿二年ヲ經過シ改悛ノ情著明ニシテ許可スヘキモノト思料スルトキハ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

訓令警第十八號 明治二十三年四月二十二日 警察署 分署
明治二十一年一月訓令警第二號街路並營業人力車宿屋取締規則取扱心得第十條中第十一條ノ身元保証金及ノ一字及第十一條第十二條ヲ削除ス

島根縣訓令保第一號 明治二十四年一月十日 警察署 分署
明治二十一年訓令警第二號街路並營業人力車宿屋取締規則取扱心得第六條及第八條中「免許」ノ二字並第十八條乃至第二十五條ヲ削除シ第八條ヲ營業人力車取締規則第二條營業者ニ於テ腕子鑑札ヲ請求シタルトキハ其腕子ヲ云トシ第十條中「許可」ヲ「認可」ト改正ス

島根縣訓令保第六號 明治二十五年三月二十一日 警察署 分署
明治二十一年一月訓令警第二號街路並營業人力車宿屋取締規則取扱心得第十條ハ明治二十五年三月三十一日限り廢止ス

訓令警第二十九號 明治二十年八月三十一日 警察署 分署
今般勅令第三十六號ヲ以テ流入紙製造取締規則定メラレ候ニ付取締向左ノ通心得ヘシ

一 流入紙製造届ヲ受ケタルトキハ其貫籍姓名製紙ノ種類及届出ノ年月日等ヲ根帳ニ登録シ届書ハ縣廳ニ進達スヘシ但分署ニ於テ受ケタルモノハ警察署ヲ經由スヘシ
二 製紙業ノ實況ハ時々視察シ若シ犯則者アリタルトキハ其都度事由ヲ詳記シテ縣廳ニ申報スヘシ

興業

縣令第八十號 明治二十二年六月十日

劇場取締規則別紙ノ如ク相定ム

(別紙)

廿五年縣令第六十五號
廿六年縣令第六十八號
廿七年縣令第七十號
廿八年縣令第七十二號
廿九年縣令第七十四號

劇場取締規則

第一條 劇場ヲ新設又ハ改造模様替セントスルトキハ其仕様書建物並場所ノ圖面及近傍ノ家主地主ノ承諾書之ヲ要セス等ヲ添ヘ借地ニ係ルトキハ所有主ト連署シ所轄警察署分署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 劇場ノ構造ハ左ノ諸項ニ遵フヘシ
一 空氣ノ流通ヲ能スル爲メ各所ニ窓ヲ設ケル事
二 通常出入口ノ外ニケ所以上ノ非常口^{中六尺以上ノモノ}ヲ設ケル事但扉ハ外開キニスル事
三 二階樓敷ハ通常昇降用ノ外ニケ所以上ノ非常階子^{中三尺以上ニシテ裏ヲ設ケル事}ヲ設ケル事
四 便所ハ劇場ヲ隔離シ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ設ケ空氣ノ流通ヲ能シ尿尿溜ハ石材又ハ陶器^{蒸焼ニアラサルモノ}ヲ以テ各別ニシ其周圍ハ石敷(タ、キ)等ヲ爲ス事

五 便所ノ數ハ概テ客席二十坪^{曲尺方六尺}ニ付小便所一ヶ所全四十坪上ニ付大便所一ヶ所トスル事
六 場内見透シ易キ位置ニ警察官吏ノ臨席ヲ設ケル事

第三條 劇場ノ工事落成シタル時ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ
第四條 廢場又ハ賣買讓與スル時ハ双方連署シ所轄警察署分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第五條 劇場ヲ假設セントスル者ハ興行願書ニ現場ノ圖面ヲ添ヘ借家借地ニ係ル時ハ所有主ト連署スヘシ
第六條 假設ノ劇場ト雖モ成ルヘシ其構造ヲ堅固ニシ空氣ノ流通ヲ能シ且第二條第二項第五項第六項ニ遵フヘシ

第七條 興業ヲ爲サントスル者ハ其場所日數應遵始業ノ時刻及族籍住所氏名等ヲ詳記シ藝人ノ族籍住所氏名藝名年齡書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但新作ノ演劇ニ係ルトキハ其仕組書ヲ出スヘシ

第九類 ○警察 ○興業

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出承認ヲ受クヘシ
 一 藝題ヲ變更セントスル時但新作ノ演劇ニ係ルトキハ其仕組書ヲ出スヘシ
 二 藝人ヲ増加セントスル時但其族籍住所氏名藝名年齢書ヲ添フヘシ、
 第九條 興業日數ヲ伸縮シ又ハ興業ヲ中止シ若シハ藝人ヲ減少スル時ハ速ニ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ
 第十條 免許ヲ得タル者ヲテ演藝セシムヘカラス又免許ヲ得タル者ト雖モ免許外ノ藝ヲ爲サシムヘカラス
 第十一條 興行ハ日出ヨリ午後十二時マテニ限ルヘシ但夜間興行中ハ出入口ニ掲燈スヘシ
 第十二條 木戸錢棧敷料等ハ來客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ
 第十三條 藝人ヲ客席ニ至ラシメ又ハ觀客ヲ藝人ノ休憩所ニ入ラシムヘカラス
 第十四條 演劇ハ勸善懲惡ノ趣意ヲ失シ又ハ風俗ニ害アル所爲ニ涉ルヘカラス且看客ノ座席ヲ暗黒ニスルコトアルヘカラス
 第十五條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ
 第十六條 興行中ハ客席便所等清潔ニ掃除シ且便所ニハ時々防臭劑ヲ散布スヘシ
 第十七條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢見料等ヲ受ケスニテ興行ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ
 第十八條 第一條第三條第四條第七條第八條第九條第十條第十三條第十七條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ處分セラレ第十四條ヲ犯シタルトキハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ
 附則
 松江市ニ於テ劇場ヲ設ケルハ宇伊勢宮ニ限ルヘシ但該地ニ於テハ假設ヲ許サス
 ●島根縣令第六十五號 明治二十五年六月九日
 明治二十二年六月縣令第八十號劇場取締規則中左ノ通改正加除ス

第一條及第七條中「願出許可」トアルヲ「届出認可」トス
 第四條 劇場ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルモノハ元所有主ト連署シテ所轄警察署分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
 廢場シタルトキ亦前項ニ準シ届出ヘシ
 第五條中「願書」トアルヲ「届書」トス
 第十條ヲ削ル
 第十七條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢見料等ヲ受ケスニテ興行ヲ爲サントスル者ハ届出ニ及ハスト雖モ第十四條第十五條ニ違フヘシ
 第十八條中第四條ノ下ニ「第一項」ノ三字ヲ加ヘ「第十條」ノ三字及「第十七條」ノ四字ヲ削ル
 附則中設ケルハノ下ニ「白濁天滿宮境内並其接壤地^{境内ノ範圍ヲ指ス}及」ノ二十四字ヲ加フ
 ●島根縣令第五號 明治二十六年一月九日
 明治二十二年六月縣令第八十號劇場取締規則中左ノ通改正ス
 第八條 藝題ヲ變更セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 但新作ノ演劇ニ係ルトキハ其仕組書ヲ添フヘシ
 第九條 左ノ場合ニ於テハ速ニ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ
 一 興行日數ヲ増減シ若シハ其日限ヲ伸縮シ又ハ臨時興行ヲ中止スル時
 二 藝人ヲ増減スル時但増加スル時ハ其藝人ノ族籍住所氏名年齢書ヲ添フ可シ
 ●島根縣令第八十七號 明治二十六年九月十六日
 明治二十二年六月縣令第八十號劇場取締規則第一條中「及近傍ノ家主地主ノ承諾書^{改定模範書ハレノ二十三字ヲ削}除ス
 ●島根縣令第四十號 明治二十八年五月十七日
 明治二十二年六月本縣令第八十號劇場取締規則中左ノ通改正追加ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十六條 興行中ハ左ノ各項ニ依リ清潔法ヲ行フヘシ

- 一 毎日開場前ニ於テ窓戸ヲ開放シ十分ニ空氣ヲ流通セシメ客席ノ敷物ハ都テ取上ケ日光空氣ニ曝シ且場内遍シ清潔ニ掃除シ塵介ハ一定ノ場所ニ棄却スヘシ
- 二 大小便所ハ毎日一回以上尿尿ヲ汲取り遍シ清潔ニ掃除シ尿尿溜及其周圍ニハ石灰酸又ハ石灰ヲ十分ニ撒布スヘシ

第十八條 第十三條ヲ犯シタル者ノ下ニ及第十六條ヲ犯シ官ノ督促ニ應セサル者ノ十八字ヲ加フ

●縣令第八十一號 明治二十二年六月十日

觀物場並遊覽所取締規則別紙ノ如ク相定ム

(別紙)

觀物場並遊覽所取締規則

第一條 觀物場ハ相撲、足籠、輕業、手踊、獨樂廻、曲馬其他之ニ類スル遊藝ヲ興行シ遊覽所ハ天產物又ハ人造ノ物品ヲ陳列シテ觀覽ニ供スル所トス但庭園ノ草木等ヲ觀覽ニ供スルハ此限ニアラス

第二條 觀物興行ヲ爲サントスル者ハ其場所日數種目始業ノ時刻及族籍住所氏名ヲ詳記シ借家賃地ニ係ル時ハ所有主ト連署シ遊藝人ノ族籍住所氏名年齡習ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 遊覽所ヲ開設セントスル者ハ其場所日數種目及族籍住所氏名ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但借屋賃地ニ係ルトキハ所有主ト連署スヘシ

第四條 興行日數ヲ伸縮スル時ハ速ニ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ツヘシ

第五條 小屋掛ケ又ハ棧敷ヲ要スルトキハ成ルヘシ堅固ニ構造シ便宜非常口ヲ設クヘシ

第六條 場内ハ空氣ノ流通ヲ能シ清潔ニ掃除スヘシ

第七條 警察官吏ノ指揮アルトキハ相當ノ位置ニ其臨監席ヲ設クヘシ但相撲興行場ニハ豫メ之ヲ設クルヲ要ス

廿二年縣令
第百三十五號
廿五年全第
五十五號
廿八年全第
四十一號

第八條 興行ハ日出ヨリ午後十二時相撲、マテニ限ルヘシ但夜間興行中ハ出入口ニ掲燈スヘシ

第九條 木戸錢見料等ハ來客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十條 免許ヲ得サル者ヲシテ演藝セシムヘカラス又免許ヲ得タル者ト雖モ免許外ノ藝ヲ爲サシムヘカラス

第十一條 人造物ヲ天造物ト稱シ又ハ看板ト實物トヲ異ニシ其他事實ニ相違シタルコトヲ揚言スヘカラス

第十二條 風俗ヲ害スヘキモノヲ觀覽ニ供スヘカラス

第十三條 猥猛ナル鳥獸ヲ觀覽ニ供シ又ハ之ニ演藝セシムル時ハ危險ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十四條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十五條 伊勢神樂、猿廻シ、居合拔、祝見鏡ノ類ニシテ場所ヲ定メス興行スルモノハ願届ニ及ハスト雖モ道路ニ於テ通行ノ妨ケヲ爲シ又ハ人家ニ立入り強テ金錢ヲ乞フヘカラス

第十六條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢見料等ヲ受ケスニテ興行ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ

第十七條 第二條第三條第四條第十條第十六條ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ處分セラレ

第十一條第十二條ヲ犯シタルトキハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ

附則

松江市ニ於テ觀物場ヲ開設スルハ白瀧天滿宮境内並其接續地境内ノ休積ヲ爲ス區域内及宇伊勢宮ニ限ルモノトス但相撲興行ハ此限ニアラス

●縣令第三百二十五號 明治二十二年十二月二十四日

●島根縣令第五十五號 明治二十五年四月十四日

●島根縣令第八十一號 觀物場並遊覽所取締規則中左ノ通り改正加除ス

●第九類 ○警察 ○興業

第二條及第三條中「願出許可」トアルヲ「届出認可」トス
第十條ヲ削ル

第十五條中「願届」トアルヲ「届出」トス

第十六條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢見料等ヲ受ケスシテ興行ヲ爲サントスル者ハ届出ニ及ハスト雖第
十二條乃至第十四條ニ遵フヘシ

第十七條中「第十條第十六條」ノ七字ヲ削ル

●島根縣令第四十一號 明治二十八年五月十七日

明治二十二年六月本縣令第八十一號觀物場並遊覽所取締規則中左ノ通追加ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第六條(第一項如故)

便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ之ヲ設ケ相當ノ圍ヲ爲シ空氣ノ流通ヲ能シ其尿尿溜ハ堅牢ナルモノヲ用
ヒ汚液ヲシテ周圍ニ滲透セシメサル様敷設スヘシ

興行中ハ毎日一回以上尿尿ヲ汲取リ遍シ清潔ニ掃除シ尿尿溜及其周圍ニハ石炭酸又ハ石灰ヲ十分ニ撒布ス
ヘシ

第十七條中第四條ヲ犯シタル者ノ下ニ及第六條ヲ犯シ官ノ督促ニ應セサル者ノ十七字ヲ加フ

●縣令第八十二號 明治二十二年六月十日

遊技場取締規則別紙ノ如ク相定ム

(別紙)

遊技場取締規則

第一條 遊技場トハ營業ノ爲メ玉突、室内射的、大弓、半弓、揚弓、投扇競、鞠投、人形倒シ、吹矢、文廻シ、其他之
ニ類スルモノヲ以テ遊戯ニ供スル場所ヲ云フ

廿五年縣令
第五十四號
廿六年縣令
第十二號

第二條 第一條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及開設ノ場所遊技ノ種類等ヲ詳記シ射的大弓半弓等
ハ現場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケ其他ハ開業前全署ニ届出ヘシ神佛祭禮其他群集
ノ場所ヘ轉帳シテ時々開場スル者亦全シ

第三條 轉住改氏名其他身分上異動アルトキ及廢業スルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四條 白痴瘋癲及路前入等ニ遊技ヲ爲サシムヘカラス

第五條 射的大弓半弓ノ開場ハ日出ヨリ日没マテ其他ハ午後十二時マテニ限ルヘシ

第六條 席料並遊技ノ代料ハ店頭ニ揭示スヘシ

第七條 風俗ヲ害スル所爲又ハ危險ノ虞アリト認ムルモノハ之ヲ停止スルコトアレヘシ

第八條 警察官吏ニ於テ營業承認ノ證ヲ検査スルコトアルトキハ何時クリトモ之ヲ示スヘシ

第九條 第二條第三條ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●島根縣令第五十四號 明治二十五年四月十四日

明治二十二年六月縣令第八十二號遊技場取締規則中左ノ通改正加除ス

第一條中「文廻シ」ノ三字ヲ削除ス

第二條中「願出許可」トアルヲ「届出認可」トス

第三條轉住改氏名其他身分上異動アルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

廢業スルトキ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第九條中第三條ノ下ニ「第一項」ノ三字ヲ加フ

●島根縣令第十二號 明治二十六年一月二十七日

明治二十二年六月縣令第八十二號遊技場取締規則第三條分署ノ下ニ「駐在巡查ノ中」ノ六字ヲ加フ

●縣令第八十三號

明治二十二年六月十日

明治十八年三月甲第六十八號布達人寄席取締規則別紙ノ如ク改正ス

●第九類 ○警察 ○興業

(別紙)

人寄席取締規則

- 第一條 人寄席ハ軍談、講釋、落語、淨瑠璃、音曲、祭文、淫レ節、物真似、手品、人形遣、猿狂言其他之ニ類スル遊藝ヲ興行スル所トス
- 第二條 寄席ヲ新設又ハ改造模樣替セントスルトキハ其仕樣書建物並場所ノ圖面及近傍ノ家主地主ノ承諾書之ヲ製セス
- 第三條 寄席ノ構造ハ左ノ諸項ニ遵フヘシ
 - 一 空氣ノ流通ヲ能スル爲メ各所ニ窓ヲ設ケル事
 - 二 通常出入口ノ外一ヶ所以上ノ非常口ヲ設ケル事
 - 三 便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ空氣ノ流通ヲ能シ尿管溜ハ石材又ハ陶器ニアラフ以テ各別ニ其周圍ハ石敷(タ、キ)等ヲ爲ス事
 - 四 便所ノ數ハ概テ客席二十坪曲尺方六尺ニ付小便所一ヶ所全四十坪上ニ付大便所一ヶ所トスル事
- 第四條 寄席ノ工事落成シタル時ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ
- 第五條 廢席又ハ賣買讓與シタル時ハ双方連署シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第六條 臨時借席ヲ設ケ又ハ他家屋ヲ借用セントスル時ハ興行願書ニ現場ノ圖面ヲ添ヘ借家借地ニ係ル時ハ所有主ト連署スヘシ
- 第七條 假席ト雖モ成ルヘク其構造ヲ堅固ニシ且人家ヲ用ユルト假席トニ拘ハラズ空氣ノ流通及非常出入等ニ便ナラシムル様注意スヘシ
- 第八條 警察官吏ノ指揮アル時ハ場内見透シ易キ位置ニ其臨監席ヲ設ケヘシ
- 第九條 興業ヲ爲サントスル者ハ其場所日數種目始業ノ時刻及族籍住所氏名等ヲ詳記シ藝人ノ族籍住所氏名藝名年齢書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但定席ニ於テスル興行ハ其時々本條ノ事項ヲ

届出ヘシ

- 第十條 興業日數ヲ伸縮スル時ハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 - 第十一條 免許ヲ得サル者ヲシテ演藝セシムヘカラス又免許ヲ得タル者ト雖モ免許外ノ藝ヲ爲サシムヘカラス
 - 第十二條 興業ハ日出ヨリ午後十二時マテニ限ルヘシ但夜間興行中ハ出入口ニ掲燈スヘシ
 - 第十三條 水戸錢席料等ハ來客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ
 - 第十四條 藝人ヲ客席ニ至ラシメ又ハ客ヲシテ藝人ノ休憩所ニ入ラシムヘカラス
 - 第十五條 寄席興行ハ演劇ニ類似ノ所作ヲナシ又ハ勸善懲惡ノ趣意ヲ失フ若クハ風俗ニ害アル所爲ニ涉ルヘカラス且客席ヲ暗黒ニスルコトアルヘカラス
 - 第十六條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖モ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ
 - 第十七條 興業中ハ客席便所等清潔ニ掃除シ且便所ニハ時々防臭劑ヲ散布スヘシ
 - 第十八條 神佛祭典其他賑ヒノ爲メ水戸錢席料等ヲ受カス興行セントスル時ハ所轄警察署分署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ
 - 第十九條 第二條第四條第五條第九條第十條第十四條第十八條ヲ犯シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處テ第十五條ヲ犯シタル時ハ興業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 島根縣令第五十六號 明治二十五年四月十四日
- 明治二十二年六月縣令第八十三號人寄席取締規則中左ノ通改正加除ス
- 第二條及第九條中「願出許可」トアルヲ「届出認可」トス
 - 第五條 寄席ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルモノハ元所有主ト連署シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 - 廢席シタルトキ亦前項ニ準シ届出ヘシ
 - 第六條中「願書」トアルヲ「届書」トス

第九類 ○警察 ○興業

第十條中「又ハ分署」トアレヲ「分署又ハ駐在巡查ノ中」トス

第十一條ヲ削ル
第十八條神佛祭典其他賑ヒノ爲メ木戸錢席料等ヲ受ケス興行セントスル者ハ届出ニ及ハスト雖第十五條第十六條ニ遵フ可シ

第十九條中第五條ノ下ニ「第一項」ノ三字ヲ加ヘ「第十一條」ノ四字及「第十八條」ノ四字ヲ削ル
島根縣令第十三號 明治二十六年一月二十七日

明治二十二年六月縣令第八十三號人寄席取締規則第五條第二項左ノ通改正ス
廢席シタル時ハ同署又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ

島根縣令第八十八號 明治二十六年九月十六日
明治二十二年六月縣令第八十三號人寄席取締規則第二條中「及近傍ノ家主地主ノ承諾書」改定後様式ハノ二十三字ヲ削除ス

島根縣令第四十二號 明治二十八年五月十七日

明治二十二年六月本縣令第八十三號人寄席取締規則中左ノ通改正追加ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十七條 興行中ハ左ノ各項ニ依リ清潔法ヲ行フヘシ

一 毎日開場前ニ於テ窓戸ヲ開放シ十分ニ空氣ヲ流通セシメ客席ノ敷物ハ都テ取上ケ日光空氣ニ曝シ且濕シ清潔ニ掃除シ塵芥ハ一定ノ場所ニ棄却スヘシ

二 大小便所ハ毎日一回以上尿尿ヲ汲取リ遍シ清潔ニ掃除シ尿尿溜及其周圍ニハ石炭酸又ハ石灰ヲ十分ニ撒布スヘシ

第十九條中第十四條ヲ犯シタル者ノ下ニ及第十七條ヲ犯シ官ノ督促ニ應セザル者ノ十八字ヲ加フ
警察署
明治十八年三月三十日

明治十一年十二月相達置候諸興行場及寄席出張心得別紙ノ通改正ス
右相達候事

興行場及人寄席出張心得

第一條 興行場及人寄席ヘハ巡查ヲ出張セシムヘシ但其人員ハ興行ノ模様ニヨリ適宜斟酌スヘシ

第二條 出張巡查ハ看客ノ安全ヲ保護シ噪鬧盜難火災等ノ虞ナカラシムルコトニ注意スヘシ

第三條 出張巡查ハ左ノ諸件ニ注意シ若シ之ニ觸ルモノアト認ムルトキハ其事由ヲ詳記シ署長ニ具申スヘシ但第三項ニ觸ルモノアルトキハ直ニ相當ノ手續ヲナスヘシ

一 御歴代ノ御事蹟ヲ摸擬シ皇徳ヲ褒讚シ奉ル事

二 現行ノ政体ヲ誹毀シ施政上ノ妨害トナルヘキ所業ヲナス事

三 取締規則ノ禁令ニ違背スルコトナキヤ否ヤノ事

第四條 出張巡查ハ時々興行場内ヲ巡視スヘシ

第五條 出張所ニ於テ猥リニ談話若シハ飲食スヘカラス

第六條 時宜ニヨリ警部出張スルコトアルヘシ

訓令警部第四十七號 明治二十二年十一月二十七日

觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噬嚼シ其他殘酷ノ處業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルハ風俗上最モ厭忌スヘキ儀ニ付自今右等ノ技ヲ演セントスルモノ有之節ハ嚴ニ制禁スヘシ

船舶難破船

縣令第七十八號 明治二十二年六月十日

乗客船營業取締規則別紙ノ如ク相定ム
警察署 分署
出雲國安芸郡並市町村

廿六年縣令
第三號參照

乗客船營業取締規則

第九類 ○警察 ○船舶難破船

第一條 乘客船營業トハ宍道湖又ハ内海島根郡美ニ於テ旅客ヲ乘載シ通船ノ業ヲ營ム者ヲ云フ
 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢ヲ詳記シ船体其他ノ調査ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
 第三條 船体ハ營業出願ノ際所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ爾後新造改造又ハ買受讓受ノ時ハ速ニ届出検査ヲ受クヘシ
 第四條 轉住改氏名等ニヨリ鑑札面ニ異動アル時及鑑札ヲ遺失毀損シタル時ハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
 第五條 廢業廢船又ハ船ヲ賣渡シ讓渡シタル時ハ速ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ
 第六條 鑑札ハ貸與スヘカラス
 第七條 船体ハ堅牢ニシテ必要ノ屬具ヲ全備シタルモノニ非サレハ營業ニ用ユルコトヲ得ス若シ破損腐蝕等ニヨリ危險ト認ムルトキハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
 第八條 營業者及船子ハ滿十八歳以上ニシテ身体強壯且實業ニ熟シタル者ニ限ルヘシ
 第九條 乘客ノ定員ハ一坪方六ニ付十人トス但十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三歳未満ノ者ハ定員外トス
 積荷ノ定量ハ乘客ノ手荷物ヲ除キ二十貫匁ヲ超過スヘカラス
 第十條 船賃ハ最寄同業者協議シテ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其變更アルトキ亦全シ
 第十一條 乘客定員並船賃表ハ乘客ノ見易キ所ニ釘付スヘシ
 第十二條 營業者ハ就業中鑑札ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ルコトヲ求ムル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ
 第十三條 行人ニ對シ強テ乗船ヲ勸ムヘカラス又乘客ノ指定セサル宿屋飲食店等ニ誘引スヘカラス
 第十四條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス
 第十五條 乘客上陸ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若之アル時ハ直ニ還付シ其主分明ナラサルモノハ速ニ警

警察分署巡查派出所又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ

第十六條 通船中遭難其他異狀アリタル時ハ着船ノ上速ニ警察署分署巡查派出所又ハ駐在巡查ノ中ニ届出ヘシ
 第十七條 乘客定員ニ超過スルカ又ハ積荷多量ニシテ危險ト認ムル時ハ之ヲ減少セシムルコトアルヘシ
 第十八條 第二條第三條第四條第五條第六條第十六條第十七條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
 附錄一 船体其他取調書式

一 船体	家形造又ハ何々
長	何思何尺
幅	何尺
客室	何坪何合
帆幅	幾幅
桅數	何挺
一 船名	何々(又ハ無シ)
一 製造年月	明治何年何月
一 乘組人員	何人
一 乘客定員	何人
一 積荷定量	何貫目

右之通相違無御座候也
 年 月 日

何 某

一 定時ノ出航ヲ休ミ又ハ臨時出航セントスルトキ

二 出航後途中ヨリ歸航シタルトキ

第七條 乗客ヲ運航スル漁船ニハ乗組員中ニテ取締人ヲ定メ置キ乗客又ハ貨物ニ關スル取扱其他船内ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第八條 航行中遭難其他異狀アルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查派出所駐在巡查ニ届出ヘシ但海難取調手續ニ該當スル場合ハ此限ニアラス

第九條 乗客及貨物ノ運賃各地發着寄航ノ定日時限ハ船内其他便宜ノ場所ニ揭示スヘシ

乗客ノ定員ハ每客室内ニ揭示スヘシ

第十條 乗客アル船舶ヲ曳カシメントスル漁船ハ豫メ該船定警場所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十一條 漁笛ハ左ニ掲クル場合ノ外濫リニ發スヘカラス

一 出航豫報 一 聲 二十秒以内

二 出港 一 聲 十秒以内

三 寄航入港 二 聲 一 聲 十秒以内

四 鐵路ノ分明ナラサルトキ若シハ港灣ニ近ツキ若シハ航路ノ模様ニヨリ豫メ他船ニ注意ヲ要スルトキハ適宜短聲(一 聲 五秒)ヲ發スヘシ但海上衝突豫防法ニ依ルヘキ場合ハ此限ニアラス

第十二條 繫泊場又ハ寄航場ヨリ同一ノ方向ヲ取リ二艘以上同時ニ出航スヘカラス

第十三條 航行中他船ト競走スヘカラス

第十四條 暴風出水其他警察官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ一時航行ヲ停止スルトコトアルヘシ

第十五條 凡ソ川筋ニ於テハ緩度ノ速力ヲ以テ通航スヘシ

第十六條 宍道湖、大橋川及其他川尻、佐田川、平田船川、莊原船川並ニ各港灣内ニ於テ炭滓ヲ投棄スヘカラス

ヲス

第十七條 港内ニ於テ乗客ノ通行ヲ妨クヘキ場所ニ物品ヲ積ミ置クヘカラス

第十八條 乗客アル漁船ノ甲板ニ物品ヲ積載スルトキハ船体ノ傾斜ヲ生セサル場所ニ置クヘシ

第十九條 漁船ノ舷門ニハ常ニ差板ヲ設ケ乗客ノ出入又ハ貨物ノ積卸ヲ爲ストキノ外之ヲ撤去スヘカラス

第二十條 乗客ヲ乗込マシメタル後ハ出航時限ヲ遅延スヘカラス

第二十一條 左ニ掲クルモノ、中第一項ハ之ヲ乗載スヘカラス其第二第三項ハ他ノ乗客ト其室ヲ異ニスヘシ

一 六種傳染病患者

二 看護人ナキ瘋癪者

三 乗客ノ厭忌スヘキ疾病者

第二十二條 左ニ掲クルモノハ他ノ乗客又ハ貨物ト其室ヲ異ニスルコトアラサレハ乗載スヘカラス

一 犬狗其他獸畜類

二 乗客ヲ妨害スルモノ又ハ不潔汚穢ノ物品

第二十三條 船体器械ニ必要ナル油類ヲ除クノ外船内ニ於テ揮發性ノ油類ヲ用ユヘカラス

第二十四條 船内ニ使用スル點燈器ハ堅牢ノモノヲ用ユヘシ

第二十五條 船内ハ常ニ掃除ヲ清潔ナラシムヘシ

第二十六條 乗客ニ對シ強テ物品ノ購求ヲ勸メ又ハ之ヲナスモノヲ乗込マシムヘカラス

第二十七條 強テ客ニ乗船ヲ勸メ又ハ客引ヲ出スヘカラス

第二十八條 第二條第三條一項第十條第十三條ヲ犯シタル者及第十四條停止ノ命令ニ従ハサルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料第四條第五條第六條第八條第九條第十條第十七條第十九條ヲ犯シタルモノ及第十一條ヲ犯シ制止ヲ肯セサル者ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

訓令警第三十六號 明治廿二年八月十二日 島 廳 警務部 警察署

第九類 ○警察 ○船舶難破船

DECLARATION OF MASTER

Nationality of Ship,.....
 Name of Ship,.....
 Name of Owner or Agent of the Ship,.....
 Tonnage,.....
 Description of Cargo,.....
 Name of Master,.....
 Number of Crew (Japanese,.....
 (Foreign,.....
 Number of Passengers,.....
 Port of Clearance,.....
 Port of Destination,.....
 Intermediate Ports in Japan, if any,.....
 Date of Arrival in present Port,.....
 Cause for Entering,.....

Master,

189,

第九類
 ○警察
 ○船舶難破船

二五七

キ尋問ノ時ニ當リ別紙書式ヲ交付シ船長或ハ副船司ヲシテ書式中ノ條項ヲ書記セシメ警察署又ハ分署ヨリ直
 チニ神戸税關ヘ送致スヘシ

外國軍艦縣下港灣ニ碇泊シタルトキ警察署又ハ分署所在地及其近接地ニ於テハ該署長其他ノ場所ハ戶長町村
 長速ニ之ヲ訪問シ左ノ區別ニ從ヒ直ニ海軍大臣及吳鎮守府司令長官ニ報告シ同時ニ警察本部ニ即報スヘシ
 但我國軍艦該港灣ニ碇泊スル節ハ大臣及司令長官ヘノ報告ヲ要セス
 一艦名入津月日時刻並何レヨリ何用ニテ入港何用ニテ何レニ出港
 右電信ニテ報告スヘシ但電信局ナキ地ハ最近ノ電信局マテ郵便ヲ以テ送リ同局ヨリ電信ニテ報告スヘシ
 一乗員ノ暴動其他見聞ノ次第
 右郵便ニテ報告スヘシ
 ●島根縣訓令第百一號 明治廿五年五月廿八日
 沿海 警察署(安來警察署) 警察分署(折屋分署)
 自今本縣沿海ニ於テ左ノ場合アルトキハ速ニ其地所轄ノ警察署又ハ分署ヨリ神戸税關ニ通報スヘシ
 但本件ニ關シ從前戶長役場又ハ町村役場ニ於テ取扱ヒタル事務ハ當該役場ヨリ引繼ヲ受クヘシ
 一稅關法第三條ノ違犯者アリタルトキ
 一法律命令ニ背キ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲ス者アリタルトキ
 一外國通船船避難ノ爲メ入港シタルトキ
 一外國船入港シタルトキ但特ニ免許ヲ受ケタルモノハ此限ニ非ス
 一外國通船船又ハ外國船難破シタルトキ
 ●島根縣訓令保第十一號 明治廿六年四月十七日
 沿海 警察署(安來警察署) 分署(折屋分署)
 明治廿五年五月島根縣訓令第百一號ニ依リ警察署又ハ分署ヨリ外國船入港等ノ件稅關ニ通報スヘキノ處今般神
 戶稅關長ヨリ照會ノ趣モ有之ニ付外國船難破シタルトキ困難又ハ薪水欠乏ノ爲メ本縣沿岸ニ寄港シタルトキ該船ニ就

二五六

NOTICE.

TO MARINERS PUTTING INTO A NON-OPENED PORT IN DISTRESS.

—♦—

Foreign ships or vessels are only permitted to enter non-opened ports or harbors when compelled to do so from stress of weather, or for a supply of fuel or provisions.

All ships or vessels so compelled to enter shall be placed under the supervision of the Japanese Authorities.

The master, or commanding officer, of a foreign ship or vessel entering a non-opened port or harbor shall fill up the blank on the opposite page with the required information—whenever it shall be presented by the Japanese Authorities—and sign his name to the same.

Any foreign ship smuggling or attempting to smuggle goods at any of the non-opened ports or harbours shall have all such goods forfeited to the Japanese Government, and the ship shall pay a fine of one thousand dollars for each offence of this kind, as provided for in the Trade Regulations.

In case a ship in distress is compelled to sell any spars, rigging or equipment, sea-damaged cargo or ship, a damage that may be subject to Customs duty, duty shall be paid at the Custom House at an open port before the delivery of the goods or the amount of duty may be deposited with the officer or officers despatched from the Custom House, and the described formality may be performed subsequently at the Custom House.

不開港ニ於テ困難船ニ附與スル告知書

外國船日本ノ開カサル港ニ入ルヲ得ルハ困難ノ爲メ漂着シタルカ又ハ船用ノ薪水若クハ食料等缺乏補給ノ爲メ止ムヲ得サルノ事故アル場合ニ限ルモノトス

不開港ニ入リタル船舶ハ都テ日本官吏ノ監督ヲ受ケサル可ラス

外國船不開港ニ入ルトキハ船長左ニ掲ケル項目ニ其事實ヲ記シ且記名シテ此書面ヲ持參セシ官吏ニ遞ニ提出スヘシ

外國船日本ノ開カサル港ニ於テ諸品ヲ密商シ或ハ密商セント謀ルトキハ其諸品ヲ日本政府ニ取リ上ケ犯セン毎ニ其船ヨリ一千「ドル」ノ罰金ヲ拂ハシムルコトハ貿易章程ニ規定スル所ナリ

困難船難破ノ船具又ハ沙溜ノ荷物或ハ船滓ヲ賣拂フコトヲ要スル場合ニ於テ其中ニ有税品アルトキハ本品ヲ引渡ス以前ニ開港税關ニ至リ納税ノ手數ヲ了スルカ又ハ税關出張官吏ニ税金ヲ預ケ置キ後ニ税關ニ於テ成規ノ手數ヲ爲スヘシ

船長申告

船ノ國籍

船ノ名

船ノ持主又ハ會社ノ名

船ノ噸數

積荷ノ概目

船長ノ名

乗組人數
日本人
外國人

船客人數

仕出シ港名

仕向ケ港名
寄港ニタル日本ノ港名
本港ニ入りタル月日
本港ニ入りタル事故
年 月 日

船 長

島根縣訓令保第二三號 明治二十七年十二月三日

沿海 警察署 安來警察署 分署 兩分署ナ除ク

今般内地貨物回漕ノ爲メ當分ノ内海運營業者ニシテ外國船ヲ雇入レ内地諸港間ニ貨物回漕ノ儀大藏省ニ於テ特許セラレ其雇主ノ遵守スヘキ要項概テ別紙ノ通ニ付右ノ旨趣ニ依リ取締方法注意スヘシ又第八項ノ避難入港證明書ノ請求ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シテ之ヲ交付シ其頗末ヲ具シ警察部長ニ報告スヘシ但縣下諸港ニ回漕ノ特許ヲ受ケタルモノアルトキハ其都度警察部ヨリ通達スヘシ

- (別紙)
- 一 雇主ハ雇外國船航行中該船ニ乗込ムヘキコト但雇主自ラ乗込ム能ハサルトキハ代人ヲマテ乗込マシムヘキコト
 - 二 雇主ハ地方官吏ノ要求ニ應シ何時ニテモ其船舶ノ積荷及雇外國船貨物回漕特許証等ヲ提示シ又其質問ニ應答スヘキコト
 - 三 雇主ハ其雇外國船ヲシテ貨物ヲ回漕スル港ニ於テ船舶ニ對スル規則ヲ遵守セシムルコト
 - 四 雇主ハ其雇外國船ヲ特許外ノ港ニ航行セシムヘカラス
 - 五 雇主ハ雇外國船ヲシテ特許ノ各港ニ於テ積入ル、回漕貨物及必要ノ船用品ヲ除ク外其他ノ貨物及何等ノ物品ヲモ一割積込マシムヘカラス又雇外國船ニ行商等ノ到ルヲ差止ムヘキコト

- 六 雇主ハ不開港ニ於テハ外國船員ヲ安ニ上陸シ又ハ陸上ト交通セシムヘカラサルコト
- 七 雇主ハ雇外國船特許ノ各港ニ到リタル日時、滞留ノ日數及出港ノ日時並ニ該港ニ於テ積卸セン貨物ノ品名個數ヲ詳記シ置キ追テ神戸港ニ歸リタルトキ必ス之ヲ該税關ニ報告スヘキコト
- 八 各港ニ於テ必要ノ船用品ヲ積入レタルトキハ其品名數置ヲ詳記シ置キ前項同様報告スヘキコト
- 八 雇外國船避難ノ爲メ特許外ノ港ニ入りタルトキハ其地警察官署ノ証明ヲ受ケ神戸港ニ歸リタルトキ之ヲ該税關ニ提示スヘキコト

特許証式ハ左ノ如シ
第 號

雇外國船貨物回漕特許証

何府何郡何村何番地
何會社長(若シ會社ナラバ) 何 之 誰

- 一 國名
 - 一 船種
 - 一 船名
 - 一 登簿噸數
 - 一 船長姓名
 - 一 回漕港
- 右何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ前記幾港間ニ限リ貨物ヲ回漕スルコトヲ特許ス
年 月 日 大 藏 省

第九類 ◎警察 (船舶難破船)

船燈信號器及救命具ノ檢定及監査手續別紙ノ通定ニ但シ明治二十七年十月本縣訓令保第二〇號船燈信號器監査手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

本令ハ明治二十八年十月一日ヨリ施行スヘシ
右訓令ス

船燈信號器及救命具檢定及監査手續

- 第一條 警察署長分署長ハ此手續ニ從ヒ其所轄内船燈信號器及救命具ノ製造所販賣所(請買所包含)並碇泊船舶ノ船燈信號器及救命具檢定及監査ヲ爲スヘシ
- 第二條 船燈ノ材料ハ玻璃ト銅、真鍮若クハ鉄ヲ用ヒ玻璃ハ寒氣ニ堪ヘ凍氷ノ爲メ龜裂セサル品質ヲ用ヒ其接合ノ部分ハ密着シテ寒モ間隙ナク堅牢ニ構造シタルモノヲ合格トナスヘシ但海上衝突豫防法第七條第九條ニ依リ小形船及漁船ニ於テ用ユヘキ船燈ハ本條ニ記載スル金屬ヲ使用セサルモ堅牢ナリト認ムルトキハ合格トナスコトヲ得
- 第三條 船燈ノ空氣孔ハ上下共ニ不釣合ナク油壺ハ燈油ノ漏洩セサル様堅牢コ之ヲ製造シ點火口ノ抑ヘ金及注油口ノ栓ハ螺旋形ノ裝置ナルモノヲ合格トナスヘシ
- 第四條 船燈ノ光達距離ハ海上衝突豫防法ニ規程スル距離ニ到達シ其射光方位ハ同法ニ規程スル方位ニ適合スルモノヲ合格トナスヘシ
- 第五條 船燈ノ光達距離ハ實試驗ニヨリ若クハ光達距離測定器ヲ以テ之ヲ算定シ其射光方位ハ玻璃球ノ弧ニ對スル全圍ノ中心ヨリ玻璃球ノ弧ノ中央ニ至ル直線ト玻璃球ノ各端ヨリ點火口ノ兩端(若シ八字形ナルトキハ其後端)ヲ經テ引キタル二直線トノ交切點ヨリ玻璃球ノ各端ヘ引キタル直線間ノ弧度ヲ射光方位トス
- 第五條 機械製霧中號角、空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭、紅光焰管、焰管並ニ救命焰ハ其用方及保存ノ適否ヲ調査シ且之ヲ吹鳴若クハ發火セシメ其成績各良好ナリト認ムルトキハ之ヲ合格トナスヘシ

第六條 救命浮環ハ二十四斤以上救命浮帶ハ十一斤二五以上ノ重量ヲ附着シテ之ヲ水中ニ投入シテ二十四時間水面ニ浮游シ其構造良好ナリト認ムルトキ合格トナスヘシ

第七條 船燈信號器及救命具免許製造人若クハ免許販賣人ヨリ其製造品又ハ販賣品檢定ノ申請ヲ受ケタルトキハ其製造所若クハ販賣所ニ就キ檢定ヲナスヘシ

檢定官吏ハ船燈信號器及救命具ノ製造品若クハ販賣品ヲ其原器、仕様書及試驗成績書ニ照ラシテ之ヲ査取シ必要ト認ムルトキハ各種類毎ニ一二箇ヲ實地ニ試驗シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ不合格ノ點ヲ認篤ニ指示シ之ヲ改良セシムヘシ

第八條 第七條ニヨリ檢印ヲ附スルトキハ船燈、機械製霧中號角ニハ極印ヲ押捺シ救命焰、空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈、火箭紅光焰管、及焰管ニハ紙札ヲ貼付シ救命浮環及救命浮帶ニハ朱肉印又ハ黒肉印ヲ押捺スヘシ

前項ノ極印紙札及朱肉印又ハ黒肉印ニハ題名ヲ記シ其大ナル形狀等ハ別紙雛形ニヨルヘシ

第九條 檢定官吏ハ第一號書式ニヨリ檢定報告書ヲ作リ前年十二月末日迄ノ分ヲ翌年一月十五日限リ警察部ニ差出スヘシ

第十條 監査ハ毎年一回以上之ヲ爲スヘシ

第十一條 監査官吏船燈信號器及救命具ノ製造所販賣所(請買所包含)及碇泊船舶ニ臨檢シ修繕ヲ要スヘキモノアルトキハ其修繕ヲ命シ汚損若クハ朽腐シテ實用ニ適セサルモノアルトキハ其檢印ヲ取消シ又ハ檢印ナキモノヲ使用スルモノアルトキハ犯則ノ處分ヲ爲スヘシ

第十二條 船燈信號器及救命具取締規則施行以前ヨリ船舶ニ備付ケ使用スル船燈、信號器、救命具ハ第二條乃至第六條ニ準シテ之ヲ査取シ合格ト認ムルトキハ檢印ヲ附シ不合格ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十三條 監査官吏ハ船長若クハ運轉手ニ對シ船燈、信號器、救命具、隔板ノ裝置及其用方ヲ諮詢シ了知セサルモノアルトキハ懇篤ニ之ヲ教示スヘシ

第十四條 監査官吏ハ第一號若シハ第三號書式ニヨリ監査報告書ヲ作り前年十二月末日迄ノ分ヲ翌年一月十五日限リ警察部ヘ差出スヘシ

檢印 離形

此長サ五分

極印

島根縣 輪廓ナシ

朱黒肉印

文字ノ大サ三號活字位

七分

島根縣

一寸五分

第一號書式

從明治 年 月 日 船燈信號器救命具檢定報告

何警察署長名(何分署長名)

船燈

製造人 氏

名

種別

銅製

眞鍮製

亞鉛製

銅製

眞鍮製

亞鉛製

檣燈

四十噸以上ノ汽船用

四十噸以下ノ汽船用

四十噸以上ノ汽船及

二十噸以上ノ帆船用

四十噸未満汽船用

兩色燈

種別	銅製	眞鍮製	亞鉛製	銅製	眞鍮製	亞鉛製
檣燈						
舷燈						
兩色燈						

燈籠	白	兩色	白燈	電信線布設及引揚用	刺網漁船用	綠網漁船用	水先船用	船尾掲標用	操舵目標用	紅燈	三色燈	碇泊燈	
	白	兩色											
種別	合	箇	製	造	人	氏	名	數	格	不	合	數	格
器械、製霧中號角													
空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈													

第九類 ○警察 ○船舶難破船

如シ精算書一通ヲ調製シ浦役人又ハ町村長ハ島廳又ハ郡役所ニ差出シ市長ハ之ヲ其役所ニ保存シ別ニ任譯書ヲ調製シ縣廳ニ請求スヘシ

但精算書ニ添付スヘキ明細書ハ左ノ件々ヲ詳記スヘシ

船主船長乘客ノ族籍住所姓名年齢

日本形外國形ノ區別

日本形ハ帆數石數

外國形ハ風帆浪船軍艦商船木製鉄製ノ區別及長幅噸數馬力

船號

遭難ノ時 年月日時

遭難ノ地 何地航海若クハ碇泊中

難破ノ因由 暴風若クハ暗礁ノ爲

難破ノ景狀 皆破若クハ船體ニ思ユルカ又ハ船體破ノ破損等

難破地ノ距離 近傍ノ燈臺岬港若クハ著名ノ山岳或ハ市街等ヨリ遭難場所迄距離及方位

但遭難地及其近傍ノ粗圖ヲ添付スルヲ要ス

乗組人及乘客ノ死傷 死亡並重傷ノ區別及其姓名

積荷ノ存否 何品沈没何程

第一條 前條浦役人又ハ町村長ヨリ精算書ヲ差出シタルトキハ地方稅支辨ニ屬スルモノハ郡役所ヨリ國庫費支辨ニ屬スルモノハ縣廳ヨリ下付ス隱岐國ニ屬スルモノハ總テ島廳ヨリ下付スヘシ

難破船諸費精算書

一金

但内國船難破及漂流物取扱規則第十一條ニ依リ保安物賣却代金ノ内ヲ以テ船主荷主ヨリ償却ノ分

△(官費ヲ要スルトキノ例)

一金

△内金 △官費ヲ以テ御下渡可相成分 △保安物賣却代ヲ以テ償却ノ分

△但内國船難破及漂流物取扱規則第十一條ニ依リ船主荷主ヨリ全償スヘキ處保安物賣却代金ニテ全償スル能ハサルヲ以テ不足處官費ヲ以テ御下渡可相成分

△(内譯費目毎ニ官費保安物賣却代ノ區別ヲ記載スヘシ)

△(又ハ)

△二金

△但内國船難破及漂流物取扱規則第十一條ニ依リ船主荷主ヨリ償却スヘキ處保安物無之ニ付官費ヲ以テ全額御下渡可相成分

△本費ハ正當債主ニ下渡スヘキモノニ付其氏名住所屋敷番ヲ内譯金員ノ下ニ記載スヘシ

内譯

保安料

但沈ニ物公賣代金何程此保安料何程浮キ物公賣代金何程此保安料何程

人足賃

但救助ノ節働人足何人何日分備賃一人ニ付一日金何程宛

小船賃

但救助ノ爲小船何艘賃 一艘ニ付金何程

金 但保安物ノ爲取設タル小屋掛人足何人備賃一人ニ付金何程 人 足 賃
 金 但何前同斷ノ爲藁何把代 藁 代
 金 但前同斷ノ爲杭木何本代 杭 木 代
 金 但前同斷ノ爲繩何把代 繩 代
 金 但前同斷ノ爲繩何把代 繩 代
 金 但保安物ノ爲番人何人何月何日ヨリ何月何日迄何日分一人ニ付金何程 番 人 給
 金 但乘組ノ者怪我人何人療養ニ付何藥何貼代一貼ニ付金何程 藥 餌 料
 金 但前同斷ニ付醫師何度診察料一度金何程 診 察 料
 金 何前同斷ニ付看病人何人何月何日ヨリ何月何日迄何日數何日備賃一日一人ニ付金何程 看 病 人 給
 金 但溺死人搜索ノ爲人足何人備賃一人ニ付一日金何程 人 足 賃
 金 但前同斷ノ爲小船何艘賃 小 船 賃
 金 一艘ニ付金何程 一 艘 賃
 金 人 足 賃

一金 但溺死人埋葬ニ付人足何人備賃一人ニ付金何程

内金 但内國船難破及漂流物取扱規則第十二條第四五該當ノ費用ニ付三分二船主荷主ヨリ償却三分一
 地方税ヲ以テ御下渡可相成分
 △(官費ヲ要スルトキノ例)

△官費ヲ以テ御下渡可相成分
 △地方税ヲ以テ御下渡可相成分
 △但内國船難破及漂流物取扱規則第十二條第四五該當ノ費用ニ付三分一地方税ヲ以テ御下渡可相成分
 △(内譯記載方モ前項ノ例ニ倣フ)

内譯 人 足 賃
 内金 但救助人溺死ニ付搜索ノ爲人夫何人備賃一人ニ付金何程 地方税 保 安 物 賃 却 代
 金 但救助人溺死ニ付搜索ノ爲小船何艘賃一艘ニ付金何程 小 船 賃
 内金 但救助人溺死ニ付搜索ノ爲小船何艘賃一艘ニ付金何程 地方税 保 安 物 賃 却 代
 金 但救助人溺死ニ付搜索ノ爲小船何艘賃一艘ニ付金何程 藥 餌 料

内金 但救助ノ内怪我人何某外何人治療中何藥何程一貼ニ付金何程
 内金 但前同斷ニ付醫師診斷料何度ニ付金何程
 内金 但救助ノ爲溺死何某外何人埋葬ニ付人足何人備賃一人ニ付金何程
 内金 但前同斷ニ付何々品代一個ニ付金何程
 一金 但内國船難破及漂流物取扱規則第十二條第二三該當ノ費用ニ付三分二船主荷主ヨリ償却三分一
 町(村)費ヲ以テ支辨スヘキ分
 地方税 保安物資却代
 診 察 料
 地方税 保安物資却代
 人 足 賃
 地方税 保安物資却代
 町(村)費ヲ以テ支辨スヘキ分
 船主荷主ヨリ償却スヘキ分
 但内國船難破及漂流物取扱規則第十二條第二三該當ノ費用ニ付三分一町(村)費
 支辨三分二船主荷主ヨリ償却スヘキ處規則第十五條ニ據リ官費ヲ以テ御下渡可
 相成分
 官費ヲ要スルトキノ例)

△(内國記號方モ前項ニ倣フ)

内 薪 代
 内金 但薪何十貫目
 薪 町(村)費 保安物資却代 一貫目ニ付金何程
 炭 代
 内金 但炭何十貫目代
 炭 町(村)費 保安物資却代 十貫目ニ付金何程
 蠟 燭 代
 内金 但蠟燭何十挺代
 蠟 町(村)費 保安物資却代 一挺ニ付金何程
 筆 代
 内金 但筆何本代
 筆 町(村)費 保安物資却代 一本ニ付金何程
 紙 代
 内金 但何紙何帖代
 紙 町(村)費 保安物資却代 壹帖ニ付金何程
 墨 代
 内金 但墨何挺代
 墨 町(村)費 保安物資却代 一挺ニ付金何程
 電 信 料

内金 但何々ニ付何處へ何度何音信通信料
 町(村)費 保安物賣却代
 郵 便 税 町(村)費 保安物賣却代
 金 但何々ニ付何處へ何度何音信翰差立(内何度ハ書留)郵便税
 町(村)費 保安物賣却代
 内金 飛 脚 賃 町(村)費 保安物賣却代
 内金 但何々ニ付何處へ飛脚何人差立賃此總里程何里一里壹人ニ付金何程
 保安物公賣代總高
 一金

右ハ何年何月何日何國何郡何町何村何某船何九難破ニ罹リ候節諸費書面ノ通相違無之ニ付官費(及地方税)ヲ以テ支辨可相成分御下渡被下度候也

島根縣何國何郡何町何村浦役人(町村長)
 何 某印

島根縣何國何郡何町何村何番地
 船主 何 某印

何縣何國何郡何町何村何番地
 荷主 何 某印

島司郡長何某殿

島根縣訓令保第九號 明治二十六年四月七日 沿海 警察署 分署

船舶衝突乘揚等ノ原因ニ依リ沈没若クハ破壊シ又ハ乘客若クハ乗組員死傷シタル場合ニ在テハ本年三遞信省令第五號ニ依リ海難取調ノ完結スルト否トニ拘ハラシ沈没若クハ破壊ノ原因、日時、場所、船名、死傷人ノ員數等ヲ電報又ハ速達スヘキ方法ヲ以テ直チニ警察部ニ報告スヘシ

島根縣告示第九十四號 明治二十六年四月二十七日 因伯隱三ヶ國 各區正區長ニ

明治二十六年三月遞信省令第五號海難取調手續第二條第三條中警察署ニ届出ノ事項ハ警察分署ノ所轄内ニ係ルモノハ該分署ニ於テ取扱フ

丙第百三十九號 明治十年六月十三日 因伯隱三ヶ國 各區正區長ニ

從來浦役人ノ儀ハ辭令暨授與致來候處相廢止爾後沿海正副戶長奉職ノ者ハ浦役人兼務申付候依テハ浦役人ノニ相勤候者ハ解職ト相心得事務ハ該地擔當正副戶長ノ内へ受渡執計其旨區長ヨリ可届出此旨相達候事

丙第百七十一號 明治十年七月二十六日 浦役人ニ

浦役人之儀ハ沿海村浦擔當ノ正副戶長兼務ニ有之處往々取扱上區務ト混同候而ハ不都合ニ付左ニ揭載セル事務ハ浦役人ノ擔任ト相心得都而其職名ヲ以取扱諸帳簿等モ區別相立置可申此旨相達候事

一浦役人ハ其地繫泊船ニ關スル庶務ニ對シ或ハ船具ノ毀損或ハ薪水糧食ノ欠耗等困難ヲセルノ類 及難破船取扱難破浦証文付與等ノコトヲ掌ル

乙第三十四號 明治十五年三月二十二日 郡町村

浦役人難破船取扱ノ間日當給與致來候處右ハ本務戶長ノ給料アルモノニ付自今支給不致候條此旨相達候事

縣令第七號 明治二十二年一月十八日 街路取締規則別紙ノ通定メ明治二十一年三月一日ヨリ施行ス

第九類 ○警察 ○街路

廿六年版
 第九十四號

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス
第二條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴收ス

第二章 街路ノ安寧及保存

- 第三條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス
- 第四條 左ニ掲ケルモノハ街路ニ出スヲ得ヘキモノトス
 - 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
 - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒシ地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
- 第五條 左ニ掲ケルモノハ其場ノ圍面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケヘシ但第一乃至第五ハ戶長ノ與印ヲ要ス
 - 一 數戸共用ノ爲メ飲用水井戸ヲ設クル事
 - 二 消防具其他公衆ノ用ニ供セル物件ノ置場ヲ設クル事
 - 三 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
 - 四 街燈ヲ建設シ又ハ樹木ヲ植ニル事
 - 五 華表指導標其他公衆ノ用ニ供セル標識ヲ建設スル事
 - 六 柵欄支柱又ハ上ケ様ヲ設クル事
 - 七 屋臺店床店露店ヲ出シ又ハ一時小屋掛若クハ葎蓋張ヲ設クル事

八 工事ノ爲メ路傍ニ竹木土石類ヲ置キ又ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事

九 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事

十 神輿山車手踊屋臺又ハ舞臺ヲ出スル事

十一 神佛祭禮法會祝敷又ハ諸興行其他報告ノ爲メ榜標ヲ建設スル事

十二 神佛送迎ノ爲メ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛馬車ニテ運搬スル事

十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事

第六條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ

第七條 街路ニ出テタル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設ケヘシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ出スヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス

第八條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニヨリ道敷ノ境界ニ塙塙ヲ設ケヘシ

第九條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルトキハ顛仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條 街路ニ沿フタル建物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ

第十一條 街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設ケヘシ

第十二條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲ケヘシ

第十三條 地盤ニ凹所ヲ生シ通行危險ノ虞アルトキハ防圍ヲ爲スヘシ

第十四條 橋梁溝渠下水又ハ制札指導標便所塙壁ヲ毀損壅塞若クハ汚損シ及街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十五條 便所塙壁橋欄等ニ榮膏貼紙ヲ爲スヘカラス

第十六條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ配列シ又ハ出シ置クヘカラス

第九類 ○警察 ○街路

第十七條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲナシ又ハ爲サシムヘカラス

第十八條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第十九條 街路ニ於テ放蕪高聲シ若クハ喧嘩醉臥スヘカラス

第二十條 街路ニ於テ松明又ハ裸火ヲ燭スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十二條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十三條 街路ノ積雪ハ時々之ヲ掃除スヘシ但日没後日出前ハ此限ニアラス
掃除ニタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ

第二十五條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十六條 下水ハ毎年二回十月浚渫スヘシ

其浚渫掘ケタル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第二十七條 街路ノ掃除ハ其兩側居住人ニ於テ中央ヲ限界トシテ負擔シ片側ナレハ其居住人全ク之ヲ負擔ス
ヘシ但空屋空屋敷ナルトキハ其所有主ノ負擔トス

第二十八條 街路ノ廣場及橋梁下水等一町若クハ數町ニ關スルモノハ其關係町内ノ負擔トス

第二十九條 街路又ハ之ニ沿フタル河川ニ於テ蓋ナキ器物船等ニテ尿尿ヲ運輸スヘカラス

第三十條 街路ニ沿フタル乘船場ニ於テ尿尿ヲ載セタル船ヲ繫クヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十二條 街路ニ於テ敷物塵屑其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十三條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十四條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ懸垂其他見苦敷ク若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十五條 牛馬及諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ

第三十六條 夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス

第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ヲ並ニ挽キ又ハ溢リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十九條 車二輛以上ヲ連繫シテ曳クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十條 人馬諸車ノ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及歩行者行進フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ糞送等ニ行進フトキハ避讓スヘシ

第四十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十二條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第四十三條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ街路ニ横ニヘカラス但一時車輛ヲ路傍ニ駐止スルトキハ其側面ヲ街路ニ
向ケ置クヘシ

第四十四條 制止ヲ肯メセスニテ人ノ群集シタル場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第四十五條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第四十六條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ曳テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十七條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシムヘカラス

●第九類 ○警察 ○街路

第四十八條 街路ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬ヲ弄スル等通行ノ妨ケトナルヘキ遊戯ヲ爲シ又ハ爲サ
シムヘカラス

第四十九條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セヲ爲スヘカラス

第五章 罰例

第五十條 第三條第五條ヲ犯シタル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料第六條第九條ヲ犯シ官ノ督促ニ
應セサル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料第十五條第二十條第二十六條第二十九條第三十條第三十一條
ヲ犯シタル者及第二十一條第三十四條第三十七條第三十九條第四十五條第四十九條ヲ犯シ制止ヲ肯ンセサ
ル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス但刑法ニ正條アル者ハ各其本條ニ依リ處分セラレヘン

●島根縣令第九十四號 明治二十六年十月六日

明治二十一年一月十八日

●縣令第八號

街路取締規則ハ當分ノ内松江市街及ヒ其接續連擔ノ地ニ限リ施行ス現在ノ建物軒擔物干等ニシテ本則第三條
ニ牴觸シ及ヒ第四條第二項ノ制限ニ適セサルモノハ明治二十二年中改造又ハ除去スヘン但從前拜借地ニ設ケ
アルモノハ其拜借年期中之ヲ存スルコトヲ得

●縣令第九號

明治二十一年一月十八日

街路取締規則第一條第二條第五條第一項第二項第三項第四項第五項第十三項第六條第十條第十四條第十五條
第十九條第三十六條第三十八條第四十條第四十四條第四十七條ハ一般ノ公道ニ適用シ全則第五條第八項第九
條第十一條第十八條第二十條第二十一條第二十五條第二十九條第三十一條ハ人家稠密ノ地ニ適用ス前條項ヲ
犯シタル者ハ全則第五十條ニ依リ處分ス

●訓令警第二十七號

明治二十三年八月十二日

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ハ公衆ノ不便ヲ感スル勢ナカラサル所ナルニ依リ街

警察署 分署

路取締規則第五條第三項通行停止ノ願出アリタルトキハ事實精査ヲ遂ケ工事上大ナル支障アルカ又ハ通行ニ
危険ノ虞アルモノヲ除クノ外ハ許可セサル様注意スヘン

●島根縣訓令保第十七號

明治二十六年八月三十日

第一種道路橋梁ニ破損又ハ障害ヲ生シ通行危險ノ虞アリ臨時防圍又ハ標誌ヲ設ケルハ自今警察署分署ノ取扱
ニ屬セシムルニ付右ノ場合ヲ認メ又ハ市役所、町村役場ノ通知ヲ受ケタルトキハ警察署分署又ハ駐在巡查ニ
於テ速ニ防圍標誌ヲ設ケ置其旨所屬土木管區員派出所ニ報告スヘン但防圍標誌ヲ設ケル費用ハ警察署經費ヲ
以テ支辨スヘン

●島根縣訓令保第十六號

明治二十六年八月三十日

第一種道路橋梁ニ破損又ハ障害ヲ生シ通行危險ノ虞アリ臨時防圍又ハ標誌ヲ設ケルコトハ松江警察署ニ於テ
取扱フニ付右ノ場合アルトキハ全署又ハ同署巡查派出所ニ通知スヘン

●島根縣訓令保第十五號

明治二十六年八月三十日

第一種道路橋梁ニ破損又ハ障害ヲ生シ通行危險ノ虞アリ臨時防圍又ハ標誌ヲ設ケルコトハ警察署分署ニ於テ
取扱フニ付右ノ場合アルトキハ其地町村役場ヨリ最寄警察署分署又ハ駐在巡查ニ通知セシムヘン

●乙第八十五號

明治十八年六月九日

郵便物ノ裝ハ專ラ速達ヲ要シ候ニ付其線路修繕等ニ際シ往來止又ハ車止等ノ箇所ト雖トモ入車ノ通行ヲ得ヘ
キ時ハ郵便物遞送ニ限リ特ニ通行差許スヘン此旨相達候事

監視執行

●警第九號

明治十五年三月十三日

監視執行心得書別冊之通相定候條此旨相達候事

監視執行心得書

第一章 監視

●第九類 ○警察 ○監視執行

十五年警第
十六號公第
十六年公第
十五年訓令
第十號公第
十五號公第

第一條 刑法附則第二十二條ニ依リ監視ニ付セラレタル者ヲ典獄又ハ檢察官ヨリ護送シ來リ及同則第二十五條ニ依リ犯人旅券ヲ携帶出頭シタルトキハ警察署又ハ分署ニ於テ左ノ手續ヲナスヘシ

一 刑法附則第二十三條ノ書類ヲ査閲シ又旅券アル者ハ之ヲ領收シ犯人ノ容貌體格ヲ改メ監視人名簿第一號式ニ登錄スヘシ

二 同則第二十六條ニ依リ監視票第二號式裏面記載ノ條件ヲ讀聞カセ尙其主旨ヲ懇篤ニ説聞カセタル上之ヲ下付スヘシ

三 警察署ニ於テ犯人ヲ受取リタルトキ其犯人ノ住所分署又ハ交番所ノ所管ニ屬スル者ハ前兩項ノ手續ヲナシタル上監視人名簿ノ寫ヲ該署ニ送付スヘシ

犯人若シ典獄又ハ檢察官ヨリノ護送ニ係リ一日程ニシテ其住所ニ到ルヲ得サル者ハ全上ノ手續ヲナシタル上刑法附則第二十四條ニ準シ第二條第一項ノ手續ヲナシ旅券ハ犯人住所々轄ノ分署又ハ交番所ヘ還納セムヘシ

四 分署ニ於テ所轄警察署以外ノ所ヨリ犯人ヲ受取リタルトキハ第一項第二項ノ手續ヲナシタル上第一項ノ書類及監視人名簿ノ寫ヲ所轄警察署ニ同送シ所轄警察署ニ於テハ該署ノ監視人名簿ニ之ヲ登錄スヘシ

犯人ノ住所其分署内ノ交番所所管ニ屬スル者ハ該所ヘモ監視人名簿ノ寫ヲ送付スヘシ

第二條 刑法附則第二十四條ニ依リ監視ニ付セラレタル者ヲ典獄又ハ檢察官ヨリ護送シ來リタルトキハ警察署ニ於テ左ノ手續ヲナスヘシ

一 刑法附則第二十五條ニ依リ旅券第三號式ヲ下付シ券面記載ノ條件ヲ懇篤ニ説キ聞カスヘシ
但日數ヲ限定スルハ一日程十里トシ端里數ハ一日程トナシ計算スヘシ

二 同條末項ニ依リ同則第二十三條ノ書類ヲ犯人住所ノ地ノ警察署又ハ分署ニ遞送シ且旅券ニ記載セシ犯人到着スヘキ日限ヲ通知スヘシ

第三條 監視ニ付セラレタル者住居ヲ移轉シ又ハ旅行セシコトヲ請願シタルトキハ其事由ヲ詳查シ警察署ニ於テ之ヲ許否スヘシ

但轉住願ハ本廳ヘ稟議ノ上許否スヘシ

第四條 住居ヲ轉スルコトヲ許可セタルトキハ警察署ニ於テ左ノ手續ヲナスヘシ

一 其署所轄外ノ地ニ轉住スルトキハ刑法附則第二十五條ニ準シ第二條第一項ノ手續及同則第二十九條ニ依リ第二條第二項ノ手續ヲナシ且同條ニ依リ轉住ノ事由ヲ通知スル爲メ願書ノ寫ヲ轉住地ノ警察署又ハ分署ニ遞送スヘシ

二 轉住ノ地仍其署ノ所轄ニ係リ分署又ハ交番所ノ所管ニ屬スルトキハ監視人名簿ノ寫ヲ該署ニ送付スヘシ

犯人一日程ニシテ轉住地ニ到ルヲ得サル者ハ第一條第三項末節ノ手續ニ從フヘシ

第五條 他府縣ニ旅行スルコトヲ許可シタルトキハ警察署ニ於テ刑法附則第三十條ニ依リ第二條第一項ノ手續ヲナスヘシ

但旅券ヲ分署又ハ交番所ニ送付シ該署ヨリ下付セシムルハ妨ケナシ

第六條 刑法附則第三十條末項ニ依リ犯人旅券ヲ出シタルトキハ警察署又ハ分署交番所ニ於テ旅券ニ記載セシ者ニ無相違ヤ否ヲ取札シ然ル后認印第四號式ヲ捺シテ之ヲ下付スヘシ

第七條 刑法附則第三十一條ニ依リ犯人淹滞証書第五號式ヲ請求セントキハ警察署又ハ分署交番所ニ於テ旅券ヲ査閲シ淹滞ノ事由ヲ取札シ無相違トキハ之ヲ下付スヘシ

第八條 監視ニ付セラレタル者謹慎悛改ノ狀アリ刑法附則第三十六條ニ依リ内務司法兩卿ヘ具申セントスルトキハ警察署ヨリ案ヲ具シテ本廳ヘ稟議スヘシ

第九條 前條兩卿ノ指令アリタルトキハ警察署ニ於テ其指令ニ依テ處分シ其額未本廳ヘ開申スヘシ

第十條 假リニ監視ヲ免メタル者住居ヲ移轉セシコトヲ請願シタルトキハ刑法附則第三十七條ニ依リ第三條

●第九類 ○警察 ○視監執行

ニ照準處分ヲ許可シタルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ
 一 其署所轄外ノ地ニ轉住スルトキハ刑法附則第二十七條ニ依リ同則第二十三條ノ書類及假ニ監視ヲ免
 二 轉住ノ地仍其署ノ所轄ニ係リ分署又ハ交番所ノ所管ニ屬スルトキハ第四條第二項第一節ノ手續ニ從
 第三 但同警察署管轄地内ノ轉住ニ係ルトキ及假ニ監視ヲ免シタルモノハ監視票ヲ渡スヲ要セス
 第十二條 犯人監視票ヲ携ヘ出頭シタルトキハ所轄警察署又ハ分署交番所ニ於テ犯人ニ對面シ監視票ニ其月
 日ヲ記入認印シテ下付シ監視人出頭簿第六號ニ其月日ヲ記入認印シ置クヘシ
 犯人疾病又ハ事故アリテ其事由ヲ届出タルトキハ監視人出頭簿ニ其旨ヲ記入認印シ犯人次回ニ出頭シタル
 トキ監視票ニ之ヲ追記認印スヘシ
 第十三條 監視ニ付セラレタル者ハ法律規則ニ定ムル所ニ依リテ檢束スルノ外日常其舉動ヲ觀察シ再ヒ罪ヲ
 犯スノ慮隙ナカラシムルコトニ注意スルヲ緊要トス
 但犯人ノ住所分署又ハ交番所ノ所管ニ屬スルトキハ所管ノ署主トシテ之ヲ觀察スヘシ
 第十四條 監視ニ付セラレタル者刑法附則ニ定ル所ノ規則ニ違背シタルトキハ現行非現行ヲ區別シ治罪法ニ
 從ヒ處分スヘシ
 第十五條 監視ニ付セラレタル者ヲ受取リタルトキ及其犯人轉住死没若クハ監視期限ニ關係ノコトアリタル
 トキハ分署交番所及各警察署ヘ通知スヘシ
 第十六條 犯人監視中其名簿中ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其部分ヲ改正シ其他犯人ノ身分ニ關スル事件
 有之トキハ逐次名簿ニ登錄シ監視期限及犯人死没若クハ所轄外ノ地ニ轉住スル等監視ノ執行ヲ舉リタルト
 キハ其事由ヲ朱記シ犯人ノ氏名ヲ抹却スヘシ

第二章 特別監視

第一條 刑法附則第四十二條ニ依リ特別監視ニ付セラレタル者ヲ典獄ヨリ護送シ來リタルトキハ同條ノ書類
 ヲ査閱シ第一章第一條ノ手續ヲナスヘシ
 第二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營ンコトヲ請願シタルトキハ其事
 由ヲ詳查シ警察署ニ於テ本廳ヘ稟議ノ上之ヲ許否スヘシ
 第三條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ニ至リ刑法附則第四十六條ノ手續ヲナサハルトキハ督促シテ還納セ
 シメ全條規定ノ如ク處分スヘシ
 主刑滿限ノ後監視ニ付スヘキモノハ同條後項ニ依リ第一章ノ手續ニ依ルヘシ
 第四條 特別監視ニ付セラレタル者住所ヲ移轉センコトヲ請願シタルトキハ第一章第三條ノ手續ニ從ヒ許可
 シタルトキハ假出獄ヲ許シタル典獄ニ之ヲ通知スヘシ
 第五條 第一章第二條第四條第六條第七條及第十一條以下ノ各條ハ本章ニ於テモ亦之ヲ適用ス
 又ハ
 第一號 (監視人名簿式用紙)
 明治何年何月何日本入出頭
 但何府何監獄署(何裁判所)廻リ何府何警察署
 ヲリ送付
 但何府何國郡町村ヨリ轉住全府何警察署ヨリ送付
 但何府何國郡町村ヨリ轉住全府何警察署ヨリ送付
 右滿限後
 監視何年何月
 何某何

犯人	明治何年何月何日何府何監獄署 (何裁判所)ヨリ護送
受取	區別
監視	特別監視
區別	監視(特別監視)
住居	島根縣何國郡町村何番地
職業	居住何職(華士族) 何某何

第九類 ○警察 ○監視執行

件	雜	科	前	名 人 視			
				所名	全上	年宣	刑主
何重罪裁判所	明治何年何月何日	強盜	輕懲役何年(期滿免除)(自首免罪)	監視	何年何月	但自明治何年何月何日	○至明治何年何月何日
				期限	何年何月	但自明治何年何月何日	○至明治何年何月何日
相 體 人 犯				氏名	何ノ某		
身長	音聲	鼻	頭髮	丈	何ノ某		
輕樂ヲ善ク	音高ノ出雲	高キ方	斬髮色赤ク	何尺何寸	當何月		
妻子	痘痕	口	眼	顔	何年何月		
子妻ナア	ナ	廣キ方	大キナル方	丸キ方	何年何月		
宗門	純	齒	眉	色	何年何月		
具宗	位ノ刀痕	齒並不揃入	齒	白キ方	何年何月		

一明治何年何月何日自ラ産ヲ治メ何職ヲ營マンコトヲ出願シ之ヲ許可ス
 一全年何月何日當部下何郡何町ニ移住ス
 一明治何年何月何日私ニ旅行シ何裁判所ニ於テ重禁錮何月ニ處セラル

第二號(監視票式西ノ内)
監視人出頭
簿ト割印

表 面

日 月 頭 出												限 期 視 監		第 明 何 治 何 年	監 視 票
六月		五月		四月		三月		二月		一月		監視何年何月 但自明治何年何月 至、、、、、、、	犯人 住 所 何 某 何		
下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上			何日出頭	犯 人 島根縣何國郡何村何番地
												他行中	住 所 何 某 何		
												病氣	住 所 何 某 何		
												何日出頭	住 所 何 某 何		
													住 所 何 某 何		
													住 所 何 某 何		
													住 所 何 某 何		
													住 所 何 某 何		
													住 所 何 某 何		
													住 所 何 某 何		

第九類 ○警察 ○監視執行

裏面

監視 期 限 可 遵 守 條 件

一 每月二度 一度ハ一日ヨリ十五日迄ニ 當署(何分署) (交番所) へ此票ヲ持参シ其謹慎ナルコトヲ表シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ無已事故アリテ出頭シ難キトキハ其事由届出ヘシ

一 酒宴遊興ノ席ニ合シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

一 事故アリテ住居ヲ移轉セントスルトキハ當署ノ許可ヲ受クヘシ

一 擅ニ他府縣ニ旅行スルコトヲ許サス若シ無已事故アルトキハ當署へ申出許可ヲ受クヘシ

刑法附則第二十六條ニ依リ遵守スヘキ條件ヲ讀聞カセ此票ヲ下付スル者也

年 月 日

島根縣何警察署 印

監視人出頭簿ト割印

表面

出 頭 日 月												監 視 期 限		明 治 何 年		第 何 號		監 視 票	
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	何 月 何 日	何 月 何 日	第 何 年	第 何 號	犯 人	住 所
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	何 日 出 頭	何 日 出 頭	年 齡	氏 名		
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	病 氣					

第九類 ○警察 ○監視執行

裏面

監	一 毎週間一度當署(何分署)(交番所)へ此票ヲ持參シ云々以下 前全文
視	一 酒宴遊興ノ席ニ會シ云々以下前全文
期	一 事故アリテ住居ヲ移轉セシトキハ當署ノ許可ヲ受ク ヘシ但他ノ府縣へ移轉スルコトヲ許サス
限	一 往復一日程ヲ過グル地ニ旅行スルコトヲ許サス
可	(重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ左ノ一項ヲ加フ)
守	一 自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスルトキハ當署ノ許 可ヲ受クヘシ
遵	刑法附則第四十三條及全第二十六條ニ依リ遵守スヘキ條件ヲ讀 カセ此票ヲ下付スル者也
件	年 月 日 島根縣何警察署印

第三號 (旅券式用紙西ノ)

旅券	何府何國郡何番地居住
姓名	何某何
罪名	何ノ某
一監視(特別監視)	何年何月 何年何月
但	自明治何年何月何日 至、、、、、、、、、、
右監視(特別監視)	ニ付セシレ何府何國郡何番地居住
但	明治何年何月何日日本地ヲ發シ全年何月何日迄ニ本文ノ地所ニ到ルヘキモノトス
年月日	島根縣何警察署印

裏面

一表面ノ地所ニ着シタルトキハ直チニ其地ノ警察署へ此旅券ヲ可差出事
一途中天災又ハ疾病等ニ依リ不得止淹滞スルトキハ其地ノ警察署ニ申出証書ヲ受ケ此旅券ト共ニ前條ノ警察署ニ可差出事
刑法附則第二十五條ニ依リ前記ノ條件ヲ心得サセ此旅券ヲ付與スル者也

旅券
島根縣何國郡村何番地居住

罪名
刑名
一監視何年何月
何某何
何年何月

但自明治何年何月何日
至、、、、、、、、、、、

右何國郡村何ノ某方へ旅行スルコトヲ
許可スル者也

表面
但明治何年何月何日本地ヲ發シ先方滞在
ノ日數何日間トシ全年何月何日迄ニ歸
着スルモノトス

年月日
島根縣何警察署印

裏面
一先方ノ地ニ到レハ直チニ其地警察署へ此
旅券ヲ持參シ官吏ノ認印ヲ可受事
一途中天災又ハ疾病等ニ依リ不得止淹滞セ
シトキハ其地警察署へ申出証書ヲ可受事
一歸着セントキハ直チニ此旅券ヲ返納シ又
前條ノ証書アルトキハ同時ニ可差出事
刑法附則第三十條ニ依リ前記ノ條件ヲ心得
サセ此旅券ヲ付與スル者也

第四號
旅券認印式
（旅券ニ餘白ナキハ他ノ紙ヲ摺キ足シテ認印シ遊キ目ニハ認印スヘシ）

年月日
署
島根縣何警察署
警部 氏 名 印
官印

又ハ
年月日

署
島根縣何分署(何交番所)
印
巡查 氏 名 印
實印

第五號
淹滞証書式
（紙半）

証
何國郡村何番地
何某何
何ノ某

（右何國郡村何警察署ヨリ何國郡村へ送致ノ途中）何國郡村何警察署ノ許可ヲ得テ何地ニ到ルノ途中（何國郡村何警察署ノ許可ヲ得テ何地ニ到リ歸路）本月何日當所轄内何國郡村ニ於テ何病ヲ發シ歩行スル能ハス（本月何日當所轄内何國郡村通行ノ所何川出水川留相成）依テ今日ヨリ本日迄全村ニ淹滞セシ旨申出取糺候所事實相違無之
依テ証書ヲ付與スル者也

年月日
島根縣
何警察署何分署或ハ何交番所印

監視票
割印

第六號

(監視人出頭簿式別紙)

監視票下同號シルベシ

二九六

監視		出頭												期限	監視	號					
監		日 月 頭 出												期限	監視	號					
監視何年何月		月 六 月 五 月 四 月 三 月 二 月 一												但自明治何年何月何日至、、、、、、、、、、	病氣	何日出頭	何日出頭	犯人	住所	氏名	年齢
何國郡村何番地居住		下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上								
何ノ	某																				
當何月																					
何年何月																					

監視		出頭												期限	監視	號					
監		日 月 頭 出												期限	監視	號					
監視何年何月		月 六 月 五 月 四 月 三 月 二 月 一												但自明治何年何月何日至、、、、、、、、、、	病氣	何日出頭	何日出頭	犯人	住所	氏名	年齢
何國郡村何番地居住		下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上								
何ノ	某																				
當何月																					
何年何月																					

第九類 ○警察 ○監視執行

二九七

監視票
印刷

監視人													期限	監視	號	
出頭日													自何月何日 至何月何日	特別監視何年何月 但自明治何年何月何日 至、	明治何年 第何號	
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至				
														何日出頭	犯人	何國郡村何番地居住
														病氣	住所	當何月 何年何月
														何日出頭	何	某

監視票ト全號タル

出頭簿													期限	監視	號	
出頭日													自何月何日 至何月何日	特別監視何年何月 但自明治何年何月何日 至、	明治何年 第何號	
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至				
														犯人	何國郡村何番地居住	
														住所	當何月 何年何月	
														何日出頭	何	某

第九類 警察 監視執行

●警第十六號

明治十五年七月十三日

各警察署

三〇〇

監視執行心得書中左ノ通改正削除ス

- 一 第一章第一條第二項中(式參看裏面記載ノ)ノ十一字ヲ削リ(中監視期限可遵守)ノ九字ヲ換換ス
- 同條第三項前節中(又ハ交番所)ノ五字(該所)ノ(所)字及同項後節中(又ハ交番所)ノ五字ヲ削ル
- 同條第四項ノ後節ヲ削除ス
- 一 第一章第二條第一項中(式參看)ノ六字ヲ削ル又同項中(記載ノ)三字ヲ削リ(中犯人ノ可遵守)ノ七字ヲ換換ス
- 一 第一章第四條第二項前節中(又ハ交番所)ノ五字及(該所)ノ(所)ノ字ヲ削ル
- 一 第一章第六條中(交番所)ノ三字及(式參看)ノ六字ヲ削ル
- 一 第一章第七條中(式參看)ヲ(式參看)ニ改メ(交番所)ノ三字ヲ削ル
- 一 第一章第十條第二項中(又ハ交番所)ノ五字ヲ削ル
- 一 第一章第十二條中(交番所)ノ三字ヲ削リ(式參看)ヲ(式參看)ニ改メ同條但書未行(認印)ノ二字ヲ削ル
- 一 第一章第十三條但書ヲ削除ス
- 一 第二章監視票式第三號旅券式第四號旅券認印式ヲ削除ス
- 一 第五章淹滞證書式ヲ第二號トナシ同號月日署名式ヲ左ノ如ク改正ス

年 月 日

署印 警部(補)又ハ代理 巡查(氏)名 官印代理 實印

一 第六號監視人出頭簿式ヲ第三號トナシ同號割印式及(監視票ト同號タルヘシ)ノ十字ヲ削ル
右相違候事

●警第二十六號

明治十五年八月三十一日

各警察署

監視執行心得書中左ノ通改正ス

- 一 第一章第一條本文中(護送シ來リ)ノ下(シトキ其犯人ノ住所該署ノ所轄ニ係リ)ノ十六字ヲ加フ
- 一 同條第三項後節(第二十四條)ヲ(第二十五條)ニ改メ
- 同章第二條本文中(第二十四條)ヲ(第二十二條)ト改メ(護送シ來リ)ノ下(其犯人ノ住所該署ノ所轄外ニ係ルトキハ)ノ十七字ヲ加ヘ(タルトキハ)ノ四字ヲ削ル

右相違候事

●警第二十五號

明治十六年六月十六日

警察署

監視執行心得書中左ノ通改正追加ス

- 一 第一章第二條第一項但書中(一日程十里トシ端里數ハ)ノ十一字ヲ(陸路ハ八里海路ハ四里ヲ以テ一日程トシ端里數ハ並ニ)ノ二十四字ニ換フ
- 一 同章第三條中(警察署)ノ三字ヲ(轉住ハ警察署旅行ハ警察署又ハ分署)ノ十六字ニ換ヘ但書ヲ削除ス
- 一 同章第五條中(警察署)ノ下(又ハ分署)ノ四字ヲ加ヘ但書中(分署又ハ)ノ四字及(該署)ノ(署)字ヲ削除ス
- 一 同章第八條(改)監視ニ付セラレタル者謹慎檢改ノ狀アルトキハ警察署ヨリ案ヲ具シテ縣廳ヘ稟議ノ上刑法附則第三十六條ニ依リ内務司法兩卿ヘ具申シ兩卿ノ許可アリタルトキハ被監視人ヘ口達シ其証票式ヲ付與スヘシ
- 一 同章第九條(改)假リニ監視ヲ免シタル者行爲上不都合アリテ取締ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ヘ稟議ノ上更ニ監視ニ付シ前條ノ証票ヲ取上ケヘシ
- 一 但本條處分濟ノ上ハ其事由ヲ内務司法兩卿ヘ届出ヘシ尤該届書按ハ本行稟議ノトキ併テ縣廳ヘ稟議スヘシ

一 同章第十二條中括註(第三號)ヲ(第四號)ト改ム
第三號(監視假免証票式用紙西ノ内四ツ切) (加追)

島根縣何國郡村町何番邸
居住又ハ
寄留

刑名
監視何年何ヶ月
何ノ某

何年何月何日起
何年何月何日滿

右謹慎悛改ノ狀アルヲ以テ内務司法兩
卿ノ許可ヲ得假リニ監視ヲ免スル者也

島根縣何警察署長

年月日

官氏名印

署印

一 監視人出頭簿式ヲ第四號ニ改ム
右相違候事

訓令警第十號

明治二十年三月四日

警察署 分 署

監視執行心得書中左ノ通改正追加ス

第一章第一條第三項ノ一及第四項改正

三 警察署ニ於テ犯人ヲ受取リタルトキ其住所分署ノ所轄ニ屬スル者ハ監視人名簿ニ登錄シ關係書類ヲ
該署ニ送致スヘシ

四 分署ニ於テ所屬警察署以外ノ所ヨリ犯人ヲ受取リタルトキハ第一項第二項ノ手續ヲナシタル上監視
人名簿ノ寫ヲ所屬警察署ニ回送シ全署ニ於テハ監視人名簿ニ登錄スヘシ

全章第三條改正

第三條 監視ニ付セラレタル者住所ヲ移轉シ又ハ旅行センコトヲ願出タルトキハ事由ヲ詳查シ警察署
又ハ分署ニ於テ之ヲ許否スヘシ

全章第十六條但書追加

但本條ノ場合ニ於テ犯人ノ住所分署ノ所轄ニ屬スルトキハ其事由ヲ所屬警察署ニ通知スヘシ

●訓令警第十五號 明治二十年四月三十日 警察署 分 署

監視執行心得書第四條中警察署ニ於テノ六字及同條第二轉住ノ地仍云々ノ項ヲ削除ス

●島根縣訓令保第三十五號 明治二十四年八月十九日 警察署 警察分署

明治十五年七月警第九號監視執行心得書中へ左ノ二項追加ス

第一條ノ二項へ
但犯人ノ住所々轉警察署又ハ分署ト遠隔スル場合ニ於テハ其監視票ニ該地受持駐在巡查ノ認印ヲ受ケシム
ルコトヲ得其認印ヲ爲シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ報告セシムヘシ

第十二條中へ

第一條二項但書ノ場合ニ於テ該駐在巡查ヨリ認印セシ報告ヲ爲シタルトキハ前項ノ出頭簿ニ其認印月日ヲ
記入認印スヘシ

●第九類 ○警察 ○監視執行

戸口調査

甲告第六十號

明治十五年八月一日

自今警察上取締ノ爲メ各警察署分署ニ於テ時々戸口調査致シ候付臨時巡査ヲシテ毎戸ニ就キ調査セシメ候義可有之候條此旨爲心得告示候事

訓令第三十五號

明治二十三年十月三十一日

警察署 分署

廿五年初令
第廿五號
警察署

戸口調査規則ヲ定ム

第一章 調査手續

第一條 戸口調査ハ警察署長分署長之ヲ幹理シ管區受持巡査ヲシテ執行セシムルモノトス

第二條 調査ハ一ヶ年一回トス但必要アルトキハ署長ノ見込ヲ以テ臨時調査セシムルコトヲ得

第三條 調査ニ關スル簿冊左ノ如シ
一 戸口調査簿 管區別ニ編綴シ警察署又ハ分署ニ於テ管理スルモノトス
二 戸口調査簿 管區別ニ編綴シ警察署又ハ分署ニ於テ管理スルモノトス

第四條 受持巡査ハ管區内住民ノ移轉アルトキハ左ノ諸項ニ依リ取扱フヘシ
一 警察署又ハ分署ノ所轄外ニ轉籍シタル者アルトキハ其名簿ニ事由ヲ記入シ之ヲ所屬警察署長又ハ分署長ニ送達スヘシ但全戸寄留シタルトキハ其名簿ノ謄本ヲ作り之ヲ送達スヘシ

二 警察署又ハ分署ノ所轄内ニシテ受持管區外ニ轉籍シタル者アルトキハ其名簿ニ事由ヲ記入シ之ヲ他ノ受持巡査ニ移シ全時ニ所屬警察署長又ハ分署長ニ報告スヘシ但全戸寄留シタルトキハ其名簿ノ謄本ヲ作り本文ノ手續ヲ爲スヘシ前項ノ名簿又ハ其謄本ヲ受ケタル受持巡査ハ遺漏ナク調査簿ニ編綴スヘシ
三 家族ノ中他ニ移轉シタル者アルトキハ其事由ヲ名簿ニ記入シ全時ニ異動報告書ヲ作り第一項第二項ノ區別ニ從ヒ所屬署長又ハ他ノ受持巡査ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受ケタル受持巡査ハ遺漏ナク調査簿ニ記入スヘシ

第五條 警察署分署ニ於テ第四條第一項及第三項ヨリ名簿又ハ其謄本若ハ異動報告書ヲ受ケタルトキハ其由ヲ臺帳ニ記入シ而テ名簿又ハ其謄本若ハ異動報告書ニ署長認印シテ之ヲ移轉地ノ所轄警察署又ハ分署ニ送致シ第四條第二項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其事由ヲ臺帳ニ記入スヘシ

第六條 第五條ノ送致ヲ受ケタル警察署又ハ分署ニ於テハ臺帳編入又ハ其訂正ヲ爲シ送致ノ名簿又ハ其謄本若ハ異動報告書ヲ受持巡査ニ下付スヘシ

受持巡査前項ノ名簿又ハ其謄本ヲ受ケタルトキハ遺漏ナク調査簿ニ編綴シ異動報告書ヲ受ケタルトキハ其事由ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條 第四條ノ各項ニ關スル事項ノ外時々ノ異動ハ受持巡査出署ノ際調査簿ヲ携帯シ臺帳ニ對照記入シテ署長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第八條 所轄内又ハ受持區内ノ戸數人口及男女ノ區別等ハ時々統計シテ各帳簿ノ前添付スヘシ

第二章 調査心得

第九條 調査ハ簿冊ノ人名ト對照シテ現員ヲ知得シ平素ノ舉動及生計ノ摸樣等ヲ詳コスルヲ要ス

第十條 調査ハ晝間之ヲ行フモノトス調査ノ際ハ專ラ温和ヲ旨トシ家人ニ迷惑セシメサルヲ要ス且老幼婦女等應答ニ堪ヘサル者ニ強テ尋問シ又ハ吸煙喫茶其他家人ニ押呢スルコトアルヘカラス

第十一條 調査ノ際轉居寄留出產等ノ届ヲ爲サハル者又ハ種痘未済ノ幼兒アルコトヲ見聞シタルトキハ其届出又ハ接産ヲ爲スヘキ様厚ク家人ニ注意スヘシ

第三章 附則

第十二條 部内住民平素ノ業体又ハ舉動ニ就キ普通調査ノ外特別視察ヲ要スル者ハ總テ簿冊ニ登錄シ受持巡査ヲシテ注意セシメ視察上著シキ事項ハ遺漏ナク簿冊ニ記載スヘシ

第十三條 特別視察ヲ要スル者ハ概テ左ノ如シ

第九類 ○警察 ○戸口調査

第一類 業体ニ就キ視察スヘキ者

一 販縮ニ屬スル營業ヲ爲ス者

二 會社製造所及多數ノ職工ヲ雇役スル場所

第二類 舉動ニ就キ視察スヘキ者

一 常職ノ有無ニ拘ハラヌ不素ノ舉動疑ハシキ者

二 貧困者

三 強姦盜詐欺賭博密賣淫等ニ關スル罪ヲ犯シ悔改ノ狀ナキ者

第十四條 視察ニ關スル簿册左ノ如シ

一 視察臺帳 類ニ隨ヒ便宜區分シ管轄署又ハ分署ニ管理スルモノトス

二 視察簿 管轄署ニシテ該署受持巡查ニ管理セシムルモノトス

第十五條 特別視察中ノ者移轉其他與動アルトキハ第四條乃至第七條ニ準シ急速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 第十三條第二類ニ屬スル者ト雖モ不素ノ舉動密モ疑ナキニ至リタルトキハ受持巡查ヨリ其事由ヲ

所屬署長ニ具申シ署長之ヲ相當ト認ムルトキハ除名スヘシ

戸口調査臺帳並調査簿記載例

一 臺帳並調査簿表紙ハ左ノ如シ記載スヘシ但表紙ノ裏面ニ受持町村名合併ノ町村ハ其大字ヲモヲ記載スヘシ

第何管區
戸口調査臺帳
何署

戸口調査簿
何署
第何管區

二 臺帳ハ半紙調査簿ハ美濃紙半葉トス但一葉ニ記載シ得サルトキハ全用紙ヲ繰足シ戸主ニ關スル部分ヲ朱抹シテ使用スヘシ

三 家族ノ上欄ニハ其一身ノ事故備考ノ欄ニハ戸主並一戸全体ニ關スル事故ヲ記載スヘシ

四 附籍者ハ本籍者ノ末欄ニ記載シ其上欄ニ附籍ト朱記スヘシ

五 全居者ハ各別ノ用紙ニ記載シ本籍者ノ次ニ綴添スヘシ

視察臺帳並視察簿記載例

一 視察臺帳並視察簿表紙ハ左ノ如シ記載スヘシ

第何類
視察臺帳
何署

視察簿
何署
第何管區

二 第十三條第一類第二項ニ屬スルモノハ便宜ノ用紙ニ記載編綴スヘシ

三 臺帳ハ半紙視察簿ハ美濃紙半葉トス

●第九類 ○警察 ○戸口調査

島根縣訓令第二十三號 明治廿五年十一月廿六日 警察署 分署
明治廿三年十月訓令警第三十五號 戶口調査規則第二條ノ戶口調査票帳及戶口調査簿様式中戶籍番號トアルヲ屋
號トシ何十何番トアルヲ何屋ト改正ス

蒸氣器械

鳥根縣令第三十三號 明治二十六年三月六日
蒸氣器械取締規則別紙ノ通定ム

廿六年縣令
第八十號
廿七年公第
三十七號

(別紙)

蒸氣器械取締規則

- 第一條 工業其他何等ノ用ニ供スルヲ問ハス蒸氣器械ヲ建造シ又ハ其構造ヲ變換シ若シハ修理セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受ク可シ
- 第二條 前條ノ届出ヲナストキ建造ニ係ルモノハ汽罐汽機ノ圖面並左ノ各項ノ取調書、建造場所ノ圖面、近接地主家主ノ承諾書變換又ハ修理ニ係ルモノハ其方法書ヲ差出ス可シ
 - 一 汽罐ノ種類個數
 - 二 汽罐ノ寸法及罐板ノ厚サ
 - 三 最大汽壓
 - 四 汽機ノ種類
 - 五 公稱馬力
 - 六 烟突ノ高サ
 - 七 汽罐及汽機製造ノ年月
 - 八 汽罐汽機ノ取扱ヲ擔任スル者ノ族籍氏名並ニ履歷ノ概要
- 第三條 第一條ノ認可ヲ受ケ其工事ヲ竣リタルトキハ更ニ同條ノ手續ニ依リ届出検査ヲ受ケタル後使用スヘシ

第四條 前條ノ届出ニ依リ蒸氣器械ノ検査ヲナシタルトキハ最大汽壓ヲ檢定シ検査証書ヲ交付シ且安全瓣ニ封印スルモノトス

前項ノ検査証書ハ場内見易キ所ニ掲示スヘシ

第五條 検査証書ノ有効期限ハ其蒸氣器械ノ現狀ニ依リ十二ヶ月以内ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

検査証書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出再渡ヲ受ク可シ

第六條 蒸氣器械ヲ賣渡シ又ハ讓與シタルトキ又ハ使用ヲ廢シ又ハ撤去スルトキハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但賣渡讓渡ニ係ルモノハ雙方ノ連署ヲ要ス

第七條 蒸氣器械建設ノ場所ハ當該官吏ヲシテ時々検査セシムルコトアルヘシ但器械ノ検査ヲ行フトキハ豫メ其期日ヲ管理者ニ通知ス

第八條 安全瓣ノ封印ヲ妄リニ開閉シ又ハ検査証書ニ記載シタル最大汽壓ヲ超過ス可カラス

第九條 蒸氣器械ノ毀損其他危害ヲ生スヘキ虞アリト認メタルトキハ何時ニモ其使用ヲ差止メ又ハ修理ヲ命スルコトアル可シ

第十條 第一條第三條第八條ヲ犯シタル者及第九條ノ命令ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ處分ス可シ

附則

一 此規則施行以前ノ建造ニ係ルモノハ明治二十六年三月三十一日限り第二條ニ記載シタル圖面並ニ取調書ヲ添ヒ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

(検査証様式)

●第九類 ○警察 ○蒸氣器械

蒸氣機検査証

第

號

三一四

場
持主
位置

蒸氣機ノ件名

蒸氣機個數 蒸氣機種類 公稱馬力 最大蒸氣機種類

記事

検査ノ回数 検査證有効期限 検査年月日 検査官氏名認印

第 回	自明治 年 月 日	至明治 年 月 日	明治 年 月 日	
第 回	自明治 年 月 日	至明治 年 月 日	明治 年 月 日	
第 回	自明治 年 月 日	至明治 年 月 日	明治 年 月 日	
第 回	自明治 年 月 日	至明治 年 月 日	明治 年 月 日	

島根縣令第八十九號 明治二十六年九月十六日

島根縣

●島根縣令第三十三號蒸氣器械取締規則第二條中「近接地主家主ノ承諾書」ノ十字ヲ削除ス
 ●島根縣令第三十七號 明治二十七年五月三日
 ●島根縣令第三十三號蒸氣器械取締規則第一條中「何等ノ用」ノ下ニ(鐵器ニ使用ス)ノ刺註ヲ加フ
 明治二十六年三月 島根縣令第三十三號蒸氣器械取締規則第二條中「近接地主家主ノ承諾書」ノ十字ヲ削除ス
 明治二十六年三月 島根縣令第三十三號蒸氣器械取締規則第一條中「何等ノ用」ノ下ニ(鐵器ニ使用ス)ノ刺註ヲ加フ

消防

●島根縣訓令第四十號 明治二十七年六月六日
 消防組規則施行細則左ノ通之ヲ定ム

消防組規則施行細則

第一章 組織

第一條 消防組ヲ設置スヘキ市町村ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 消防組ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

- 一 組頭 一人
- 一 小頭 二十人ニ付一人
- 一 消防手 二十人乃至二百五十人

第三條 消防手四十人以上アル消防組ハ適宜數部ニ分ツコトヲ得

數部ニ分テタルトキハ消防手二十人以上ヲ以テ一部トシ小頭ノ内ヲ以テ各部ノ長ニ充ツヘシ

第四條 消防組ノ名稱ハ何市(何郡何町村)又ハ何郡何町村大字何々消防組トス但數部ニ分テタルトキハ何市(何郡何町村)消防組第何部ト爲スヘシ

第二章 職員及器具

第五條 消防組ニハ實際ノ須要ニ依テ相當ノ器具ヲ設備ス其品目左ノ如ク

- 一 雲龍水 一個乃至八個
- 但市及人家稠密ノ町村ニ於テハ唧筒ヲ設置ス

●第九類 ○警察 ○消防

三一五

第四十條 消防組員貸與ノ物品ヲ盜難ニ罹リ又ハ正當ノ理由ナクシテ亡失シ若クハ毀損シテ其用ニ堪ヘサルニ至ラシメタルモノハ其代價ヲ賠償セシムヘシ

第四十一條 消防組員ニハ左ノ諸手当ヲ給與ス

- 一 組頭小頭年手当五拾錢以上五圓以内
- 二 消防手年手当三拾錢以上三圓以内
- 三 出場手当一晝若クハ一夜ニ付五錢以上二拾五錢以内
- 四 水火災及演習又ハ儀式等ノタメ招集セントキ給與ス
辦當料貳錢五厘
- 五 水火災ノ際實地ニ着手シタル時ハ一度分ヲ支給シ仍四時間ヲ過ル毎コ一度分ヲ加給ス
- 六 死亡給助 六拾圓
- 七 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及負傷後其傷痕ニ原因シ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給與ス
職務ノタメ死ニ至リタル者ノ遺族ニ給與ス遺族ナキトキハ最近ノ親族ニ給與ス若シ親族ナキトキハ組頭ニ交付ス
- 八 傷痕給助
 一等傷 傷身不具又ハ瘻瘻トナリ自
用ヲ辨スル能ハサル者 金五拾圓
 二等傷 傷身不具又ハ瘻瘻トナリ自
用ヲ辨スル能ハサル者 貳拾圓
- 九 職務上負傷シ前項ニ該ラサルモノト雖モ三日以上休業スルニ至リタルトキハ一日五錢以上二十錢以内ノ手当ヲ給與ス
- 十 職務上負傷セシ者其傷痕ノ輕重ニ依リ適度ヲ計リ一日五十錢以内ヲ給與ス

第四十二條 警察署長警察分署長ハ土地ノ狀況ニヨリ知事ノ認可ヲ受テ前條ニ定ムル一項乃至四項ノ一部分ヲ給與シ又ハ總ヘテ給與セザルコトヲ得

第四十三條 消防組員諸手当等ヲ請求セントスルトキハ其事由ヲ詳記シ組頭ヲ經由シテ所轄警察署長又ハ警察分署長ニ申請スヘシ

第四十四條 前條ノ請求書ハ警察署長警察分署長ヨリ市參事會若クハ町村長戸長ニ移牒スヘシ

第七章 賞與及懲戒

第四十五條 消防組員ニシテ災害警防上特別功勞アルモノハ壹圓以下ヲ賞與スルコトアルヘシ但災害一度ニ付總金額拾圓ヲ超過スヘカラス

第四十六條 消防組員警察官ノ命令又ハ本則ノ規定ニ違背シ若クハ怠惰過失アル者ハ所轄警察署長又ハ警察分署長之ヲ懲戒ス

第四十七條 懲戒ハ解職停職停給年手当アル場合ニ限ル及罷責トス但停職ハ一年ヲ超ユルヲ得ヌ又停給ハ年手當月割額三ケ月分ヲ超過スルコトヲ得ヌ

第四十八條 懲戒處分ハ本人ヲ召喚シ事實ヲ取調其情狀ヲ審査シ書面ヲ以テ言渡ヲ爲スヘシ

第八章 演習

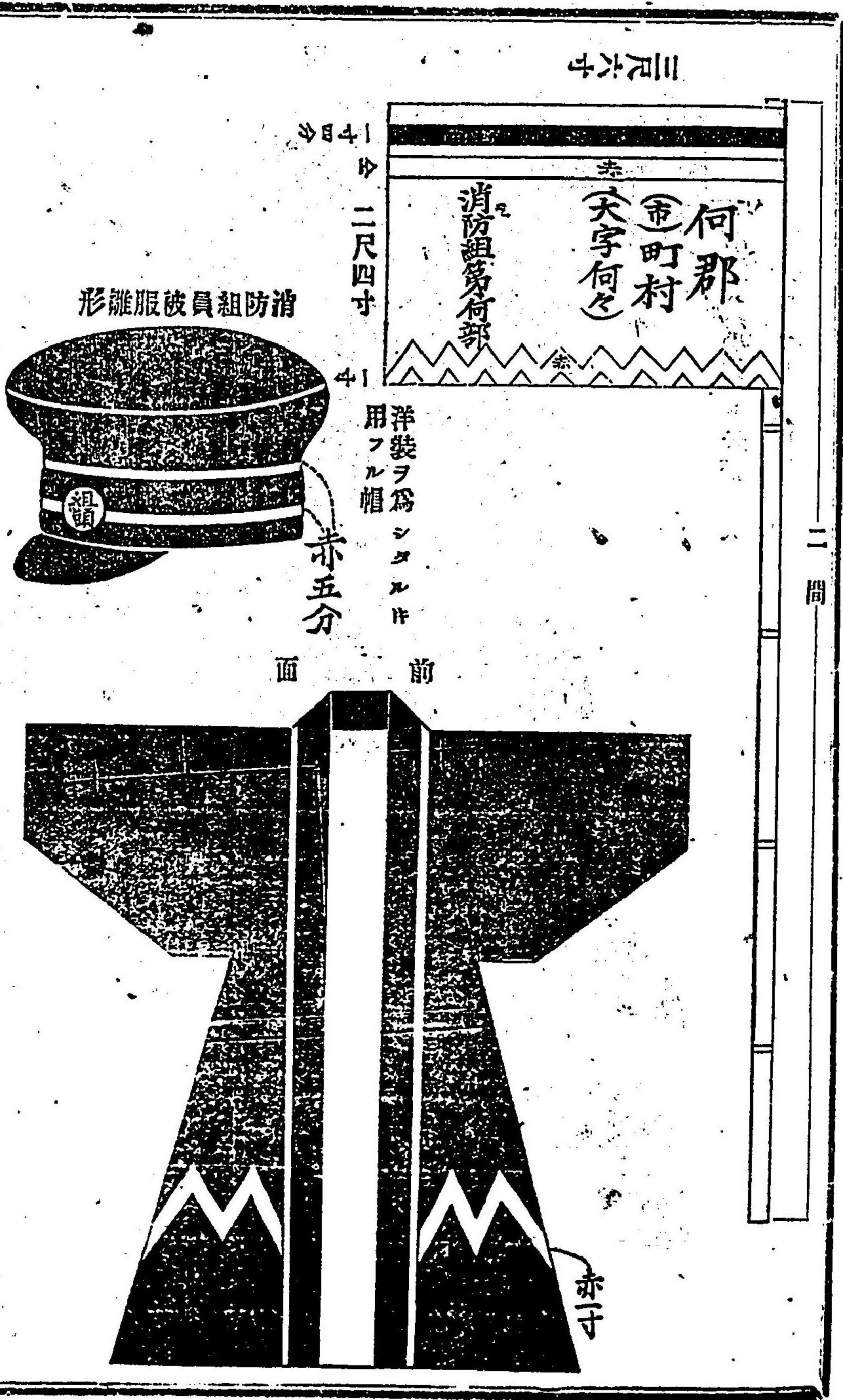
第四十九條 警部長又ハ警察署長警察分署長ハ消防組巡檢ノ際時機ニ依リ演習セシムルコトアルヘシ

附則

第五十條 消防組員ニ貸與スヘキ被服ニシテ從來市町村費ヲ以テ調製シタルモノハ當分ノ内其儘之ヲ着用スルコトヲ得

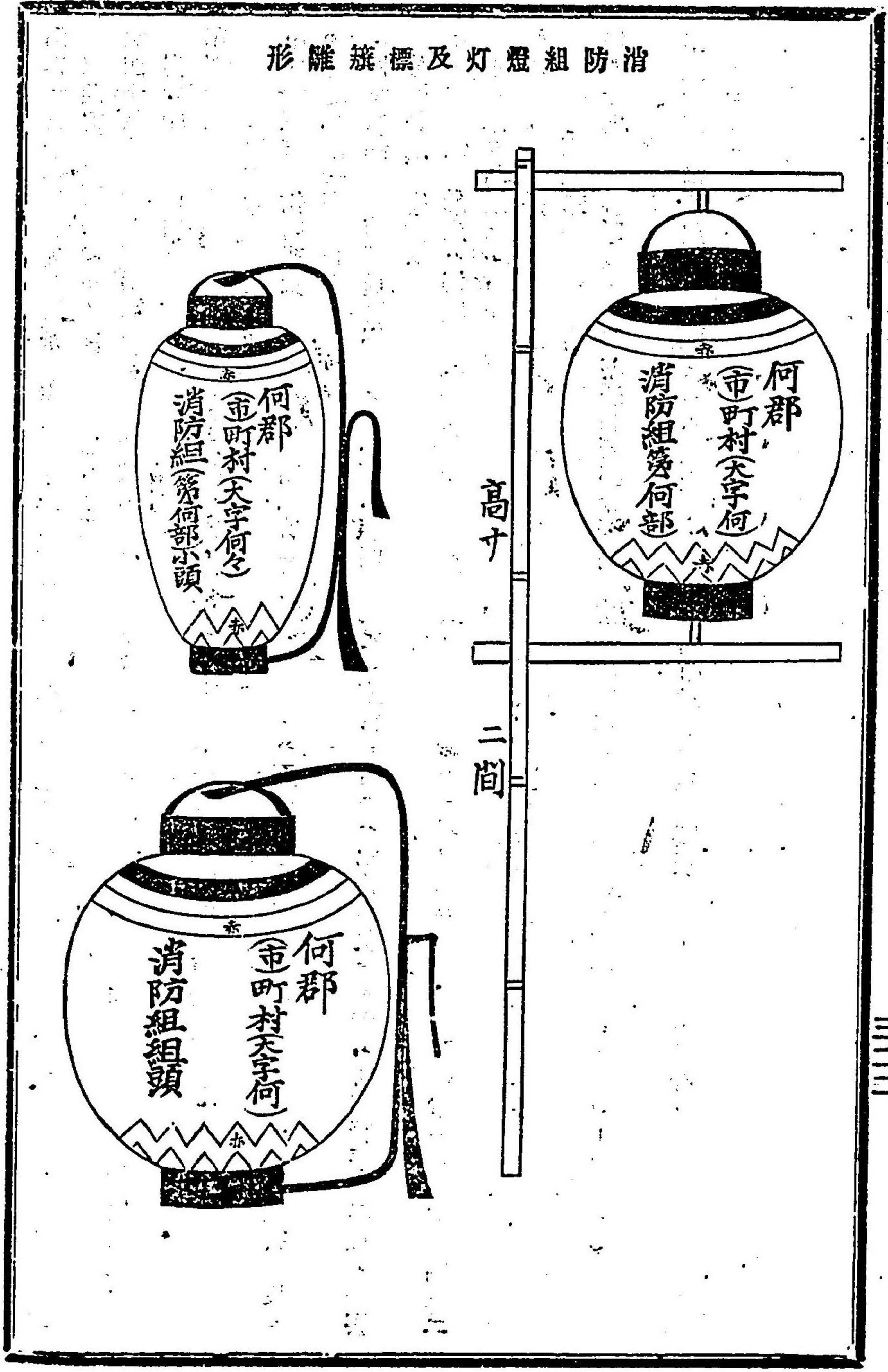
第九類 ○警察 ○消防

組頭赤筋式本小頭赤筋登本前章徑二寸五分真鍮ニシテ組頭ハ(組頭)小頭ハ(小頭)ト刻ス



三三三

消防組燈及標旗形



三三三

遼寧郡

大森村 温泉津村

那賀郡 濱田町 都野津村 長濱村 江津村

美濃郡 益田町 高津村 吉田村

鹿足郡 津和野町

周吉郡 西郷町東町中

●島根縣告示第百六十一號 明治二十七年十月一日
明治二十七年六月 島根縣告示第八十八號 消防組ヲ設置スヘキ町村左之通追加ス
松江市ノ次

島根郡 野波村 御津村 千酌村 加賀村 大芦村 本庄村 美保關村 片江村大字片江、七瀬、菅浦

秋鹿郡 意宇郡揖屋村ノ次

秋鹿村 惠曇村

意宇郡 波入村 二子村 意東村大字下意東 大庭村大字大庭、山代、佐草 津田村

竹矢村大字竹矢 出雲郷村

能義郡布部村ノ次

安田村大字安田、安田中、安田下 井尻村大字井尻、中屋 大塚村

宇賀莊村大字宇賀、清井、野外、九草、早田、佐久保、吉岡 母里村 荒島村大字荒島、西赤江

能義郡ノ次 仁多郡 横田村大字横田、中村 八川村大字八川、下 鳥上村 馬木村

大原郡斐伊村ノ次 大東村 加茂村 春殖村大字大東下分、飯石、藤原 橋屋村大字前原、仁 屋裏村大字大竹、延

飯石郡一宮村ノ次 掛合村 吉田村 順原村大字佐見、順原、可 赤名村 鍋山村大字殿河内、乙加宮 來島村大字野上、上來、島下

神門郡川跡村ノ次 鴨鷺村 日御碕村 西濱村大字釜池 久村 田儀村大字口田儀 四路村 高濱村

乙立村大字八幡原 遼寧郡温泉津村ノ次 馬路村 仁万村 宅野村 五十猛村 靜間村 大濱村大字小濱 大家村大字大家本郷

福光村 安濃郡大田村ノ次 川合村大字川合 鳥井村大字鳥井 刺鹿村 波根西村 波根東村

遼寧郡ノ次

第九類 ○警察 ○消防

●縣令第七十八號 明治二十三年十一月十五日
銃砲ニ關スル願届手續別紙ノ通定
(別紙)

- 銃砲ニ關スル願届手續
- 第一條 銃砲買賣免許商人以下免許商ニシテ他ノ免許商人又ハ免許商人ニ非サル者ヨリ軍用銃ヲ買入レントスルトキハ願届免許手形ヲ受ケヘシ但免許商人ニ非サル者ヨリ買入ルトキハ賣主ト連署スヘシ
- 第二條 免許商人ニ非サル者免許商人ヨリ軍用銃ヲ買入レントスルトキハ願届免許手形ヲ受ケ之ヲ買入レタルトキハ更ニ届出ヘシ
- 第三條 免許商人ニ非サル者相互ノ間ニ於テ軍用銃ヲ讓渡サントスルトキハ讓受人(他府縣居住ノ者ヨリ讓受ケントスルトキハ讓渡人)ト連署シテ願届許可ヲ受ケヘシ
- 第四條 軍用銃ヲ廢棄獻納又ハ社寺ニ寄附セントスルトキハ檢印ノ削除ヲ願出ヘシ
- 第五條 軍用銃ヲ免許銃ニ改造セントスルトキハ願届許可ヲ受ケ之ヲ改造シタルトキハ更ニ現銃ノ檢査ヲ受ケヘシ
- 第六條 免許銃ヲ賣渡讓渡シタルトキハ買受人又ハ讓受人(他府縣居住ノ者ヨリ買受讓受ケタルトキハ賣渡人又ハ讓渡人)ト連署シテ届出ヘシ但連署スヘキモノ、證明書ヲ以テ連署ニ代ニルコトヲ得
- 第七條 家督相續又ハ遺産相續ニ依リ銃砲軍用銃免許銃ヲ併ヲ讓受ケタルトキハ届出ヘシ
- 第八條 銃砲ヲ所有スルモノ左ノ場合ニ於テハ届出ヘシ但第六第七ノ届出ヲナストキハ現銃ヲ添フヘシ
 - 一 銃砲ヲ遺失紛失シ又ハ沒收盜取セラレ若ハ水火災等ニ依リ亡失シタルトキ及之ヲ發見シタルトキ
 - 二 姓名ノ變更アリタルトキ
 - 三 銃砲ヲ携帶シテ轉籍出寄留寄留替又ハ復歸スルトキ
 - 四 銃砲ヲ携帶シテ他府縣ヨリ入籍寄留又ハ復歸シタルトキ

- 五 免許銃ヲ獻納セントスルトキ
 - 六 免許銃ヲ廢棄又ハ社寺ニ寄附セントスルトキ
 - 七 免許銃ノ玉目又ハ彈器等ノ種類ヲ變更シタルトキ
 - 第九條 銃砲取締規則第三則ニ依リ免許証人ヨリ差出スヘキ銃砲買賣高届書ハ別紙様式ニ依ルヘシ
 - 第十條 取締規則第七則ニ依リ銃砲ノ試製ヲ願出ルモノハ銃砲ノ圖式及其解説書ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ
 - 第十一條 獵銃製造營業又ハ軍用銃修復營業ヲナサントスルモノハ縣廳ニ願届許可ヲ受ケヘシ
 - 第十二條 獵銃製造人獵銃ヲ新造シタルトキハ届出現銃ノ檢査ヲ受ケヘシ
 - 第十三條 前數條ノ願届中縣廳ニ差出スヘキモノノ外ハ總テ所轄警察署ニ差出スヘシ但縣廳ニ差出スモノハ所轄警察署ヲ經由スヘシ
 - 第十四條 前數條ノ願届中軍用銃ニ關スル者ハ銃名種類和製西洋製ノ區別、檢印記號、免許銃ニ係ルモノハ銃名種類玉目等ヲ詳記スルヲ要ス
- 島根縣令第三十號 明治二十八年四月十二日
- 明治二十三年十一月 本縣令第七十八號銃砲ニ關スル願届手續中左之通改正ス
- 第十三條 前數條ノ願届中縣廳ニ差出スヘキモノ、外ハ總テ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ但縣廳ニ差出スモノハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經由スヘシ

(銃砲買賣高届書様式)

明治何年何月銃砲買賣及月末現在高届

賣出ノ部

銃名種類檢印番號玉目	員數	許可及ハ	買受人	住所	職業	氏名
		届出月日				

●第九類 ○警察 ○銃砲 火藥

第六條 銃砲ノ賣買讓受其他第十一條ニ定ムル根帳ニ異動ヲ生スル事項ハ附録第二號様式ニ依リ毎月之ヲ取調ヘ翌月十五日限リ警察部ニ報告スヘシ

第七條 獵銃製造營業及軍用銃修復營業ノ願出ヲ受ケタルトキハ其年齡平素ノ業務及銃砲ニ關スル前科有無ノ取調書ヲ添ヘ意見ヲ具シ警察部ニ送致スヘシ

第八條 警察署ハ毎年一回所轄内ノ現銃ヲ調査スル

第九條 左ニ掲ケル事故アルトキハ其事由ヲ詳記シ關係ノ警察署又ハ他府縣警察部ニ通知スヘシ

一 所轄外ノ者又ハ他府縣ヨリ寄留ノ者ニ銃砲ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

二 他府縣居住ノ者ヨリ銃砲ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルトキ

三 他府縣ノ彫刻ニ係ル軍用銃ノ檢印ヲ削除シタルトキ

四 他府縣ヨリ寄留ノ者ノ所有スル銃砲ニ關スル異動及其所有者ノ姓名ニ變更アリタルトキ

五 銃砲ヲ携帶シテ所轄外ニ轉籍寄留密留替又ハ復歸スルトキ

六 銃砲ヲ携帶シテ他府縣ヨリ入籍寄留又ハ復歸シタルトキ

第十條 前條ノ報告ヲ受ケタル警察署ニ於テハ銃砲根帳ヲ整理スヘシ

第十一條 銃砲根帳ハ左ノ四種ヲ備フヘシ

一 銃甲軍用銃根帳 附録第三號様式ノ如シ

二 銃甲免許銃根帳 附録第四號様式ノ如シ

右二種ハ所轄内ニ本籍アル現住者ニ係ル根帳ニシテ每郡別冊トナシ每冊中所有者姓名ノイロハ順ヲ以テ其部ヲ分チ編製スルモノトス

第十二條 前條ノ根帳ハ左ノ記載例ニ依リ整理スヘシ

一 根帳ニ異動アルトキハ總テ其事由ヲ相當ノ欄内ニ詳記スヘシ

二 根帳ヲ削除スルニハ其冒頭ニ「削除」印ヲ捺捺スヘシ

三 銃砲ノ種類ヲ記載スルニハ銃名及其和製西洋製ノ區別條ノ長短彈丸ノ量目種類其裝填ノ種別檢印番號（他府縣ノ刻印ハ等ヲ細別シテ記載スヘシ）

四 各欄内ニ記載スヘキ年月日ハ沒收ハ其宣告ノ日願出タル事項ハ許可ノ日届出タル日ヲ以テスヘシ

第十三條 左ニ掲ケル事故アルトキハ根帳ヲ削除スヘシ

一 銃砲ヲ賣渡又ハ讓渡シタルトキ

二 銃砲ヲ沒收セラレ又ハ廢棄獻納又ハ社寺ニ寄附シタルトキ

三 免許銃ニ改造スル軍用銃ノ檢印ヲ削除シタルトキ但第十四條第二項ノ登載ヲナストキ更ニ檢査済ノ旨ヲ記入スヘシ

四 水火災ニ依リ銃砲ノ亡失シタルトキ

五 銃砲ヲ所有スルモノ所轄外ニ轉籍シ又ハ銃砲ヲ携帶シテ寄留シタルトキ

六 所轄外ヨリ寄留ノモノ原籍ニ復歸又ハ所轄外ニ寄留替ヲナシタルトキ

第十四條 左ニ掲ケル事故アルトキハ更ニ根帳ニ登載スヘシ

一 銃砲ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルトキ

二 軍用銃ヲ免許銃ニ改造シ其檢査ヲ了リタルトキ

三 獵銃製造人ノ獵銃ヲ製造シタルトキ

第九類 ○警察 ○銃砲 火藥

(附録第四號甲號免許銃根帳様式)

種 類	讓受買受 製造事 由	讓渡 事 由	廢銃 納收 寺附 事 由	所轄外 寄留 轉籍 事 由	所轄外 寄留 轉籍 及 復 姓 事 由	所有者 住所 身分 職業 姓 名
和製管打獵用銃 玉目何々	明治何年月日 製造					何國何郡何町何番屋敷 平民 丁 某
和製先込散彈打 獵銃		明治何年月日 何國何市銃砲 賣買免許商人 賣渡				何國何郡何村何番屋敷 無職業 王 某
和製管打玉目何 々	明治何年月日 製造					何國何郡何村何番屋敷 平民 癸 某
和製管打獵用銃 玉目何々	明治何年月日 管打ニ改造				明治何年月日 實ト改姓ニ付 トノ部ニ轉載 ス	何國何郡何村何番屋敷 何番屋敷 士族 農 子 某

(附録第五號乙號軍用銃根帳様式)

種 類	讓受買受 事 由	讓渡 事 由	廢銃 納收 寺附 事 由	所轄外 寄留 轉籍 及 復 姓 事 由	寄留及原籍身分職業 姓 名
和製火繩打獵用 銃玉目何々				明治何年月日 改姓ニ付子 部ヨリ轉載 ス	實 某
和製管打獵用銃 玉目何々				明治何年月日 寄留地何國何 郡何村何番屋 敷何 々ヨリ復歸	何國何市何町何番屋敷 平民 丁 某

明治二十三年十一月 本縣訓令第四十二號銃砲ニ關スル願届其他取扱手續中左ノ通改正追加ス
右訓令ス

第六條 銃砲ノ買賣讓受其他ノ異動並ニ獵銃製造人製造ノ獵銃ハ附錄第二號様式ニ依リ毎月之ヲ取調ヘ翌月十五日限リ警察署ニ報告スヘシ但銃砲ノ遺失紛失又ハ盜難ニ罹リタル時若ハ己ニ亡失セシモノヲ發見シタル時ハ其種類、員數、所有者ノ住所氏名等ヲ記載シ特ニ即報スヘシ

第九條 免許商人免手形ヲ以テ所轄外ノ非免許商人ヨリ軍用銃ヲ買入レタルトキ
第十一條 前數項ニ定ムル根帳ハ整理上ノ便宜ニ依リ町村別ニ編製スルコトヲ得

第八條 第九條第十條中警察署ノ下ニ警察分署ノ四字及附錄第一號中警察署ノ左傍ニ又ハ警察分署ノ六字ヲ加フ

(附錄第二號銃砲異動報告表様式) (用紙半紙)

軍用銃	種別		項目		免許商人買賣數		免許銃製造人製造數		民有銃		砲		増減ノ數	
	西洋銃	和銃	買入	賣拂	買入	賣拂	製造	賣拂	所轄外ヨリ入	所轄外へ出	盜難	同發	官沒	廢棄

明治何年 何 署

廿四年麻令
第四十六號

免許銃	種別		郡市別		何郡ノ内	
	西洋銃	和銃	和銃	西洋銃	和銃	西洋銃

(備考)

「民有銃砲増減ノ數」民有銃砲月未現在數」ノ欄ニハ製造人及免許商人ノ有スルモノモ記載スヘシ

●縣令第七十七號 明治二十三年十一月十五日

火藥取締細則別紙ノ通定

(別紙)

火藥取締細則

第一條 火藥取締規則以下規則ト警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
第二條 煙火又ハ導火繩(抗業土工用ニ製造ノ業ヲ管マントスル者ハ規則第二十一條ニ依リ製造所ノ位置ヲ定メ近傍ノ模様ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ借地ニ係ルモノハ地主ト連署シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受シヘシ
製造所ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ準シ願出許可ヲ受シヘシ
第三條 煙花(線香花火手柱丹ノ類ヲ除ク)又ハ導火繩販賣ノ業ヲ管マントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受ク

●第九類 ○警察 ○銃砲 火藥

第四條 前數條ノ營業ヲナシトスル者十六歳未満若クハ白痴癡癩者ナルトキハ後見人ヲ選キ願出ヘシ

第五條 免許鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ轉住改氏名ノトキハ速ニ届出鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ受ケ廢業死亡シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

火藥類買受許可証ヲ亡失シタルトキハ速ニ之ヲ受ケタル警察署ニ届出ヘシ

第六條 營業ニアラスシテ臨時煙火ヲ製造セントスル者ハ其日限ヲ定メ場所ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第七條 祝典其他賑ヒノ爲メ煙花ヲ揚ケ又ハ發砲セントスル者及火藥類ヲ以テ綴石其他障礙物ヲ破碎セントスル者亦前條ノ手續ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

第八條 規則第三條ニ依リ火藥類ノ拂下ヲ受ケントスル者ハ出願ノ際免許鑑札ヲ携帯スヘシ

第九條 規則第六條ニ依リ火藥類買運搬荷造等ヲナシトスル者ハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第十條 火藥類ハ其營業店舗又ハ倉庫火藥庫若クハ仮貯藏所ノ外ニ於テ賣買荷造等ヲ爲スヘカラス

第十一條 規則第七條及第十二條ニ依リ火藥類買賣高ヲ届出ルトキハ別紙書式ニ依ルヘシ

第十二條 火藥類買賣營業者廢業死亡シタルトキハ十日以内ニ前條ノ手續ヲナシ現在ノ火藥類ハ規則第八條ニ依リ營業者ニ渡渡スヘシ

第十三條 規則第十條ニ依リ銃砲用又ハ坑業土工其他職業用ノ爲メ火藥類買受許可証ヲ受ケントスル者ハ其買受先ヲ定メ願出ヘシ

坑業土工用ノ爲メ多量ノ火藥類ヲ要シ内務大臣ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ作り所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第十四條 規則第十三條ニ依リ火藥類ヲ倉庫ニ貯藏セントスル者ハ近傍ノ模様ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ借庫

ニ係ルトキハ所有者ト連署シ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第十五條 規則第十五條及第二十條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設セントスル者ハ其願書ヲ作り借地ニ係ルトキハ地主ト連署シ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ但假貯藏所建設願書ニハ貯藏スヘキ火藥數量ノ最多数ヲ記載スヘシ

火藥庫又ハ假貯藏所ヲ改造セントスルトキ亦前項ノ手續ニ依ルヘシ

第十六條 火藥庫又ハ假貯藏所ノ建設改造ヲ竣リタルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ經テ使用スヘシ

第十七條 火藥庫又ハ假貯藏所ヲ廢シタルトキハ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第十八條 導火繩製造用ニ供スル火藥買受手續ハ規則第十條坑業土工其他職業用ノ例ニ依リ其買受高ハ全條煙火製造用ノ例ニ遵フヘシ

第十九條 左ニ掲グル者ハ倉庫火藥庫及假貯藏所ニ入ラシムヘカラス

- 一 靴ヲ穿テタル者
- 二 發火質ノ物品ヲ携帯スル者
- 三 酩酊者
- 四 十六歳未満ノ者又ハ白痴癡癩癡瘖者

第二十條 煙火又ハ導火繩製造ニハ發火質ノ器具ヲ用ウヘカラス

第二十一條 規則及此細則ニ依リ縣廳又ハ警察署ニ差出スヘキ願屆書ハ分署所轄内ニ於テハ該署ヲ經山スヘシ

第二十二條 第二條第三條ヲ犯シ導火繩ヲ製造又ハ販賣シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料第二條第二項第七條第十條第十五條第二項第十六條ヲ犯シタル者ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

(火藥類買賣高屆書式)

明治何年何月火藥類買賣及月末現在屆

前月越高ノ部		買入ノ部		賣出ノ部	
品目	數量	品目	數量	品目	數量
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製火藥					
內國製雷管					
外國製何々					
計					
外國製何々					
品目	數量	買入月日	賣主住所職業	姓名	
品目	數量	賣出月日	買主住所職業	姓名	

月未現在ノ部		計	
品目	數量	外國製火藥	內國製雷管
外國製火藥			
內國製雷管			
外國製何々			
品目 <td>數量</td> <td>外國製何々</td> <td></td>	數量	外國製何々	

右之通相違無之候也

警察署長當

何市何町火藥類賣買營業人 何 某印

●島根縣令第四十六號 明治二十四年三月十六日

●明治二十三年十一月一縣令第七十七號火藥取締細則第五條二項警察署ノ下ニ又ハ分署ノ四字及第十三條一項買受先ヲ定メノ下ニ所轄警察署又ハ分署ニノ十字ヲ加フ

●訓令警第四十一號 明治二十三年十一月十五日 警察署 分署

火藥類買賣營業其他願屆取扱手續別紙ノ通定

火藥類買賣營業其他願屆取扱手續

第一條 火藥取締規則以下細則ト稱ス第一條ニ依リ火藥類買賣營業願書ヲ受ケタルトキハ左ノ各項ノ取調書ヲ添ヘ警察部ニ送致スヘシ

一 年齢

二 平素ノ業爲及資力ノ有無

三 前科ノ有無特ニ火藥類ニ關スル犯罪ニ付テハ其事實ノ大要

四 火藥取締規則以下規則ト稱ス第十三條第一項火藥類貯藏所ノ模様及第二項倉庫準備ノ有無

第二條 細則第二條及第三條ニ依リ煙火又ハ導火繩製造販賣及製造所變更願書ヲ受ケタルトキハ規則第二十條ニ依リ製造所ノ位置ヲ検査シ其他必要ノ事項ヲ取調ヘ差支ナキモノハ免許鑑札ヲ下付シ又ハ許可ノ指令ヲ與フヘシ

導火繩製造願ヲ許可シタルトキハ其年月日及製造人ノ族籍住所氏名年齢並製造所ノ位置等ヲ詳記シ直ニ警察部ニ報告スヘシ

第三條 細則第五條ニ依リ火藥類買賣營業免許鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請ヒ若シハ之ヲ返納スルモノアルトキハ本人ノ願書ト共ニ警察部ニ送致スヘシ

火藥類買賣許可証亡失ノ届出アリタルトキハ該許可証ノ無効タル旨ヲ買受先ノ營業者ニ通知スヘシ

第四條 細則第七條嚴石類破砕ノ日出前日以後ニ係ルモノハ許可スヘカラス

第五條 警察署ニ於テハ細則第十一條及第十二條ニ依リ差出タル火藥類買賣高届書ニ依リ附録第一號表式ニ倣ヒ毎一年間ノ種類數量ヲ統計シ翌年一月十五日迄ニ警察部ニ送致スヘシ

第六條 細則第十三條ニ依リ火藥類買賣許可証下付ノ願書ヲ受ケタルトキハ其種類數量買受先等ヲ諸願即決簿ニ記載シ附録第二號表式ニ依リ之ヲ下付スヘシ

火藥類買受ノ爲メ内務大臣ノ特許ヲ受ケントスル願書ヲ受ケタルトキハ其實況取調書ヲ添ヘ警察部ニ送致スヘシ

第七條 細則第十四條及第十五條ニ依リ倉庫貯藏又ハ火藥庫假貯藏所建設改造願書ヲ受ケタルトキハ規則第十六條第十七條及第二十條ニ照シ現場ヲ検査シ其取調書ヲ添ヘ警察部ニ送致スヘシ

第八條 細則第十六條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所検査ノ際建築方法書ニ適合セザルモノアルトキハ之ヲ改造セシメタル上其使用ヲ許スヘシ但警察部ニ於テ豫メ建築方法書ノ寫ヲ警察署ニ交付スヘシ

第九條 細則第十七條ニ依リ火藥庫又ハ假貯藏所廢止ノ届出アリタルトキハ時宜ニ依リ現場ニ臨檢スヘシ

第十條 規則第二十二條ニ依リ火藥類運搬許可証ヲ請フ者アルトキハ其種類數量運搬先等ヲ諸願即決簿ニ記載シ附録第三號表式ニ依リ之ヲ下付スヘシ此場合ニ於テハ運搬人ノ氏名及火藥類ノ種類數量運搬ノ日時場所通路ノ名稱等ヲ詳記シ到着地及沿道警察署又ハ分署ニ通知スヘシ但到着地他府縣ニ係ルトキハ該府縣警察部ニ通知スヘシ

第十一條 規則第二十二條ニ依リ他ノ警察署ニ於テ下付シタル運搬許可証ヲ納付スル者アルトキハ直ニ之ヲ下付シタル警察署ニ通知スヘシ

第十二條 規則第三十條ニ依リ營業禁止又ハ其停止ヲ必要ト見認ムル者アルトキハ其事由ヲ具申スヘシ

第十三條 分署ニ於テ規則又ハ細則ニ依リ縣廳又ハ警察署ニ差出スヘキ願届ヲ受ケタルトキハ相當ノ手續ヲナシ所轄警察署ニ進達スヘシ

附録第一號 火藥類買賣高統計表様式

(△印ハ朱書)

種	類	前年ヨリ越高	買入高	賣出高	年末現在	營業者住所氏名
	明治何年中					
	何警察署					

買受人の心得	
一表面ノ火薬類ヲ買受シルトキハ此許可証ヲ火薬類買買 營業者ニ交付スヘシ 二此許可証ヲ亡失シタルトキハ速ニ當署ニ届出ヘシ	
第何號	明治何年何月何日
諸願即決簿記載ノ番號ヲ記入ス 島根縣 何警察署 印	

附録第三號火薬類運搬許可証様式

火薬類運搬許可証		諸願即決簿 ト押切
運搬人	種類	数量
何縣何市郡何町何番地 何	一 火薬 何十貫目 一 雷管 何万个 一 何々	一 一 一
何年何月何日何時何地ヲ發シ何道筋ヲ經 テ何郡村泊何地ヨリ船積何地ニ着夫ヨリ 何地ヲ經テ何月何日何時何縣郡何町何某 所有火薬庫ニ到ル云云	運搬日時 及揚路 通其路	

裏面

第一	何	年	何	月	何	日
諸願即決簿記載ノ番號ヲ記入ス						
島根縣 何 警 察 署						
印						

運 搬 心 得

一 運搬中ハ此許可証ヲ携帶スヘシ
 二 此許可証ニ記載シタル運搬ノ日時及通路ハ私ニ變更スヘカラス
 三 運搬中ハ火氣ニ注意シ休泊ノ際ハ安全ナル場所ヲ選ビ看守人ヲ附スヘシ
 四 運搬ヲナスニハ鉄釘鉄輪ヲ用ヒサル木製鋼製若クハ亞鉛製ノ器ニ火藥類ヲ入レ其外部ハ越包若クハ繩卷トナシ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱ニ尺五寸水陸ヲ建テ護送人ヲ附スヘシ
 但船積スル時ハ明治六年ハ第二百九十二號布告危害品船積法ニ從フヘシ
 五 運搬畢リテハ直チニ此許可証ヲ當署ニ返納スヘシ若シ當署所轄外ノ地ニ運搬シタルトキハ其地ノ警察署又ハ分署ニ納ムヘシ

●告示第六十九號 明治二十一年六月二十五日
 火藥取締規則第三條ニ依リ陸軍省ハ砲兵第一方面及第二方面海軍省ハ東京府下荏原郡海軍火藥製造所ニ於テ

火藥類拂下可相成ニ付該營業人ニテ拂下望ノ向ハ全所ニ出願スヘシ
 但出願之節ハ免許鑑札携帶スヘシ

●告示第六十二號 明治二十三年四月十五日
 明治二十一年六月告示第六十九號中砲兵第一方面及第二方面トアルヲ東京砲兵工廠及大坂砲兵工廠ト改ム

●島根縣告示第四百五號 明治二十七年九月十日
 明治二十七年七月陸軍省告示第十號但書ニ依リ火藥類ノ拂下ヲ願出ツルトキ當署ノ証明書ヲ要スル者ハ拂下ヲ受ケントスル火藥ノ種類數量^{數月ノ需用ニ涉ルモノハ}並ニ使用ノ目的ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ其下付ヲ請フヘシ

●島根縣訓令保第一九號 明治二十七年九月十日
 明治二十七年九月島根縣告示第四百五號ニ依リ証明書下附ノ請求書ヲ請ケタルトキハ速カニ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

狩 獵

●島根縣令第二十七號 明治二十八年四月六日
 狩獵法ニ關スル願届手續左ノ通定ム但明治二十五年十一月本縣令第四百四號狩獵規則ニ關スル願届手續廢止ス本令ハ明治二十八年四月十日ヨリ施行ス

●狩獵法ニ關スル願届手續
 第一條 左ニ掲ケル願届ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ
 一 狩獵法第六條第一項ノ狩獵免狀下付願
 二 狩獵法施行細則第六條ノ禁獵制札建設願

但願書ニハ制札建設ノ個所並禁獵ヲ要スル區域ノ廣袤等ヲ記載シタル圖面ヲ添フヘシ又建設ノ許可ヲ受ケタルトキハ狩獵法施行細則第七條ノ雛形ニ依リ制札ヲ調製シテ差出シ其記入ヲ受ケヘシ

三 狩獵法施行細則第八條第一項ノ共同狩獵地免許願及同條第二項ノ共同狩獵地免許繼續願

四 狩獵法施行細則第十條第一項ノ共同狩獵地區域變更願及同條第二項ノ共同狩獵地廢止願

第二條 左ニ掲クル願屆ハ當初狩獵免狀ヲ下付シタル警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

一 狩獵法第十三條第二項ノ狩獵免狀再渡又ハ書換請求書

二 狩獵法施行細則第五條ノ狩獵免狀ヲ受ケタルモノ、族籍氏名ノ變換又ハ住所移轉屆

第三條 左ニ掲クル屆ハ便宜駐在巡查ニ差出スコトヲ得

一 狩獵法施行細則第十一條ノ共同狩獵地木標建設屆

但屆書ニハ木標ノ員數、木標間ノ距離等ヲ記載スヘシ

二 狩獵法第十三條ノ狩獵免狀亡失地ニ於テ爲スヘキ免狀亡失屆及亡失免狀發見屆

三 狩獵法施行細則第十九條第一項ノ保護鳥獸ノ飼養現在屆及同條第二項ノ保護鳥獸ノ蕃殖又ハ斃死屆

四 狩獵法施行細則第二十條ノ保護鳥獸販賣屆

第四條 狩獵法施行細則第九條ニ依リ縣廳ノ管轄ニ屬スル官有森林、原野、水面等ノ使用許可ヲ受ケントスルモノハ其願書ヲ作り市役所町村役場若ハ戶長役場及島廳郡役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第五條 學術研究其他特別ノ理由ニ因リ狩獵法施行細則第十四條乃至第十七條ノ鳥獸捕獲ヲ要スルモノハ其理由、鳥獸ノ種類、員數及捕獲ノ方法、期限^{三週日以内}ヲ記載シタル願書ヲ作り所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

有害鳥獸ヲ驅除スル爲メ必要ノ場合ニ於テモ亦其被害ノ狀況並驅除ノ方法、期限及場所ノ區域ヲ記載シタル願書ヲ作り前項ノ手續ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

第六條 前條許可ヲ受ケタルトキ第一項ニ該ルモノハ捕獲シタル鳥獸ノ種類^{雌雄、壯壯}、員數ヲ記載シ許可期限

廿八年保第
十五號參照

後五日以内ニ第二項ニ該ルモノハ前月中驅除シタル鳥獸ノ種類、員數ヲ記載シ毎月五日限リ其許可ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ但本條ノ屆ハ便宜駐在巡查ニ差出スコトヲ得

●島根縣保第十二號 明治二十八年四月六日 警察署 警察分署

狩獵法取扱手續別紙ノ通定ニ但明治二十五年十一月本縣訓令保第二十號狩獵規則取扱手續廢止ス

右訓令ス

(別紙)

狩獵法取扱手續

第一條 狩獵免狀ノ下付願ヲ受ケシルトキハ狩獵法第六條第八條第九條及狩獵法施行細則第三條等ニ依リ調査シ免狀ヲ下付スヘシ

第二條 狩獵免狀ヲ下付スルトキハ免狀ヲ受ケルモノ、住所、氏名、免狀ノ種類、免許税ノ等級、税金額、免狀下付ノ年月日ヲ記シ其都度本人所轄ノ收稅署ニ通知スヘシ

第三條 免狀原簿ヲ備置キ免狀下付ノ際之ニ免狀ノ種類、番號、獵者ノ住所、族籍、職業、氏名、年齢及收稅署ニ通知シタル年月日等ヲ登錄シ其他免狀ノ亡失、再渡、書換又ハ獵者ノ族籍、氏名ノ變換、住所ノ移轉等ノ事故ハ遺漏ナク其時々登錄スヘシ

第四條 免狀ニハ獵者ノ住所、族籍、職業、氏名及年齢ヲ記入シ署印ヲ以テ免狀原簿ト割印スヘシ

第五條 免狀亡失屆ヲ受ケタルトキハ其種類、番號及亡失者ノ住所、族籍、職業、氏名、年齢及亡失ノ年月日ヲ速ニ警察署ニ報告スヘシ其發見シタルトキ亦同シ

第六條 免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年五月三十一日限リ警察署ニ請求スヘシ

第七條 獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ及概算ヲ以テ領收シタル免狀ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ斷裁スヘシ但斷裁シタル剩餘免狀ノ種類、番號、員數等ハ第八條ノ免狀統計表ノ欄外ニ附記スヘシ

第八條 免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ毎年甲種ハ十月三十一日マテ乙種ハ四月三十日マテニ警察署

●第九類 ○警察 ○狩獵

備考									

第三號表式 (用紙半紙)

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

何警察署(又ハ警察分署)

種目	一	二	三	等	計
免狀受取高					
免狀下付高					
免許稅					
免狀再渡高					
免狀再渡手數料					
狩獵禁止地名	新設地名	解除地名	何々	何々	

鳥根縣保第十五號

明治二十八年四月二十七日

警察署 警察分署

明治二十八年四月本縣保第十二號訓令狩獵法取扱手續第二條中種類ノ下ニ「番號」ノ二字及同條末尾ニ「但免狀ノ再渡又ハ書換ニ依リ免狀番號ニ異動ヲ生シタルトキ亦本文ニ準シ通知スヘシ」ノ三十八字ヲ加フ右訓令ス

乙第六十四號

明治十一年五月十七日

各區區長

內務省官林掛リ官吏官林巡視ノ節猛獸ノ害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除クヘキメ其區域內ヲ限リ銃獵被差許左記雛形ノ通豫ヲ鑑札渡置候旨同省ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

第何號

官林除害銃鑑札

內務省地理局

何等官姓名

年 月

內務省

鳥根縣訓令保第三十三號 明治二十四年八月十三日 警察署 分署

明治十四年五月丙第九號農商務省達官林除害銃鑑札從來下渡有之分ハ其儘使用セシメ自今下渡ノ分ハ左記雛形ノ通改正シタル旨農商務大臣ヨリ達セラレタルニ付此旨心得ヘシ

雛形(用紙厚西洋紙) 縦一寸五分 横一寸五分

第 號

官林除害銃鑑札

官 姓名

黑色花紋形

農商務省

表ニ全シ

第九類 警察 狩獵

行フヲ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ譲ル可シ

第四條 司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ秘密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス

第七條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪証湮滅、人心動搖ノ弊ナカランメ且被告人其

他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第八條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可ラス又濫ニ人ノ隱微ヲ許シコトナキ

ヲ要ス

第九條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ス

第十條 司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲サ、ル可カラス

第十一條 司法警察官ハ專ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クコトニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢査スルコトハ多數ナ

ルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條 奸惡ノ徒ハ巧ニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スル

コトニ注意ス可シ

第十三條 司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待テ可キモ

ノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ捜査ニ着手セサル可カラス

第十四條 司法警察官、被告人又ハ被害者ト親屬若シハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ

他ノ司法警察官ニ讓ル可シ

第十五條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ証票ヲ携帶ス可シ

若シ請求スル者アルトキハ之ヲ示ス可シ

第十六條 司法警察官職務ヲ行フニ際ニ必要トスルトキハ警察署、憲兵屯營ニ照會シテ巡査、憲兵上等兵ヲ使

用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フヲ例トス但假豫處分ヲ除ク外時宜ニ依

リ他ノ管轄區域内ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條 司法警察官捜査ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付テ制限アルコトナシ

第十九條 司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域内ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付補助ノ求メアルトキハ之

ニ應ズ可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條 司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ

一 刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪

二 高等官、華族、有位勳者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪

三 外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪

四 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

第二十一條 陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪處分例ニ從ヒ處分ス可シ但歸休兵及

豫備、後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ニ在ラサル者並ニ在官、現役又ハ召集中罪ヲ犯シ免官、免役、若シハ解散ノ

後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ依ル

(參照)

陸軍治罪法

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢証ノ處

分ヲ爲シ調査ヲ作リ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ノ之ヲ送致

ス可シ

第四十三條 豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發覺ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若ク

ハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ノ之ヲ交付ス可シ

第九類 ◎司法警察

海軍治罪法

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假シテ訊問及ヒ檢証處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍々人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

海軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

明治七年太政官第百二十八號達

司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲法ヲ以テ稱職スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴張スル時ハ其家族並ニ公使館屬員官屬員公使ノ僕隸書記官ノ家族及書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ全様ナリト思科スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シタルヲ得サル時ハ外務省ヲ歴テ公使館ニ報知シ其唯諾ヲ待テテ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ニ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置シ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置シ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞知ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道ニ照會ヲ送ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ニ全道シ右ノ如ク處置ス可シ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ニハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ニ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲ス可シ

外國公使館員罪ヲ犯シ並犯罪ノ內國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確証アリテ片時モ猶豫ナシカタク時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ニ報知ノ上全館ニ引渡シ又外務省ニ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手續捕縛等ノ事アル可カラス或ハ屬員ノ內國人ハ引留置即刻公使館ニ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明シニ其罪科ノ知レタル內國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルトキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ニ報知シ全館ニ照會ヲ乞館主ニ引渡ヲ要求シ其人ヲ受取リテ後之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムトキハ其旨ヲ猶外務省ニ報知シテ其處分ヲ定

第二十三條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身体、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用ス可カラス

第二十四條 司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日、場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ

又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀ミ得可キ爲メ其字体ヲ存ス可シ

凡テ書類ハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ要ス

第二十五條 被告人、証人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル書類ハ之ヲ本人ニ讀聞カセ署名捺印セシム可シ若シ本人署名捺印スルコト能ハサルトキ又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印若シ捺印セシムタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編 捜査

第一章 捜査着手

第二十六條 捜査ハ犯罪ノ証憑及ヒ犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第二十七條 捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第二十八條 告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモ之ヲ受ケ宜シシ實ニ從テ處分ス可シ

第二十九條 告訴、告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ着手ス可キ事件ナルト否トニ拘ハラズ之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セザル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ調書ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシム又ハ其調書ヲ作ル可シ

第三十三條 告訴、告發ヲ受ケルコトキハ成ル可シ犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、証人ノ住所、氏名其他証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立テシメ調書ヲ作ル可シ

第三十四條 被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其原因ニ出ツルナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可シ失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シタルカ爲メ後難ヲ畏ルル模様アルトキハ其氏名ヲ顯ササルコトニ注意ス可シ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシム可シ但法律上代理人告訴ヲ爲ストキハ此限ニアラス

第三十七條 告訴、告發ノ取下アルモ其書面ハ返附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印シタル取下申立書ヲ差出サシム可シ口述ヲ以テ取下ヲ爲ストキハ其申立ニ付キ調書ヲ作ル可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル事件ニ付キ一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ捜査ニ着手ス可シ

第三十九條 犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其陳述ヲ録取ス可シ

第四十條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ起ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡不盡ニ注意ス可シ

第四十一條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説アルトキハ其出所、原因等ヲ取調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條 變死、創傷者アリタルトキ又ハ隠匿、埋藏物等ヲ發見シタルトキハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ニ注意ス可シ

第二章 捜査處分

第四十三條 捜査處分ハ犯罪ノ原由、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被告人ノ氏名、年齢、職業、出生ノ地、住所、本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ証人ノ誰タルコト其他証憑ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ注意ス可シ

第一節 証憑及ヒ犯人ノ捜査

第四十四條 犯罪ノ場所又ハ証憑物件所在ノ場所ニ就キ捜査ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ爲スコトヲ得但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルトキハ其戸主又ハ保管者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取ス可シ

第四十五條 犯罪ノ事實ヲ証明ス可キ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目録ヲ作り所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條 前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

第四十七條 捜査上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ル可シト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若シハ其所在ニ就キ陳述ヲ聽クコトヲ得但呼出ヲ爲スニハ書面又ハ口頭ヲ以テ報知ス可シ

又其承諾ヲ得テ犯罪其他ノ場所ニ公行スルコトヲ得

第四十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取ス可シ

事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面ヲ差出サシムルモ妨ケナシ

第四十九條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ爲サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ之ヲ差出サシム

ム可シ

第九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシム可カラス但腐敗其他ノ原由ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラザルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢察ノ許可ヲ受ク可シ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ爲サシム可カラス

(參照)

明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ

原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢察 檢察派出ナキ地
方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコ

トヲ得

第二節 被告事件送致

第五十二條 被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致ノ手續ヲ爲スコシ但送致後ト雖モ必要ナルトキハ仍ホ捜査ヲ爲スコシ

被告事件ヲ送致スルトキハ証憑物件及ヒ意見書ヲ添ヘ且參考ト爲ル可キ事項ヲ報告ス可シ

第五十三條 重罪、輕罪ノ捜査ヲ爲シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所檢察局ニ送致シ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲スコキ官署ニ送致ス可シ

第五十四條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯罪ニ付テハ捜査ヲ爲シタル者ヨリ其事件ヲ其地ノ地方裁判

所ノ檢察局ニ送致ス可シ但急速ヲ要スルトキハ直チニ管轄領事廳所在地ノ地方裁判所ノ檢察局ニ送致スル

コトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其地ノ地方裁判所ノ檢察局ニ其旨ヲ報告ス可シ

第三編 假豫審

第五十五條 司法警察官重罪、輕罪ノ現行犯、准現行犯ニ付キ刑事訴訟法第四百七條ノ處分ヲ爲スヲ假豫審

トス

第九類 ○司法警察

第五十六條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハズ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 准現行犯ニ付テハ成ル可ク被告人ヲ逮捕シタル後假豫審處分ヲ爲スコシ但數人共犯ノ場合ニ於テハ他ノ正犯、從犯未ダ捕シ就カスト雖モ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 假豫審ニ著手シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 假豫審ニ著手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲ爲サントスルトキハ速ニ之ヲ讓ル可シ

第六十條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル証憑ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ付テモ亦其取調ヲ爲スコシ

第六十一條 假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ル可シ但時宜ニ因リ巡查、憲兵上等兵等ヲシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

第六十二條 假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲ爲スコシ

第六十三條 假豫審ニ著手シタル後其取調ヲ繼續ス可キモノニ非スト思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ放免シ其旨ヲ檢事局ニ通知ス可シ

第六十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除ク外現行犯ノ場合ト雖モ捜査處分ニ止ム可シ

第一章 檢証、搜索及物件差押

第六十五條 假豫審ニ付テ事發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢証ヲ爲スコシ

第六十六條 假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身体及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ノ處分ヲ爲スニハ戶主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ル可ク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトナキヲ要ス

第六十八條 事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ル可ク住居、身體又ハ物件ニ就キ搜索ヲ爲サズ本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシム可シ

第六十九條 被告人ニ非サル者ノ住居、身體又ハ物件ヲ搜索スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ル可シ

第七十條 住居内ノ檢証、搜索、物件差押ニ付テハ戶主又ハ全居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴、瘋癲、幼年者ナルトキハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシム可シ

第七十一條 官署、公署ニ於テ檢証、搜索、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ立會アルコトヲ要ス

第七十二條 檢証、搜索ノ場所ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押フ可シ

第七十三條 檢証、搜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ証人ノ陳述ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條 住居内ノ檢証、搜索、物件差押ハ日出前、日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但急速ヲ要スル場合ニ於テ

戸主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ検証、搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 旅店、割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ検証、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限り検証、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 住居内ノ検証、搜索、物件差押ヲ爲スコハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用ヒ溢ニ門戸、牆壁、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類、物件ノ紛失、毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 検証、搜索、物件差押中雜沓、喧噪其他妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止ス可シ又何人ニ限ラズ允許ヲ得シテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條 検証、搜索、物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事故アリテ之ヲ停止スルトキハ証憑滅滅ヲ豫防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十條 住居搜索ヲ爲スコハ其目的トスル所ノ書類、物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘシト思料スル場所ニ限ル可シ

第八十一條 検証、搜索、物件差押ヲ爲シタルトキハ其調書ヲ作ル可シ
差押ヘタル物件ハ其目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抜書又ハ原本ヲ渡スヘシ

第八十二條 差押ヘタル物件ハ散佚、毀損ヲ防ク爲メ認印若クハ封印ヲ爲シ且其差押ヘテ爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付ス可シ
又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スヘシ

第八十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラス
書類、電報、物件ヲ受取リタルトキハ其證書ヲ渡ス可シ

第八十四條 差押ヘタル物件ト雖モ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命ジ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章 証人訊問

第八十五條 仮豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ証人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スコトヲ得

証人檢証、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 証人ニハ先ツ其氏名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條 証人ヲ訊問スルニハ成ル可シ解シ易キ言語ヲ用ヒ溢ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第八十八條 証人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辨駁、討論ヲ爲スコカラス若シ其陳述他岐ニ涉ルヒキハ之ヲ止メ齟齬アルトキハ之ヲ質ス可シ

第八十九條 証人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ル可シ被告人又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問ス可シ但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 証人ヲシテ証據物件ニ付キ証明セシムルコトヲ要スルトキハ成ル可シ其物件ヲ示ス可シ

第九十一條 証人ヲシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ証明セシムルコトヲ要スルトキハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條 証人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可シ

●第九類 ○司法警察

第九十三條 証人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其調書ヲ作ル可シ
証人其陳述ヲ變更、増減セシムコトヲ申立タルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ調書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十四條 仮豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスルトキハ醫師、穩漢、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干渉ス可カラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ

鑑定書ニハ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシム可シ

第九十八條 鑑定書ニ不明、不備ノ點アルトキハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添置ク可シ

第四章 被告人逮捕

第九十九條 禁錮以上ノ刑ヲ該ル可キ現行犯、准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕ス可シ但被告人ノ身分又ハ事件ノ模様ニ因リ其逮捕ヲ必要トセサルトキハ此限ニアラス

第一百條 現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前、日没後ハ戸主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ非ハレハ他人ノ家宅内ニ進入ス可カラス

第一百一條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フ可シ

第一百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ヲ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託ス可シ

若シ其事件急遽ヲ要スルトキハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ勾引狀ヲ發行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第一百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ留置場ニ入レ置シコトヲ得

第一百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲ス可シ

勾引狀ナシニテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦全シ

第一百五條 常人ニ於テ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ル可シ

第一百六條 現行犯、准現行犯ニ付キ巡查、憲兵上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ル可シ

逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ之ヲ調書ニ添置クヘシ

第一百七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ年月日時ヲ記載スヘシ其氏名分明ナラサルトキハ容貌、体格等ヲ明示スヘシ

第一百八條 勾引狀ハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

第五章 被告人訊問
第一百九條 仮豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢証

、搜索、物件差押及ヒ証人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス
第一百條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問スヘシ
一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
二 有位又ハ帶動者ナルヤ否
三 前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑名、裁判言渡ヲ爲シタル處名及ヒ其年月日

第一百十一條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一様ノ訊問ヲ爲スヘカラス
第一百十二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フヘカラス又簡明ヲ旨トシ勉メテ疑似ニ
涉ルコトヲ避クヘシ
第一百十三條 被告人ニハ自由ニ發言セシムヘシト雖モ餘事ニ涉ランメケルコトニ注意スヘシ
第一百十四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同事ニ數事項ヲ訊問スヘカラス
數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ルヘク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フヘシ
第一百十五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ルヘク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防クヘシ且輕シ事實ヲ得ヘシト思料ス
ル者ヨリ訊問ヲ爲スヘシ

第一百十六條 証憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辨解ヲ爲サシムヘシ
第一百十七條 事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ証人ト對質セシムヘカ
ラス
第一百十八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ
第一百十九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其言語、氣色等ニ注意スヘシ
第一百二十條 被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ眞實ト做スヘカラス其白狀ニ適應スル証據ノ有無ヲ取調フルコ
トニ注意スヘシ

第一百二十一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作り問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載スヘシ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ
島根縣訓令保第二十號 明治二十六年十月二十一日
島 縣 郡役所 市役所
戶長役場 町村役場
司法警察官執務心得別冊ノ通司法大臣ヨリ訓令アリタルニ付此旨心得ヘシ
(別冊ハ訓令保第十八號ト同文ニ付答ス)
乙第二十二號 明治十五年三月一日 郡町村
郡長又ハ警部アヲル地ノ戶長司法警察官トシテ現行及準現行犯ヲ處分スルニ方リ一時被告人ヲ留置スル場
合ニ於テ其留置中並檢事ニ送致スルニ巡査不在等ニテ細取入ヲ以テスルトキ被告人ノ賄料細取入雇給等ハ郡
役所又ハ戶長役場費ヨリ支辨スル儀ト心得此旨相違候事
訓令警第二十九號 明治二十二年七月十日 警察署 分 署
刑法第四百二十七條第十及明治十九年内務省分第十九號第一條乃至第四條ノ違犯者ヲ明治十八年第三十一號
布告違警罪即決例ニ據リ即決シ其裁判確定シタル時ハ其都度犯人本籍地ノ市役所戶長役場町村役場ニ通知ス
ヘシ
訓令警第四十三號 明治二十二年十一月十八日 警察署 分 署
海軍々人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時ハ從來橫須賀鎮守府軍法會議ニ送致シ來リタル所明治二十二年七月東
京吳、佐世保ノ各地ニ軍法會議開設後モ仍ホ橫須賀ニ向テ送致シ來リ候モノ有之趣自今海軍々法會議ノ管轄
ニ屬スル犯罪者ヲ逮捕シ或ハ其自首ヲ受ケタル時ハ其最近ノ軍法會議若シハ被告人ノ所屬長ニ送致スヘキ儀
ト心得フヘシ
但海軍諸官ヨリ逮捕ヲ囑托シタル者ハ其囑托シタル諸官ニ送致スヘシ
訓令警第六號 明治二十二年一月二十四日 警察署 分 署
清國人帝國內ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シ治罪法第百條第百一條ニ相當シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ逮捕其他警察

上ノ處分ヲ爲スヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ其處分方ハ司法警察訓則第四百七條ノ區分ニ從フヘシ

明治二十三年十二月十九日

警察署 分 署

○訓令警察第四十六號 警察署分署ニ於テ警察部不在ノ時ハ明治十四年司法省內第十三號達ヲ準用シ巡查部長ニ限リ警察代理ヲ命ジ司法警察事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得ヘシ

但輕易ノ檢証ハ一般巡查ヲシテ警察代理ヲ命ジ處分セシムルコトヲ得

何(松江、今市、大森、警察署)

●島根縣訓令保七號 明治二十四年三月七日

檢事ニ於テ現行犯ノ被告入ヲ受取リタルトキハ二十四時間以内ニ訊問シタル後ニアラサレハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得スト雖已ヲ得サル事故アリテ即時訊問スルコト能ハス一時其儘留置セサル可カラサル場合ニ於テハ警察署内ノ留置場ニ留置スル密ニ付其打合せアリタルトキハ實際不便ナキ様取計フヘシ

警察署 分 署

●島根縣保第三十二號 明治二十八年十月四日

叙功者犯罪取扱方ハ勳六等以上ノ者ト同一ニスヘシ

右訓令ス

明治十三年十月七日

警察本署 各警察署

●警第四十六號 郵便遞送ノ遲速ハ公衆ノ便否關係不尠ニ付以本郵便脚夫郵便物遞送途中裸體等ノ態ヲ以テ拘引ノ節ハ其氏名ヲ留置キ其所携ノ郵便物ハ必ス遲達ヲ送ケン然後犯則ノ餘取調候様可致此旨相達候事

●警第五十號

明治十八年十二月二十四日

警察署

郵便物遞送人及其集配人等遞送集配ノ途中罪ヲ犯シ又ハ曾テ犯罪ノ態アリテ司法警察官若クハ巡查ニ於テ直チニ之ヲ逮捕又ハ引致スル場合ニ於テハ臨時代夫ヲ使用シ遞送人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局ニ又集配人ノ携帶セルモノハ所轄郵便局ヘ速ニ送達セシメ該費用ハ其都度縣廳ニ申請スヘシ

右相達候事

違警罪目

○縣令第八十七號

明治二十二年六月十日

島根縣違警罪目別紙ノ如ク改定ス

(別紙)

島根縣違警罪目

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 富鐵類似ノ所業ヲ爲シタル者

二 墓地及埋葬取縮規則ヲ犯シタル者

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 價差ノ飲食物ヲ販賣シタル者

二 病ニ斃レタル食獸魚類ヲ食用ノ爲メ販賣シタル者

三 生河豚ヲ食シ又ハ賣買受與シタル者但漁人又ハ商人ノ間ニ於テ乾魚ノ爲メ賣買スルハ此限ニテラス

四 縣廳島廳市郡役所警察署警察分署監獄町村並戸長役場等ノ召喚ヲ受ケ正當ノ事故ナクシテ之ニ應セサル者

五 縣廳島廳市郡役所警察署警察分署監獄町村並戸長役場等ニ對シ故ヲニ不實ノ申告ヲ爲シタル者

六 族籍住所氏名ヲ詐稱シテ宿屋ニ宿シタル者

第三條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 毒藥並激烈ノ藥物ヲ用キ魚鳥ヲ捕ヘタル者

第九類 ○違警罪目

廿五年縣令
第三十七號
廿六年縣令
第七號
廿七年縣令
第七號
廿八年縣令
第七號
廿九年縣令
第七號

- 二 他人又ハ組合ノ田水ヲ斷ナク我田ニ灌溉シタル者
- 三 烈風ノ際濫リニ塵芥ヲ燒キ制止ヲ肯セサル者
- 第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
 - 一 旅行免狀ヲ有セサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者
 - 二 他人ノ所有地ニ溢リニ牛馬ヲ放飼シタル者但テ訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 - 三 強テ合力又ハ物品ノ購求ヲ乞ヒタル者
- 第五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
 - 一 河川湖水溝渠等ニ竹木瓦礫塵芥其他不潔物ヲ投棄シタル者
 - 二 夜間十二時後公衆ノ安眠ヲ妨グル場所ニ於テ歌舞音曲其他喧噪ヲ制止ヲ肯セサル者
 - 三 他人ノ山林ニ於テ枝葉ヲ拾取リタル者但テ訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 - 四 禁止ノ榜示アル場所ニ尿尿其他惡臭ヲ發スヘキ肥料ヲ載セタル船ヲ繫キタル者
- 島根縣令第三十七號 明治二十五年三月二十一日
- 島根縣令第九十七號 明治二十五年九月二日
- 島根縣令第九十七號 明治二十五年九月二日
- 島根縣令第九十七號 明治二十五年九月二日
 - 一 紙幣ニ摸擬シタル印刷物ヲ製造シ又ハ販賣シ又ハ授受シタル者
 - 二 異様ノ扮裝又ハ粗暴ノ舉動ヲナシテ路上ヲ徘徊シ制止ヲ肯セサル者
- 島根縣令第十七號 明治二十六年一月廿八日
- 島根縣令第八十七號島根縣違警罪目第二條第三項左之通改正ス
 - 三 內臟ヲ除去セサル河豚又ハ河豚ノ內臟ヲ食用ノ爲メ賣買受與シタル者
- 島根縣令第七十號 明治二十七年九月十八日

- 明治二十二年六月縣令第八十七號島根縣違警罪目第二條六項ノ次ニ左ノ三項ヲ追加ス
 - 七 官設ノ量水標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ毀損シタル者
 - 八 官設ノ雨量器ニ牛馬ヲ繫キ又ハ之ヲ毀損シタル者
 - 九 河川ノ沈床又ハ制水ニ舟筏ヲ繫キ又ハ木石薪炭等ヲ積ミ又ハ之ヲ毀損シタル者
- 島根縣令第二十九號 明治二十八年四月十一日
- 島根縣令第八十七號島根縣違警罪目第一條第三項廢止ス
 - 本令ハ明治二十八年四月十九日ヨリ施行ス
- 甲第二百二十七號 明治二十二年十一月二十四日
 - 旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行ノ節疾病其他不得已事故アルトキハ旅籠渡世ノ者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦候條同時ニ必其事故ヲ詳記シ戶長役場ニ可届出若シ滞留數日ニ及フトキハ七日毎ニ可届出此旨布達候事
- 甲第五十九號 明治十四年四月五日
 - 聖上及皇后宮ノ御眞影並錦繪團扇等
- 警第二號 明治十四年一月十四日
 - 掛合西郷ヲ除キ 各警察署
- 警第二號 明治十四年一月十四日
 - 國税金ノ儀本年一月以降大藏省各地爲替方ニ於テ現金遞送候ニ付爲替方ヨリ申出次第途中並宿泊中巡查ヲシテ護衛セシムヘキ旨其筋ヨリ達ノ次第有之右護衛申出方ノ儀別紙寫ノ通各爲替方ニ相達候條取計方左之通可相心得此旨相達候事
 - 一大藏省爲替方ヨリ護衛ノ申出ヲ受ケタル警察署又ハ分署ニ於テハ宿泊日割等ヲ詳記シ沿道警察署ニ速ニ報知スヘシ
 - 一前條ノ報知ヲ受ケタル警察署ニ於テハ日割ノ宿所ニ豫シメ巡查ヲ派遣シ又ハ其地ニ分署交番所等有之トキハ其所結巡查ヲシテ護衛ニ充ル等ノ手配ヲナシ臨時不都合ナキ様處置スヘシ

第九類 ◎違警罪目

一 巡查ノ護衛ハ途中並宿泊中トモ壹名宛トス尤夜中ハ該巡查ニ於テ不寢番ヲナス勿論ナルヘシ
但暴風雨等ノ節其他時機ニ依リ警察署ノ見込ヲ以テ増員スルハ固ヨリ妨ケナシ且又護衛巡查交代ノ方法
ハ該署ノ便宜ニ任ス

一 他府縣へ遞送スルトキハ國税金送リ出候地ノ警察署ヨリ該金納先圖迄ノ沿道警察本分署ニ當テタル添翰ヲ
爲換方へ下付スヘシ

但本文沿道ニ本縣警察署管轄地ノ地有之トキハ第一條ノ手續ヲモナスヘシ
添翰書式

大藏省爲換方何地第何國立銀行(或ハ何地出張店)ヨリ當何月何日發ニテ何地何所へ國税金遞送候ニ付途
中並宿泊中巡查護衛之儀可然御取計相成度此段及添書候也

年 月 日 島根縣 警察署印

何地ヨリ 何地何所ニ至ル

沿道各府縣

警察本分署御中

訓令警第一號

明治二十年一月十三日

各警察署

國庫金取扱所ノ出張場ニテ諸稅納期ニ際シ金員領收ノ節該出張場ヨリ最寄警察署又ハ分署若シハ巡查派出所
ニ取締方ヲ依頼シタルトキハ巡查ヲ派出シテ保護セムヘシ

甲第五十六號

明治十七年十一月二十二日

瘋癲人ヲ自宅ニ於テ鎖鑰セントスル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ親戚親戚ナキモハ連署戶長與印ヲ以テ所轄警察署
へ分署所轄内ニ於テ該署ノ經由 願出許可ヲ受クヘシ其鎖鑰ヲ解キタルトキ亦醫案ヲ添へ該署へ届出ヘシ

十八年甲第
三十八號參照

但明治十五年九月本縣甲第百四十四號布達中第二類第二項ハ削除ス
右布達候事

甲第三十八號

明治十八年二月二十三日

明治十七年十一月本縣甲第百五十六號布達中所轄警察署ノ下(分署所轄内ニ於テハ該署ノ經由)ノ十五字ヲ削除シ(又ハ分署へ)
ノ五字ヲ補填ス

右布達候事

縣令第九十七號

明治二十一年九月二十九日

新聞紙雜誌ヲ發行スル者ハ別紙書式ニ倣へ毎月發行高取調翌月三日限リ縣廳へ届出ヘシ
(書式ハ改正ニ付零ス)

縣令第二號

明治二十二年一月十四日

客年月縣令第九十七號新聞紙雜誌發行高届出書式別紙ノ通改正ス
(別紙)

其新聞紙(雜誌)配布數

明治

年

月分

配 布 先

配 布 數

何 府 縣

在 外 國 本 邦 人

計

外 國 人

第九類 ○違警罪目

廿二年縣令
第二號參照

合計

右御届申上候也

明治 年 月 日 發行人 何 某印
島根縣知事某殿

一本或中何府縣トアルハ本邦内配布先ノ府縣名ヲ記入スヘシ
一配布ノ項ニハ發賣スルモノ及ヒ發賣セシテ單ニ全社員ニ配布スルモノ並ニ無代價ニテ官廳ニ納付スルモノヲ合セテ記入スヘシ

●訓令警第三十八號 明治二十二年八月二十二日 松江警察署

自今縣廳管内ニ於テ遺失物ヲ發見シタルトキハ警察本部保安課ヨリ現品ヲ其署ニ送付セシメ又物主知レタルトキハ本人ヨリ直ニ物品ノ下付ヲ請求セシムヘキニ付夫々相當取計フヘシ

●訓令警第二十二號 明治二十三年五月七日 警察署 分署

警察署長分署長宅舎ノ設ケアル地ニ於テハ該署長必ス之ニ住居スヘシ

●訓令警第三十六號 明治二十三年十月三十一日 警察署 分署

罪科報告並受刑人名簿整理手續ヲ定ム

罪科報告並受刑人名簿整理手續

第一條 警察署分署ニ於テ重罪輕罪^{罰金ノ刑ニ該}ノ被告人ヲ訊問シ一件書類ヲ檢事ニ送致スルトキハ全時ニ罪科報告表^{以下報告表ト稱ス}ノ表面ニ式ノ如ク記入シテ之ヲ相當ノ監獄署又ハ監獄支署ニ送付スヘシ

第二條 監獄署又ハ監獄支署ニ於テ報告表ヲ受ケ被告人處斷セラレタルトキハ該表ノ裏面ニ式ノ如ク記入シ監獄署ハ警察署ニ濱田西郷監獄支署ハ所在地警察署ニ送付スヘシ

第三條 警察署分署ヨリ報告表ヲ送付セサル被告人ノ處斷セラレタルモノアルトキハ監獄署又ハ監獄支署ニ於テ報告表ノ全部ニ式ノ如ク記入シ第二條ノ區別ニ依リ送付スヘシ

第四條 警察署ニ於テ第二條ニヨリ報告表ヲ受ケタルトキハ最初之ヲ發シタル警察署又ハ分署ニ返還シ第三條ニ關スルモノハ本犯所轄ノ警察署又ハ分署ニ送付スヘシ

監獄支署所在地ノ警察署ニ於テ他署ノ發送又ハ所轄ニ係ル報告表ヲ受ケタルトキハ速ニ相當ノ警察署又ハ分署ニ送付スヘシ

第三條ニ關スル本犯他府縣ノ者ナルトキハ報告表ヲ警察署又ハ監獄支署所在地ノ警察署ニ保存スヘシ

第五條 最初報告表ヲ發シタル警察署分署ニ於テ其返還ヲ受ケタルトキ本犯所轄外ニ係ルモノハ署長報告表ニ認印シテ之ヲ相當ノ警察署又ハ分署ニ移スヘシ但他府縣ノ者ナルトキハ報告表ノ返還ヲ受ケタル署ニ保存スヘシ

第六條 警察署分署ニ於テハ隨時管區受持巡查ヲシテ市役所又ハ戶長役場町村役場ニ就キ他管所在ノ檢事ヨリ送致シタル處刑通知書ヲ謄寫進達セシムヘシ

第七條 警察署分署ニ於テ報告表及處刑通知書ノ寫ヲ受ケタルトキハ遺漏ナク受刑人名簿ニ登錄スヘシ但所轄外ノモノハ此限ニアラス

第八條 受刑人名簿ニ登錄シタル者所轄外ニ移轉又ハ寄留スルトキハ名簿ノ謄本ヲ作り相當ノ警察署又ハ分署ニ送付シ之ヲ受ケタル署ニ於テハ名簿ニ登錄スヘシ

第九條 警察署分署ニ於テ被告人訊問ノ末他管ニ引渡シタルトキハ受刑人名簿附録ニ式ノ如ク登錄シ後ノ參考ニ供スヘシ

第十條 警察署ニ於テ罪科報告ノ規約アル各縣ヨリ報告表ヲ受ケタルトキハ本犯所轄ノ警察署又ハ分署ニ移スヘシ

第十一條 第二條第三條ノ報告ニ關スル本犯罪科報告ノ規約アル府縣内ノモノナルトキハ警察署又ハ監獄支

●第九類 ●違警罪目